

ノ知ルト知ラサルトチ問ハス既ニ其財産ノ占有主トナルナリ(第二
帙三十五號參觀)

〔千八百八號〕第貳

占有ノ意志アリテ占有チ保存ス

占有チ保存スルハ之ヲ得ルヨリモ甚タ易シ占有チ得ルニハ占有ノ
意志ト所持トノ二ヲ要ス占有チ保存スルニハ唯意志ノ一アルヲ以
テ足レリトス○例之ハ茲ニ人アリテ占有シタル田地ノ收實チ止メ
之ヲ耕耘セス或ハ以前執行シタル土地ノ義務ヲ當時ニ執行セスト
雖モ未タ其占有チ失フニ至ラス唯占有スルノ意志アルヲ以テ之
占有ス然レモ毎日毎時其占有ノ意志チ新ニスルニハ及ハス自己ノ
意志ヨリシテ占有チ變シ之ヲ更改スルニ非サレハ法律上ニハ繼續
スル者トナス故ニ占有主ノ白癡ニ落チ收益ノ所爲チ止メ未タ後見
人ノ補助チ得サルノ時ト雖モ其人ハ占有チ失ハス

〔千八百九號〕

既ニ得タル占有チ保存スルハ唯意志有ルヲ以テ足レリ

ト云フ原則ハ下ノ二項アリテ之ヲ調和ス

第一 意志ノミニテ占有チ保存スルハ占有ノ未タ他人ノ手ニ落チ

サレ時ニ限ル○占有他人ノ得ル所トナリタル場合ニテモ法律上ニ

ハ夫レヨリ一年一日ノ間ハ占有チ保存スル者トナス何トナレハ若シ

占有主一年ノ間ニ占有ノ訴歟或ハ占有物ノ所有權要求ノ訴チ起シ

其願チ遂ケタル時ハ占有チ恢復シ嘗テ其占有チ失ハサル者ト看做

ス然ル時ハ占有ハ中絶シタル者ニ非サルナリ(第二千二百四十三條)

第二 意志ノミニテ爲ス占有ノ利益ハ現實ニ所持收益スル所ノ占

有ノ利益ト同一ナラス故ニ第二千二百二十九條ニ曰ク占有ハ繼續

スルニ非サレハ時効チ生セス夫レ占有ノ繼續トハ衆人皆知リ得

可キ相連續シタル收益ノ所作チ言フ然ルニ意志ニテナシタル占有

如何ニシテ占有ヲ得或ハ之ヲ失フ歟

ハ繼續ヲ顯セス故ニ時効ヲ生スルニ至ラス(千八百十三號千八百十
四號ヲ參觀)

(千八百十號) 第參

占有ヲ失フハ或ハ占有主ノ好意ニテ棄捨スルノ

時ニ在リ或ハ棄捨ノ意ナキモ他人ノ所爲ニ因テ失フヲ有リ

第一 占有主ノ好意ニテ占有ヲ失フ

人アリ占有ヲ讓ルノ意志有リテ他人ニ物ヲ讓渡ス其讓渡ニハ暗ニ

占有ヲ棄ルノ意有リ故ニ實際ニ此人ハ占有ヲ失フ何トナレハ自カ

ラ占有ヲ失フニ非サレハ其占有ヲ他ニ讓渡スヲ得サレハナリ其

讓渡ハ現行スルモ又約束ノミニ係ルモ其占有ヲ失フノ理ハ一ナリ

讓渡ヲ現行スル時ハ實體ノ占有ヲ失フ讓渡ヲ約束ノミニテ行フ時

ハ意志ニテノ占有ヲ失フ例之ハ甲乙ニ不動産ヲ賣リ契約ヲ以テ甲

三年ノ間借屋人或ハ借地人ノ名稱ニテ之ヲ所持スルヲ定メタリ

然ル時ハ甲ハ實際不動産ヲ所持スルト雖モ賣約ノ時既ニ其占有ヲ
失フ何トナレハ當時甲ノ所持ハ甲ノ爲メニスルニ非ス乙ノ物トシ
テ所持スレハナリ(千八百三號參觀)

(千八百十一號)

讓渡スルニ非シテ單一ノ棄捨ニ因テ占有ヲ失フ

有リ例之ハ我レニ什器アリ占有スルヲ好マス取テ之ヲ大道ニ捨タ

リ又我ニ相續ニ因リ得タル田地アリ然レモ其田地ノ耕耘シ難キ故

カ或ハ我レ其田地ノ他人ノ所屬タルヲ知ルノ故カ或ハ我レ他國ニ

移住シテ再ヒ此地ニ來ルノ念ナキノ故カニ由テ此田地ヲ捨テ耕サ

サル時ハ即チ單一ノ棄捨ニ因テ占有ヲ失フナリ○好意ニテ棄タル

占有ハ再ヒ得可カラス一旦道路ニ棄捨シタル物ヲ採リタル時ハ此

品物ノ占有ヲ新造スルナリ舊占有ハ既ニ消滅シタリトシテ之ヲ算

計セス假令ヒ棄捨ト占有再造ノ間時日一年ヨリ少ナシト雖モ亦之

如何ニシテ占有ヲ得或ハ之ヲ失フ歟

同シ故ニ第二千二百四十三條ヲ此ニ適用ス可カラス
〔千八百十二號〕 第二 他人ノ所爲ニ因テ占有ヲ失フ

占有物ノ上ニ收益ヲ止ムルト雖モ之ヲ以テ直ニ占有ヲ止メタリト
爲ス可カラズ何トナレハ一旦占有ヲ得ル以上ハ占有主ハ單ニ占有
ノ意アレハ之ヲ保存ス(千八百八號參觀然レモ占有ノ意志ト其物ヲ
自由ニ用フル權理ノニアルニ非サレハ占有ノ保存ヲ完全スルニ至
ラス故ニ占有若シ他人ノ手ニ落ルニ至レハ舊占有主ハ其占有ヲ失
フ然リト雖モ新占有主其占有ノ還與ヲ諾シ又ハ裁判ノ力ニ據リ舊
占有主占有ヲ取還ス等ノ事アリテ一年間ニ失亡ノ占有ヲ恢復シタ
ル占有主ハ是迄占有ヲ繼續シタル者ト看做ス決シテ其占有ヲ中絶
シタルニ非ス例之ハ甲乙ナル占有主ノ位置ニテ自己ノ物トシ自己
ノ名ニテ占有ス若シ乙ヨリ占有ノ還與ヲ一年ノ間ニ望マサル時ハ

乙ハ甲ナル他人ノ所爲ニテ占有ヲ失フ

○第四節 時効ノ基礎トナル占有ノ性質

第二千二百二(千八百十三號) 時効ノ基礎トナル占有ハ下六箇ノ性質ヲ有ス可シ

- 第十九條
- 第一 繼續コンチニユ
- 第二 不斷絕ノシ、エン、トロンヂユ
- 第三 安穩ベエジナル
- 第四 公明ビユアリツク
- 第五 所有者ノ名稱アナイトルド、プロプリエテール
- 第六 不曖昧ノシ、エキボツク

第壹 繼續

一度ヒ物件ノ占有ヲ得タル後ニ之ヲ失亡シ或ハ棄捨シ又再ヒ之ヲ
得ル時ハ其占有ハ繼續シタル者ニ非ス其失亡棄捨ノ時ト再得ノ時

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

トノ間ニ過キタル時日ハ時効ノ期限ニ算入スルヲ得ス但シ第二千二百四十三條ノ場合ハ此限ニ在ラス故ニ時効ハ法律ヲ以テ定メタル時間間斷ナク繼續シタル占有ニ由テ完全ス

然レモ唯、占有ノ意志ノミニシテ法定時間經過シタル占有ハ時効ノ基礎ト爲ルニ充分ノ者ニ非ス何トナレハ單ニ意志ノミニテ保ツタル占有ハ第二千二十九條ニ謂フ所ノ占有ノ繼續シタル者ニ非サレハナリ左レハトテ又占有主ハ毎日毎時間斷ナク占有物件ヲ自用ス可シト言フニモ非サルナリ例之ハ茲ニ田畝ヲ占有スル人アル時ニ其占有ヲ繼續スルニハ斷ヘス田面ヲ修理シ耕耘收穫ヲ止メサル可シト言フニ至テハ占有繼續ノ意味ヲ激張スル者ニシテ若シ此說ノ如クナラハ遂ニ時効ヲ生スル場合ハ一モ無キニ至ラン繼續ノ

質ヲ具フルニハ唯、世人ノ目ニ繼續スルト見ル丈ケノ相近接シタル收益ノ外容アル所爲ヲ以テ足レリトス一時ノ所爲ト相遠リタル重複ノ所爲ハ二ナカラ占有ニ繼續ノ性質ヲ付與スル能ハス之ヲ縮言スレハ如何ニモ所有權アリト想像ス可キ外容アル占有ニ非サレハ時効ノ基礎トナラス故ニ占有主若シ時効ヲ生セシメント欲スレハ時効ノ期內ニ所持シタル物件或ハ執行シタル權利ハ現實既ニ屬スル者ノ如ク其自然ト其用處ニ隨ヒ利益ヲ收メタルヲ必要ナリトス是ヲ以テ今吾レ占有ノ繼續ノ義解ヲ下ス曰ク時効ニ必要ナル時間世人ノ見テ近接シタル所爲ナリト考フル程ノ事ヲ爲シテ經過シタル占有ヲ繼續ノ占有ト謂フ

〔千八百十四號〕繼續ノ字ヲ上文ノ意味ニ解スレハ繼續ノ性質ハ權利ノ何ノ種類ヲ問ハス繼續ナキ土地ノ義務ニ至ル迄存スル者ナリ

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

此説ハ世人ノ論スル所ト相反スト雖モ論旨ノ虚誕ナラサルヲ見出
 スハ甚タ易シ上文既ニ見ル如ク家宅田畝森林ノ占有ヲ繼續スルニ
 ハ間斷ナク家ニ住シ毎日毎時田ニ在テ耕耘蒔耨シ又毎日毎時林ニ
 入テ材木ヲ伐ルニハ及ハス唯占有主ハ占有物ノ自然ト用處ニ循テ
 收益ノ所爲ヲ行フヲ以テ足レリトス此説ヲ通行ノ土地ノ義務ニ當
 ツルモ亦同シ此土地ノ義務ノ繼續占有ヲ得ル爲メニハ毎日毎時供
 用シタル土地ヲ絶ヘス往來スルニハ及ハス其權ヲ有スル人ノ土地
 ノ耕作ニ必要ナル通行ヲ爲シ誰ヨリ見テモ現實權利ヲ有スルト見
 ヲル丈ケニ其權ヲ執行スレハ繼續ノ性質ヲ得ルニ足レリ
 故ニ繼續無キノ土地ノ義務ニ時効ヲ生セサル理由ハ第二千二百二
 十九條ニ記スル繼續ノ性質ノ缺虧ニ非スシテ第二千二百三十二條
 ニ附テ詳説シタル(千八百三十七號參觀)他ノ理由ニ基クナリ

第二千二百三十四條

(千八百十五號) 占有ノ繼續ヲ證スルハ時効ヲ申立ル人ニ在リ左ノ證
 據ヲ上ク可シ

第一 當時占有スル事

第二 何ノ時ニ占有ヲ始メタル事

第三 始ヨリ今日迄ノ間所爲ヲ止メサリシ旨ヲ證明ス可キ歟此第

三ノ證據ノ如キハ出ス能ハサル程ノ難キ者ナリ故ニ法律ハ占有主
 ノ爲メニ推測ヲ設ケテ舊ヨリ占有スルト證シタル現今ノ占有主ハ
 其中間ノ時ハ占有ヲ繼續シタル者ト看做シ占有ノ繼續セサル旨ヲ
 申立ル人ヨリ不繼續ノ證ヲ出ス可シトス

(千八百十六號) 第貳 不。斷。絶。

繼續ヲ分テ民法上ノ斷絶自然上ノ斷絶トス(第二千二百四十三條)
 下ノ二項ノ場合ニ在テ占有ヲ斷絶スルヲ民法上ノ斷絶ト謂フ

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

第一 占有主自カラ債主又ハ所有權ヲ表認シタル時(第一千二百四十八條)

第二 所有者ヨリ占有主ニ對シテ裁判所ニ出訴シタル時(第二千二百四十四條)

以上二ノ所爲アル時ハ假令ヒ占有主ニ占有ノ意志アリ又繼續ノ性質ヲ具フルコ適當ナル收益ノ所爲ヲナシタリト雖モ占有ヲ中斷ス下ノ二項ノ場合ニ在テ占有ヲ斷絶スルヲ自然上ノ斷絶ト謂フ
第一 占有主好意ニテ占有物ヲ棄捨シタル時此棄捨ノ後一二日ヲ隔テ再ヒ之ヲ取タリト雖モ其中絶ノ理ハ一ナリ(第一千八百十一條參觀)

第二 所有者又ハ其他ノ人ノ爲メニ占有ヲ失ヒ一年間占有主ヨリ取還ヲ願出サル時(第一千八百十二號參觀)

(千八百十七號) 占有ノ不繼續ト斷絶ハ其所爲異ナリト雖モ其性質ハ

全ク同シキ者ノ如シ然レモ決シテ同シカラス以下ニ差別ヲ示ス

第一 占有ノ不繼續ハ物件ノ規則立タル收益ニ占有主ノ自カラ爲シタル中絶ナリ(千八百十三號、千八百十四號參觀)茲ニテハ占有ニ瑕疵アルノミニテ決シテ占有ヲ止メタルニ非ス占有ノ斷絶ハ占有ノ休止ニシテ占有者ノ收益ノ所爲ニ一ノ瑕疵アルノミ其瑕疵トハ乃チ占有ノ全キ破壊是ナリ故ニ占有ヲ人體ニ譬フレハ不繼續ハ疾病ニシテ斷絶ハ死亡ナリ

此ニ由テ之ヲ觀レハ不繼續ノ占有ト雖モ必ス中絶スルニハ非ス(何トナレハ畢竟瑕疵アリト云フモ占有ノ存在アリテ始テ生スル者ナレハナリ)又他ノ一方ニテハ占有ヲ斷絶スル以上ハ是非トモ繼續ノ質ヲ失フ者ナリ何トナレハ斷絶スレハ占有ハ存在セス存在セサル

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

以上ハ繼續スルノ理モ亦無シ

〔附言〕 諸氏ノ説ク所ニ據レハ不繼續ハ占有主自カラ好意ニテ占有ヲ棄ル時ニ在リ斷絶ハ他人ノ爲メニ占有主其占有ヲ失フタル時ニ在リ故ニ不繼續ハ占有主ノ所爲ヨリ生シ斷絶ハ他人ノ所爲ヨリ生ス

第二 不繼續ハ常ニ自然ニ生スル者ナリ蓋シ不繼續ハ占有主ノ無爲ニシテ占有物ヲ老實ニ用ヒス收益ニ間斷アルニ因テ生ス之ニ反シテ斷絶ニハ自然上ノ斷絶ト民法上ノ斷絶ノ二種アリテ盡トク自然ヨリ生スル者ニ非ス(第二千二百四十二條ヨリ第二千二百四十四條マテノ義解)

第二千二百三十三條

〔千八百十八號〕 第參 安穩

下ノ二ノ場合ニ在ル占有ハ安穩ノ性質ヲ缺ク

第一 占有ヲ得ル原ト暴行ニ因ル時(第二千二百三十三條)

第二 眞所有者ヨリ屢占有物ノ取還ヲ試ミ占有主之ヲ拒ムニ勢力ヲ以テスルニ非サレハ能ハサル時○故ニ相互ニ爭諍シテ繼續シタル占有ハ時効ノ基礎トシテ法律ニ於テ望ム所ノ安穩ノ性質ヲ有セス

〔附言〕 或曰ク暴行ニ因ラスシテ得タル占有ハ安穩ノ性質アリ又所有者ノ占有取還ニ抗スルニ勢力ヲ以テシテ而シテ占有ヲ保ツ時ト雖モ亦安穩ノ性質ヲ失ハス故何トナレハ暴人(此暴人ハ所有者ヲ指ス)來リテ占有ヲ押奪セントス占有主之ヲ拒ムニ勢力ニ據ルヲ見レハ占有主ニ所有權アルヲ甚タ明白ニシテ又何ソ疑ハシテ力ヲ拒ムニ勢力ヲ用フ又何ノ過失アラシヤ自防ニ勢力ヲ用フルハ實ニ是レ正當ノ權理ナリ若シ占有勢力ニ據ルノ件ヲ以テ安穩

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

ノ質ヲ失フト爲サハ是レ全ク擾亂ヲ受ケタル占有ヲ擾攪ヲ受ケ
 サル占有ヨリモ輕ク保護スルニ當ル何トナレハ茲ニ所有者アリ
 其所有物ハ他人ノ占有スル所タリ若シ果シテ此人ニ所有權アラ
 ハ當ニ裁判所ニ訴ヘ權利ノ在ル所ヲ確認セシムヘシ然ルニ今左
 ハナクテ屢勢カヲ以テ占有ヲ剝奪セント試ミタリ占有者ハ其勢
 カニ因テ占有ニ擾亂ヲ受ケ毎年害ヲ被ムル甚ナカラス夫レノミ
 ナラス時効ノ利益サヘモ失フナラハ何ソ法律ノ占有主ヲ保護ス
 ルノ薄キヤ所有者ノ暴行ヲ以テ時効ノ正シキ斷絶ト同視シ犯罪
 (暴行ヲ指ス)ヲ以テ却テ犯者ノ爲メニハ權利ノ原因トナス豈ニ怪
 異ナラスヤ

此非難ハ實ニ理アリ然レモ未タ法律ヲ改正スルニハ此論理ヲ以
 テ足レリトナサス古ノ學者言ヘルアリ曰ク若シ占有主所有主ノ

暴奪暴行ヲ受ケ口論爭諍シ與訟致詞ノ事アリテ占有靜安ナラサ
 ル時ハ安穩ノ性質ヲ失フ故ニ時効ノ基礎トナラス占有物ヲ取還
 ス爲メニ占有主ト所有者トナシタル爭論ハ占有ノ擾亂即チ自然
 ノ斷絶ナリ又占有主ト所有者ノ間ニ爲シタル催促又ハ訴訟等ハ
 占有ノ擾亂即チ民法上ノ斷絶ナリト余按スルニ佛國ノ民法ノ立
 法者ノ主トスル所ハ此論ニ在ルナラン

故ニ占有ヲ保持スル專ラ暴行ノ力ニ依ル者ハ時効ヲ生セス
 (千八百十九號) 羅馬法律ニ於テ暴行ヨリ生シタル瑕瑾ハ暴行止休ノ
 後ト雖モ存在シ剝奪サレタル所有者ノ手中ニ暴行ニテ取タル物ヲ
 返スカ或ハ雙方和談ノ後ニ非サンハ消失セサル者トス然レモ今日
 我法律ニハ之ト同シカラス暴行ヲ止休スル以上ハ其瑕瑾ハ消失シ
 是ヨリ後チ占有ヲ再始スルヲ得ルナリ

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

〔千八百二十號〕或曰暴行ハ其性質自カラ時日ヲ連續スル者ニ非ス
時トシテハ暴行ヲ爲シ暴行ノ目的ヲ達スルニ唯一瞬時ニテ充分ナ
ルヲ有リ然ルニ暴行止休ノ時ヨリ占有ヲ始ムルトセハ此暴行ハ何
等ノ妨礙ヲ時効ノ上ニ爲スカ眞ニ一二ノ瞬時ノ妨礙ニ過キサルノ
ミ

論者ノ說一般ニ是ナリ然レモ往々暴行ノ時日ニ亘ル者アリテ一年
間モ續クヲ有リ人ノ心意上ニナス暴行ノ如キ是ナリ又資産擅占ニ
因テ爲シタル實體ノ暴行モ是ナリ

〔千八百二十一號〕暴行ノ瑕瑾ハ人ニ對シテ別アリ故ニ其瑕瑾ヲ申立
ルノ權ハ獨リ暴行ヲ受ケタル人又ハ其代人ニ在ルノミ例之ハ甲乙
ノ占有ニ暴行ヲ加フ乙勢力ヲ以テ之ヲ退ク遂ニ亦來リ爭ハス故ニ
乙收益ヲ自由ニス其後甲ハ眞ノ所有者ナルヲ以テ取還ノ願ヲ爲

大
宣
後

シタル時若シ之ニ對シテ乙ヨリ時効ヲ申立タルヲ有ラハ甲ヨリ乙
ノ占有ハ暴行ヲ以テ保チシ旨ヲ證シ時効ノ申立ヲ退ク可シ甲ハ實
ニ心意上又ハ實體上ニ暴行ヲ受ケ之ニ抗シテ自己ノ權利ヲ用フル
能ハサル位置ニ在リト雖モ若シ乙ノ占有スル所ノ物件甲ノ所有ニ
非スシテ丙ニ屬シ丙占有ノ還與ヲ願フヲ有ラハ乙ハ丙ニ對シテ時
効ヲ申立ルヲ得蓋シ甲ニ對シテハ暴行ニテ占有シタレトモ丙ニ對
シテハ暴行ナケレハナリ

〔千八百二十二號〕第肆 公明

シユノ一氏曰ク占有ノ隱匿ハ時効ノ妨礙ナリ若シ他人ノ知ルヲ忌
テ竊カニ占有シタル時ハ唯恐ル物件ニ關係アル人其占有ニ故障ヲ
述ヘ得ル時ニ占有ノ有無ヲ知ラスシテ之ヲ述ヘス遂ニ時効ノ期ニ
至ラントナ故ニ隱匿シタル占有ハ幾數十年ヲ經過スルモ時効ノ基

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

トナラス占有者故サラニ占有ノ有無ヲ知ルニ利益アル人ニ占有ヲ
匿サ、ル時ハ其人ノ知ルト知ラサルトナ問ハス其占有ハ公明ナル
者トス

〔千八百二十三號〕占有ヲ得ルヤ隱匿ニ始マリ其後チ公然ノ占有トナ
リタル時ハ夫レ迄テ存在シタル隱匿ノ瑕瑾ハ全ク消失ス以後此占
有ヨリ時効チ生ス

始メ暴行ニテ得タル占有ハ暴行休止ヨリ後ハ通常ノ通り時効チ生
ス故ニ此理ヲ推及スレハ始メ隱匿ナルモ後チ公然ト占有スレハ時
効チ生ス可シ余カ爰ニ此理ヲ擴張スレハノ數語ヲ用ヒシ所以ハ此
理ニ據ル曰ク暴行ヨリ生シタル瑕瑾ハ隱匿ノ瑕瑾ヨリハ最モ大ナ
リ瑕瑾ニハ大小ノ別アリト雖モ占有ノ性質上ニ於テ理論スル時ハ
皆チ一ナリ而シテ法律ハ暴行占有ノコニ附キ明言スル所アルモ隱

匿占有ノコニ附キ明文ナシ蓋シ暴行占有ニ附テハ羅馬律ニ説ク所
ノ者ト異ナルヲ以テ注意シテ殊更ニ記載スル者ナリ然レモ隱匿占
有ノコニ至テハ羅馬律ト雖モ始メ隱匿ノ占有ニシテ後チ公然トナ
リタル占有ハ時効チ生スルコトハ人ノ信シテ敢テ疑ハサル所ナリ

〔千八百二十四號〕暴行及ヒ隱匿ヨリ生シタル瑕瑾ハ皆チ人ニ對シテ
各別アリ故ニ隱匿ナル占有ニ對シテ故障チ申立ルノ權ハ占有主カ
穩匿シタル故ニ占有チ知リ得サリシ人ノミニ在リ

〔千八百二十五號〕上文ノ主意チ明カニスル爲メニ數例チ示ス

我レ穴藏ヲ廣ムル爲メ掘テ隣家ノ下ニ至ル占有三十年ノ久シキニ
亘ル迄テ不繼續斷絶ノ件ナシ此時我ハ時効チ申立テ隣家ノ下ノ穴
藏チ得ル乎

例之ハ明井ノ如キ我カ侵奪チ微顯スルニ足ル者アリテ隣家ノ所有

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

者其侵奪ヲ知り得可キ位置ニ在テ我ヲシテ占有ヲナサシメタル時
ハ我カ爲メニ時効ヲ生ス其隣主ノ果シテ知り得ルト知り得サルハ
問ハス知り得可キ事情アレハ足レリトス
門戸又ハ明井ノ如キモ其構成所有者ニ占有ノ存在ヲ知ラシム可カ
ラサル時ハ時効ヲ生セス

我ハ竊カニ此穴藏ヲ五年間占有ス五年ノ後ニ至リ一ノ明井ヲ穿テ
公明ナル占有ト爲ス然ルニ此五年ハ時効ノ期内ニ算入スルヲ得ス
時効ノ起期ハ占有ヲ公然ニシタル日ヨリス

吾カ穴藏ヲ掘リ廣メタル其上面ノ家主ハ甲ナリ然ルニ此甲ヲ吾ハ
所有者ナリト思考シタレトモ實ハ占有主ニテ其家ハ乙ニ屬シ乙ハ
當時吾カ他ノ隣家ニ住ス吾レ今隣家ノ下ニ侵入シタル穴藏ニ明井
ヲ穿ツニ當リ甲カ占有ノ存在ヲ知り得テ故障ヲ述ヘンコトヲ恐レテ

明井ノ構成ヲ巧ミ甲ノ目ニ觸レサル様ニ注意シタリ然レモ吾レ實
ニ乙ノ眞所有者ナルヲ知ラサルヲ以テ自カラ乙ノ方ニハ穴藏ノ侵
入ヲ知り得タルコトモ有リキ之ヲ一言スレハ吾レ占有ヲ甲ニ匿シテ
乙ニ匿サス故ニ此占有ハ甲ニ對シテ隱匿ナリト雖モ乙ニ對シテハ
公然タル者ナリ是ヲ以テ吾ヨリ時効ヲ申立テタル時乙ノ方ヨリ吾
カ甲ニ匿シタル件ヲ訴供トナスヲ得ス蓋シ乙ハ充分ニ占有ノ存在
ヲ知り得可キ位置ニ在リタレハナリ

〔千八百二十六號〕 第五 所有○者○ノ○名○稱

古ノ學者言ヘルアリ曰ク假有(假有トハ所有者ノ名稱無クシテ物件
ヲ所持スルヲ謂フ)ノ占有ハ時効ノ基礎トナラス
讓與ノ正因ナキ物ヲ占有スル人ハ是レ假有ノ占有者ナリ而シテ其
所爲ハ暗ニ所持ノ物件又ハ執行ノ權利ハ此人ニ屬セス別ニ眞主ア

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

ルヲ明カニス故ニ買主、受贈者、交換者、受遺囑者ノ名ニテ物件ヲ所持スル人ハ即チ所有者ノ名稱ニテ占有スル人ナリ竊盜又ハ暴奪ノ占有主モ同シク所有者ノ名稱ニテ占有スル人、借屋人及ヒ受託人ノ如キハ假有ノ所持人ナリ何トナレハ此等ノ人ハ他ニ所有者アルヲ表明スルヲ以テ既ニ所有者ノ名稱ナシ而シテ其占有者ハ己レノ物トシテ爲スニ非ス貸主又ハ附託者等ノ如キ本主ノ者トシテ占有スルナリ故ニ若シ時効ヲ生スルコト有レハ彼等ニ對シテ生スルニ非ス本主ニ對シテ生スルナリ(千八百四十三號以下ニテ詳述ス)〇千八百三號參觀

第一千二百三十三條
第一千二百三十一條

法律
推測

方共證據ナキ時ハ如何ニ處分スル乎法律ハ此難題ヲ二ノ推測ニテ決ス

第一 名稱曖昧ノ場合ニハ所持者ヲ自己ノ物トシテ占有シタル者ト看做ス此推測ハ即チ一ノ證據ナリト雖モ抗敵ス可カラサル者ニハ非ス敵手ヨリ反對ノ證據ヲ出シ推測ニ抗シ之ヲ破フルヲ得ルナリ

第二 他人ノ物トシテ占有ヲ始メタル人ハ始終他人ノ物トシテ占有スル者ト看做ス若シ始メハ假有ノ占有ニテ或ル時ヨリ時効ヲ生ス可キ所有者ノ名稱アル占有ニ變シタル旨ヲ申立ル時ハ宜シク其申立ル人ヨリ之ヲ證スヘシ〇然ラハ此時如何ニシテ證據ヲ出スカ此ニハ一ノ理論アリ余ハ之ヲ第一千二百三十八條ノ所ニ説ク可シ(千八百二十八號)假有ハ隱匿暴行ノ如ク人ニ對シテ別アル者ニ非ス

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

假有ノ瓊瑾ハ人ニ對シテ替ナリ故ニ其瓊瑾ヲ申立ルハ所持人ノ物主ト認メタル人ノミニ限ラス總テ關係アル人ハ之ヲ申立ルノ權アリ夫レ時効ノ本ハ占有ニ在リ然ルニ他人ノ所有物トシテ所持スル人ハ占有シタルニ非ス(第二千二百二十八條)斯ノ如キ場合ニテハ何人ヲ論セス時効ヲ得ル能ハサルナリ例之ハ甲乙ノ田ヲ占有シテ之ヲ丙ニ貸ス丙ハ小作人ノ位置ニテ三十年ノ間收益ス乙ヨリ丙ニ對シテ田ノ返還ヲ求ムル時ニ丙ハ時効ヲ申立ルヲ得ス法律上ヨリ見レハ丙ハ占有主ニ非ス眞ノ占有主ハ甲ナリ故ニ爭訴ノ起ルハ乙ト甲トノ間ニ在リ何トナレハ若シ甲所有者ノ名稱ニテ占有シ來リシナレハ丙カ甲ノ名ニテ持タル田地ノ所有權ヲ得レハナリ然レハ甲乙者ニ對シテ時効ノ申立ヲ欲セサルヲ往々是アリ

〔千八百二十九號〕 第六 不曖昧

占有ノ有無判然タラス或ハ時効ノ生發ニ必要ナル性質ノ有無ニ疑フ可キ點アル時ハ其占有ヲ曖昧ノ占有ト謂フ

故ニ時効ヲ申立ル人ハ必ス下ノ四箇條ヲ明證ス可シ

第一 占有ノ始源○此證若シ明白ナラサル時ハ曖昧ノ占有トス故ニ時効ヲ生セス

第二 占有ノ繼續○此點ニ疑フ可キヲ有レハ占有ノ繼續曖昧ナルヲ以テ時効ヲ生セス

〔附言〕 占有ノ始メテ證シタル當時ノ占有主ハ此兩極間ハ占有ヲ

續ケタル者ト法律ヲ以テ推測ス(千百十五號參觀)故ニ又此兩極間ニ占有主ハ繼續ノ性質ヲ作造ス可キ收益ノ所爲ヲナシタル者ト看做サ、ルヲ得ス此ニ由テ之ヲ觀レハ時効ノ申立ニ抗スル人ヨリ不繼續ヲ證スル時ハ別段左モ無ケレハ假令ヒ繼續ノ證據分明

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

ナラスト雖モ繼續ノ推測アルヲ以テ繼續ノ曖昧タル占有トハ言
ヒ難シ

又不斷絶ノ證據分明ナラサル時ト雖モ不斷絶ノ點ノ曖昧トハ言
ヒ難シ蓋シ占有主ハ自カラ占有ノ民法上或ハ自然ニ斷絶セサル
旨ヲ證セス其敵手ヨリ斷絶ノ證ヲ出ス若シ此證據立タサル時ハ
推測法ニ據テ不斷絶ノ者ト看做セハナリ

占有主ハ占有ノ安穩ナル旨ヲ證スルニ及ハス推測法ニ定ムル所
ハ安穩ニ在テ暴行ニ在ラス蓋シ暴行ハ非常ノ事ニシテ法ノ得テ
推測シ得ル者ニ非サレハナリ

第三 占有ノ公明○此點ニ疑ヒ有レハ占有公明ノ上ニ曖昧タルヲ
以テ時効ヲ生セス

第四 所有者ノ位置ニテ占有スル事○自身ノ物トシテ占有シ他人

ノ物トシテ所持セス故ニ此占有ハ假有ノ占有ニ非サル旨ヲ明證セ
サル時ハ此點ニ附キ曖昧ナル占有トシテ時効ヲ申立ルヲ得ス
然レモ或曰ク占有主ハ果シテ自身ノ物トシテ占有シタルカ又ハ他人
ノ物トシテ占有シタルカ否ノ問題ニ附キ曖昧タルコトハ無キ筈ナリ
既ニ第二千二百三十條ノ法文ニ反對ノ證據アル迄ハ占有主ハ所有
主ノ位置ニテ自身ノ物トシテ占有シタル者ト看做スト有リ故ニ此
問題ノ如キ疑ハ出テ又筈ナリ

此意見ハ理ニ當ル者ノ如シ然レモ此事柄ニ附キ曖昧ノコトヲ生スル
一例アリ一人アリ他人ノ物トシテ占有ヲ始メタリシカ其申立ニハ
此占有ハ元來假有ノ者ナレトモ後ニ所有者ノ名稱アル占有ニ變シ
タルナリト若シ此人明白ノ證據ヲ出シ第二千二百三十八條ニ在ル
兩件ノ内一件ノ存在ヲ慥ニ辨セサル時ハ占有ハ名稱ノ有無ニ附テ

時効ノ基礎トナル占有ノ性質

曖昧タル者ナリ

○第五節

純粹ノ權利ニ出ル所爲ト單ニ惠許ニ出ル所爲トナラズハ占有及ヒ時効ノ基礎トナラサル規則

第一千二百三十三條

第壹

純粹ノ權利ニ出ル所爲ハ占有及ヒ時効ノ基礎トナラズ

此規則ハ甚ク分明ナラス今其規則ヲ釋スル右ノ如ク曰ク假令ヒ純粹ノ權利ニ出テル所爲ヲ行ハスシテ默過スル人ニ對シテ此所爲ニ間接ノ關係アル人ヨリ時効ヲ申立テ向後此權利者ノ所爲ヲ支拒スルノ權ヲ得ル能ハス

此規則ヲ文ノ儘ニ解シ意味ヲ嚴密ニ取レハ時効ハ全ク生セサル者ノ如ク何トナレハ何ノ種類ヲ問ハス總テ權利ハ或ル事ヲ爲スノ權利ノ中ニ存在スレハナリ

注目

人權ノ如キモ負債主ニ對シテ返濟ヲ求ムル權利ノ外他ナシ然ルニ上ノ規則ニ循ヒ負債返濟ス可キ日ヨリ三十年間默過シタル債主ト雖モ依然負債主ニ對シテ返濟ヲ強ユル權ヲ有スルナリト決ス可キ歟若シ此決案ヲシテ果シテ信ナラシメハ是レ第一千二百十九條及ヒ第一千二百六十二條ニ載セタル免責時効ハ遂ニ行レサル者ナリト入額所得權及ヒ使用權ハ他人ノ所有ニ屬スル物件ヨリ果實ヲ收ムル權利ノ中ニ在リ又水廻通行ノ如キ土地ノ義務ハ他人ノ地ノ上ニ便利ヲ得ル權利ノ中ニ在リ然ルニ上ノ規則ニ循ヒ入額所得權、使用權、土地ノ義務ヲ有スル人ハ假令ヒ三十年間其權ヲ執行セサルモ權ヲ失フコトナキ歟若シ失權セサル者トセハ三十年間使用セサル人ニ對シ又ハ物ニ係ル土地ノ義務ハ消滅スル者ナリト記載シタル第六百十七條、第六百二十五條、第七百六條ノ主意ニ悖ル

純粹ノ權利ニ出ル所爲ト單ニ惠許ニ出ル所爲ト占有及ヒ時効ノ基礎トナラサル規則 六一三

所有權ハ物ヲ用ヒ其物ヨリ果實ヲ收メ其物ヲ處置シ之ヲ占有シ物上ニ他人ノ故ナキ所爲ヲ禁スル權理ニ在リ然ルニ上ノ規則ニ循ヒ所有物ヲ他人ノ占有スル儘ニシテ三十年ヲ過テ後チ其所有者ハ時効ニ因リ權ヲ失ハスト言フヲ得ル歟若シ之ヲ得セシメハ是レ則チ時効ヲ以テ所有權獲得ノ原因ト定メタル第七百十二條ノ施行無キナリ

故ニ純粹ノ權ニ出ル所爲ハ時効ヲ基セスト云フ規則ハ負債償還ヲ求ム可キ日ヨリ三十年間黙過シタル債主又三十年間權利ノ執行ヲ怠リタル入額所得使用權土地ノ義務ヲ有スル人及ヒ他人ノ占有ニ委テタル物件ノ所有者ニ適用ス可カラズ

〔千八百三十一號〕然ラハ如何ナル場合ニ此規則ヲ施行スル歟此問題ニ答フルニハ先ツ精密ニ第二千二百三十二條ニ記スル所ノ純粹ノ

權理ニ出タル所爲トハ何物ヲ指スカ又何ノ徽章ニ因リ何ノ性質ヲ見テ時効ヲ生ス可キ權利トナシ又之ヲ生セサル權利トナスカヲ確定ス可シ吾レ其權理ノ有ル場合ヲ總括スル概目ヲ求ムル久シト雖モ不幸ニシテ未タ其充分ナル者ヲ得ス然レモ下ノ數項ハ稍概目ヲ得タルニ近キカ如シ

第一 時効ヲ生ス可キ權理ハ他人ニ對シタル訴權執行ノ權利ト他人所屬ノ物上ニ收益ヲ爲ス權利ノ中ニ在リ

例之ハ債主必要ノ時間ニ負債主ヲシテ辨濟セシムル權理ヲ執行セサル時ハ時効ニ因テ其訴權ヲ失亡ス又外人ニ占有サレタル物件ノ所有者法ヲ以テ定メタル時間ニ物件取還ノ訴權ヲ執行セサレハ占有ヲ剝奪スルノ權理ヲ失フ又入額所得權使用權及ヒ土地ノ義務ヲ有スル人久シク其權利ヲ行ハサル時ハ此等ノ義務ヲ被ムリタル不

動産ノ所有者ハ責ヲ免カル

第二時効ヲ生ス可カラサル純粹ノ權利ニ出タル所爲トハ自身ノ固有物ノ上カ又ハ人民共同ニ收益ス可キ物ノ上ニ許シ受ケタル所爲是ナリ之チ一層擴張シテ述フレハ邑法或ハ地方規則ノ允許ノ條例又ハ自然法ニ據リ人民皆ナ爲シ得可キ作爲ナリ

假令ヒ久シク上ニ在ル事ノ執行ヲ怠リシト雖モ決シテ其執行自由ノ權ヲ失ハス又假令ヒ一人ニテ久シク此事ヲ爲シタリト雖モ他人ヲ取除ケ一人ニテ之ヲナス權ヲ得ルニ非サルナリ

以下ニ數例ヲ研究セン

〔千八百三十二號〕(イ) 吾ニハ我カ所屬タル地面ニ造家スル權利(即チ權利)アリ(第五百五十二條)然ルニ三四十年以來此地ニ耕作シ今日ニ到リ吾レ此地ニ造家セント欲ス我ハ既ニ三十年間造家ノ權利ヲ執

行セサルヲ以テ造家ノ權ヲ失フタル歟吾カ隣主ハ吾カ三十年間執行ヲ止メタルヲ以テ向後吾ニ此權利ノ執行ヲ拒ムノ權ヲ得隣主ハ吾カ地面ニ造家支拒ノ土地ニ關スル權ヲ得シ乎

隣主ハ決シテ此等ノ權ヲ得タルニ非ス我カ權利ハ依然存在ス其道理ハ甚タ簡ナリ凡ソ時効ニ因リ權利ヲ得ルトハ占有シテ後チ之ヲ得ルヲナリ他人ノ物ノ上ニ權利ヲ占有スルトハ此物ト其所有ノ權利トチ有スルヲナリ今我レハ三十年間吾カ造家ノ權利ヲ用ヒス又隣主ハ吾カ建築セサル故ニ其間間接ニ多少ノ利益ヲ得タリト雖モ決シテ其時間ニ我カ權利ヲ占有シタルニ非ス又我カ所有物ヲ取リタルニ非ス我カ權利ニ反シタル所爲アルニ非サルナリ既ニ我カ權利ニ占有チ受ケサル以上ハ之ヲ失フコトモ無カル可シ

〔附言〕 然レモ入額所得權ハ三十年間執行ノ怠慢ニ因テ失フ蓋シ

純粹ノ權利ニ出ル所爲ト單ニ專許ニ出ル所爲ハ占有及ヒ時効ノ基礎トナラサル規則 六一七

法ノ意ハ收果ノ早ク所有者ニ還ルヲ欲スルナリ

〔千八百三十三號〕(ロ) 甲ニ乙ノ地面ニ近接シタル家ノ壁ニ玻璃板ヲ用ヒ鐵格アル窓牕ヲ開ク權利アルハ論ヲ俟タス(第六百七十六條)然ルニ甲三十年間穿窓ヲ怠リタリ今日ニ至テハ甲ハ既ニ此權ヲ失フタル歟否甲ノ權ハ従前ノ通りニ存在ス乙ハ甲ノ權利ヲ占有シタルヲ無ケレハ時効ニ因リ權利ヲ得ル能ハサルナリ故チ以テ乙ハ向後甲ニ穿窓ヲ拒ムノ權ヲ得ル能ハス

隣家關係上ニテ此純粹ノ權理ニ出タル所爲ハ占有時効ノ基礎トナラスト云フ規則ノ意ハ蓋シ三十年間所有者自己ノ權内ニ在ル事柄ヲ自己ノ物ノ上ニ行フヲ怠タル時其隣主ヨリ時効ヲ申立テ向後右ノ所爲ヲ拒ムノ權ヲ得ル能ハスト言フニ在リ猶ホ之ヲ簡略ニ述フレハ隣主時効ニ因リ經界ナキ土地ノ權ヲ得ル能ハスト謂フナリ

(第六百九十一條)

〔千八百三十四號〕(ハ) 三十年ノ間共同井泉ニ水汲ニ行カサル人アリ又三十年間所住邑ノ人民共同牧畜ノ權アル森林ニ牧畜ヲ怠リタル人アリ其時此等ノ人ハ決シテ共同井泉汲水權ト森林共同牧畜ノ權ヲ失フニ非ス又其隣主ハ假令ヒ一人ニシテ汲水牧畜シタリト雖モ今日迄テ此權理ノ執行ヲ怠リタル人ニ此權ヲ拒ムノ權ヲ得ル能ハス蓋シ隣主ノ方ニ占有無キヲ以テ時効ヲ生セサレハナリ

〔千八百三十五號〕 婚姻契約移住ノ權理等ノ如キ人間天然ノ權理ハ假令ヒ三十年ノ久シキ執行セスト雖モ全ク存シテ失亡スル者ニ非ス

〔千八百三十六號〕 第貳 單一ナル惠許ニ出タル所爲ハ占有及ヒ時効ノ基礎トナラス

リエノ一氏曰ク惠許ノ所爲トハ他人ノ所爲ヲ止メシメ得ルノ時仁

純粹ノ權理ニ出ル所爲ト單ニ惠許ニ出ル所爲ハ占有及ヒ時効ノ基礎トナラサル規則

惠ニテ之ヲ其儘ニ爲サシメ置クヲナリト故ニ拒支ノ權アル人所爲ノ己レニ害ナキヲ以テ唯友愛ノ情ニテ他人ニ許シ置ク所爲ヲ惠許ノ所爲ト謂フ

此所爲ハ假令ヒ幾數年ヲ經ルト雖モ所爲者ノ爲メニ時効ヲ基ヒシ向後此所爲ヲナスノ權ヲ得ルニ非ス是レ則チ不繼續質ノ土地ノ義務ハ時効ヲ生セスト記載スル第六百九十一條ヲ解説スル時ニ引ク所ノ規則ナリ

隣主三十年間吾カ井泉ヲ汲ム或ハ吾カ田ヲ通行シ或ハ吾垣邊ニ傍フテカ又ハ耕作收納ノ後チ田中ニ野牛或ハ綿羊ヲ牧畜シタリ然ルニ隣主ハ時効ノ時間ヲ經過シタリト雖モ此汲泉通行牧畜ノ不繼續ノ土地ニ關スル權ヲ得ル能ハス何トナレハ元來我權ニ少シクモ害スル所無キヲ以テ惠許ニ汲泉通行牧畜ヲ許セシ者ニテ吾ニ何時ニ

テモ隨意ニ之ヲ拒ムノ權アレハナリ

吾カ隣主窓牕ヲ穿ツ其距離法ニ戻ル隣主家ヲ造ル棟梁ヲ置クニ吾カ家壁ニ據ル隣主點滴樋ヲ設ク雨水吾カ地ニ落ツ隣主水ヲ引キ田ニ灑ク水樋ヲ吾カ田上ニ設ク斯クシテ三十年間ヲ經過シ其間ニ吾ト隣主ト互ニ争フタルヲ無シ然ル時ハ隣主ハ三十年ノ時効ニ因テ繼續ノ土地ニ關スル權(穿窓架梁設樋ノ土地ノ義務)ヲ得ル歟然リ以後吾ニハ此土地ノ義務アリ之ニ故障ヲ述フルノ權ヲ失フ

(千八百三十七號) 不繼續ノ土地ノ義務ト繼續ノ土地ノ義務ノ間ニ生スル所ノ此差別ハ何ノ所ヨリ來ル歟何故ニ一ハ時効ヲ生シ他ハ時効ヲ生セサル歟

吾レ今爰ニ其理ヲ說カン若シ此說ヲシテ誤謬ナカラシメハ眞理ヲ示スニ幾庶ラン

繼續質ノ土地ノ義務ハ所有權ヲ害スルヤ大ニシテ所有者ノ權利執
行ニ對シテハ永久ニシテ且ツ嚴酷ナル障礙アリ其損害ノ大且ツ甚
シキヲ以テ三十年間モ所有者ヨリ惠許友愛ヲ以テ默許シ得ル者ニ
非サルナリ故ニ一度モ故障ヲモ述ヘス爭論モナサスシテ所有者カ
此土地ノ義務ヲ存立セシ所ヨリ見レハ如何ニモ隣主ハ正當ノ權ヲ
有スル者ト思想セサルヲ得ス是レ自然ノ利ナリ是ヲ以テ法ハ此土
地ノ關スル權利ハ正シク得テ而シテ其特權ノ證書ヲ失フタルノミ
ト推測ス

不繼續質ノ土地ノ義務ハ繼續質ノ土地ノ義務ト同シカラス假令ヒ
三十年間不繼續質ノ土地ニ關スル權利ヲ執行シ所有者之ヲ默許ス
ルト雖モ所有者ニ對シテ影響ヲ生セス此權利ハ上文ノ者トハ異ナ
ルヲ以テ所有者ノ此時間損害ニ堪忍スル以上ハ此權ヲ執行スル者

ニ既得ノ權アリ而シテ先ニ正當ノ原因アリテ權ヲ得其得權ノ證書
ヲ失亡シタル者ト看做シ時効ニ因リ權ヲ得可シトハ言フ可カラズ
茲ニ時効ニ因テ不繼續ノ土地ニ關スル權利ヲ得可カラサル說アリ
テ自然ノ道理ニ適スル者ノ如シ請フ之ヲ述ヘン夫レ所有者ノ此權
利ノ執行ヲ他人ノ恣ニスル所トナシタル所以ハ其實際假令ヒ其執
行ヲ幾年委棄スルモ所有者ニ取テハ更ニ損害ナキ故ニ隣主交通ノ
際友愛ノ情ニ因リ執行ヲ任セ置キ遂ニ久時ニ亘リシナリ是ヲ以テ
上文ノ事ト說ヲ同フス可カラズ此說ヲ以テ理ノ當然トス故ニ之ヲ
採用ス可シ若シ上文繼續質ノ土地ノ義務ニ附テ說ク如ク時効ヲ生
ス可キ者トナサハ是レ法律ヲ以テ公寧ノ爲メニ佑誘ス可キ隣主友
愛ノ交際ヲシテ廢棄スルニ至ラシムルナリ何トナレハ一度ヒ時効
ノ損害ヲ受ケタル所有者ハ以後決シテ隣主ニ惠許ノ事ヲ爲サス隣

主ハ大ニ之カ爲メニ便利ヲ失フニ至ラン

〔附言〕或曰ク不繼續質ノ土地ノ義務ニハ時効ヲ生セズ蓋シ本繼續ノ占有ヲ爲ス能ハサル性質ノ者ナレハナリト余謂ラシ此説ハ非ナリ既ニ之ヲ千八百十四號ニ詳述シタリ

或ハ又曰ク此土地ノ義務ニ時効ヲ生セサル所以ハ此權ノ占有ハ曖昧タルヲ免カレサレハナリ例之ハ爰ニ時効ヲ申立ル人アリ其時此人ハ果シテ眞ノ土地ノ義務ノ名ヲ以テ占有セシヤ或ハ惠許ノ名ニテ占有セシヤ其間必ス判然タラス

余考フルニ此説理ニ適セサル者ノ如シ凡ソ不繼續ノ土地ノ義務ハ假令ヒ其權ヲ執行シタル人ヨリ證書ヲ出シ實ニ該權ヲ得可シト思ヒ所有者ノ位置ニテ執行シ且ツ其權ハ眞ノ土地ノ義務ニ關スル者ナリト明證シタル時ト雖モ時効ニ因リ之ヲ得ル能ハス何

トナレハ第六百九十一條ハ何ノ場合ヲ論セス總テ不繼續質ノ土地ノ義務タル以上ハ時効ヲ生セストナセハナリ

○第六節 先主ノ占有ト後主ノ占有トノ併合

第一千二百三十五條

〔千八百三十八號〕時効ヲ完全スル爲メニ不特定ノ名義又ハ特定ノ名

義或ハ射利的名義又ハ要報的名義ニテ先主ヨリ讓受ケタル占有ヲ自己ノ占有ニ加附スルヲ得○先主トハ讓渡ヲ爲シタル物ノ

先所有者ナリ後主(參觀者)ハ其物ヲ讓受ケタル人ナリ

此所ニテハ「シユクセス」(後主)ト言フ語ヲ一般ノ汎キ意味ニ解ス可シ則チ相續、賣約、贈與若クハ交換等ヲシテ他人(即チ先主)ノ位置ヲ得タル總テノ人ヲ言フナリ

例之ハ一人死亡セシ時ハ死者ハ其相續人ニ對シテ先主ナリ其相續人ハ死者ニ對シテ參權者即チ後主ナリ又賣約、贈與、遺囑其他ノ讓與

先主ノ占有ト後主ノ占有トノ併合

ニテ物件ノ主ヲ變シタル時ニハ其讓與シタル人(即チ賣主、贈與者、遺囑者)ヲ以テ先主ト爲シ其物件ヲ得タル人(即チ買主、受贈者、受遺囑者)ヲ以テ後主(即チ參權者)ナリトス

參權者(後主)ハ先キニ贈與ヲ移轉シタル物件上ニ先主ノ有シタル權利ヲ悉皆讓受ル者ナリ故ニ若シ先主物件ノ所有者ニテ有リシナラハ後主ハ所有權ヲ讓受ケ若シ又先主單ニ占有主ニテ有リシナラハ其占有ヲ讓受ル者ナリ此占有ヲ讓受ケシ場合ニハ先主後主ニ讓ルニ占有ス可キ原因ヲ以テス故ニ後主時効ノ利益ヲ得ント欲スル時ハ先主ノ既ニ經過セシメタル占有ト自カラ爲シタル占有ヲ合シテ時効ヲ完全スルヲ得ルナリ例之ハ吾レ二十五年間吾カ所有ニ非サル物件ヲ占有ス而シテ吾死亡スルカ又ハ賣約、贈與、遺囑ヲ以テ他人ニ讓ル若シ吾カ參權者(讓受人)時効ヲ全フセント欲セハ今ヨリ五

年ノ占有ヲ經過スルヲ以テ足レリトス

(千八百三十九號) 法律ニ時効ノヲニ附キ不特定ノ名義ニテ讓受ケタル後主ト又ハ其特定ノ名義ニテ讓受ケタル後主ノ上ニ別アル事ヲ明言セサルトモ此兩後主ノ間ニ大ナル差別ヲ生ス其差別ハ實際ニ於テ甚タ簡要ノ事ナリ

不特定ノ名義アル後主(總テノ後主)ニ非ストモセメテ正當相續人丈ケハ死シタル先主ノ身分ニ代リ之ヲ繼續ス故ニ先主ノ爲シタル占有ヲ繼續スル者ト言フ可シ相續ニ因テ少シモ其占有ヲ變セス又相續者ノ新ニ占有ヲ始ムルニ非ス固ト是レ占有ハ固有ノ者ナリ兩占有ヲ合スルニ非ス唯、死者ノ爲シタル占有ヲ繼續スルノミ而シテ死者ノ位置ト死者ノ爲シタル瑕瑾モ依然後主ニ對シテ存在ス是ヲ以テ不特定ノ名義アル後主(即チ參權者)ハ先主ノ自カラ時効ヲ得可キ

先主ノ占有ト後主ノ占有トノ併合

時ニ非サレハ之ヲ申立ルヲ得ス

〔附言〕 例外相續人又ハ不特定ノ名義アル受遺囑者ハ死者ヲ代理セス然レモ等シク死者ノ義務ヲ受ケ續クノ理アルヲ以テ死者ノ爲シタル通りニシテ占有ヲ受取ルナリ我輩決シテ法典中ニ之ニ反シタル意アルヲ見ス

上文ノ理ヨリ下ノ三項ヲ生ス

第一 若シ死者假有ノ名義ヲ以テ所持シタル物件ヲ讓渡シタル時ハ相續人ハ瑕瑾ニ因リ時効ヲ生スルニ不適當ナル占有ヲ得ルナリ
 (第二千二百三十七條ノ解釋ヲ參觀ス可シ)故ニ借地人、借屋人ノ相續人ハ其占有ノ原因ヲ第二千二百三十八條ノ通り變改スルニ非サレハ時効ヲ得ルヲ能ハス

第二 若シ死者惡意ニテ占有スル時ハ假令ヒ占有ハ繼續シタリト雖モ相續人ニ對シテ其占有ノ自然ヲ變セス故ニ三十年ノ後ニ非サレハ時効ヲ完全スルヲ得ス(第二千二百六十二條)又假令ヒ後主ハ良意ニテ占有シタリト雖モ先主惡意ニテ之ヲ始メシナレハ時効ヲ完全スルニハ相續人自カラ死者ノ既ニ始メタル三十年ヲ完全スル爲メニ必要ナル時間占有ヲ繼續ス可シ

第三 若シ死者良心ニテ占有シ其占有ヲ繼續シタル時ハ十年若クハ二十年目ニテ時効ヲ完全ス完全ノ前ニ相續ニ因リ死者ヨリ占有ヲ受ケ得ル時ハ其相續人ニ對シテモ十年又ハ二十年ノ時効ノ性質ヲ保存ス故ニ相續人ハ假令ヒ惡意ニテ占有スルト雖モ既ニ先主良意ニテ之ヲ始メタル時ハ十年又ハ二十年ヲ全クスルニ必要ナル時間占有ヲ繼續スレハ時効ヲ生スルニ充分ナリ

〔千八百四十號〕 買主、受贈者、交換者等ノ如キ特定ノ名義アル後主(參權

先主ノ占有ト後主ノ占有トノ併合

者ハ先主ノ身分ヲ代理セサルヲ以テ先主ノ義務ニハ全ク關係ナク讓與ノ後テ自身一箇ノ占有ヲ始ム故ニ假令ヒ先主ヨリ受取ル時占有ニ瑕疵アリト雖モ後主ニ對シテハ其瑕疵ハ存セサル者ナリ然ラハ則チ全ク相離レタル二ノ占有ナリ一ハ先主ヨリ後主ナル參權者ニ讓渡シ他ノ一ハ物件ヲ讓受ケタル事柄ニテ得而シテ占有者自カラ之ヲ始ム是ヨリ新占有者(後主)ハ自カラ始メタル占有ニ先主既ニ始メタル占有ヲ合算スルコト得然レモ之ヲ合算スルト爲サ、ルトハ全ク後主ノ權利ニ在リ故ニ先占有ヲ必要ナリトスル時ハ之ヲ自己ノ占有ニ合算シ若シ又先占有ニ瑕疵アル時ハ之ヲ用ヒス自己ノ占有ヲ始メタル日ヨリ時効ヲ算フ可シ上文ノ理ニ由リ下ノ三項ヲ生ス

第一 暴奪シタル占有主又ハ借地人、借屋人ノ如キ假有ノ名義ニテ所持シ其後チ物件ヲ賣渡シ又ハ贈與シ又ハ遺囑シタル時ハ買主、受贈者、受遺囑者ハ時効ヲ生セシムル爲メニ先主ノ爲シタル瑕疵アル占有ヲ自己ノ占有ニ合算ス可カラス然レモ新占有ヲ始メタル日ヨリ起算スル時ハ此瑕疵ハ時効ノ發生ヲ妨ケス

第二 僅カ一年二年若クハ三年ヲ經過シタル惡意ノ占有者其占有物ヲ賣渡シ贈與シ或ハ遺囑シタル時ハ本來此占有ハ惡意ニ出ツルヲ以テ先主ニ對シテハ三十年ノ後ニ非サレハ時効ヲ生セスト雖モ其買主、受贈者、受遺囑者若シ之ヲ良意ニテ占有シタル時ハ十年又ハ二十年ニテ時効ヲ生ス然レモ先主ノ占有ノ歲月ヲ算入スルヲ得サルハ論ヲ俟タサルナリ

第三 假令ヒ先主ハ良意ニテ占有シタル時ト雖モ若シ參權者全ク物件ノ己レニ屬スル者ニ非サルヲ知リテ占有シタル時ハ三十年ノ

先主ノ占有ト後主ノ占有トノ併合

後ニ非サレハ時効ヲ生セス然レニ其時先主ノ占有ヲ合算スルヲ得

〔千八百四十一號〕茲ニ説キ來リタル第六節ノ意ヲ概言スレハ特定ノ名義アル後主ハ其先占有ヲ必要ト思考スル時ハ之ヲ自己ノ占有ニ合算シ若シ又先占有ニ瑕瑾アリテ必要ナラスト思考スル時ハ之ヲ退ケテ用ヒサルヲ得此先主ノ占有ト自己ノ占有ヲ分離スル權理ハ不特定ノ名義アル後主ノ有セサル所ナリ

〔第三章 時効妨礙ノ原因〕

〔千八百四十二號〕第壹 總論

第三章ヲ研究スルニハ先ツ下ノ二箇條ヲ心得可シ

第一 此章ニハ唯得權時効ヲ妨クル所ノ原因ノミヲ説ク

第二 此原因ハ第二千二百二十九條ニ時効ヲ生スル爲メニハ所有

者ノ名義アル占有ヲ要スル者ナリト載スル所ノ條文ニ反シタル假有(プレカリテ)ナリ(プレカリテ)ノ語解ハ次號ニ詳カナリ) 此章ハ全ク假有ノ規則ヲ解説ス假有外ノ得權時効及ヒ免責時効ヲ妨遮スル原因ハ第四章第一、第二節時効ノ斷絶及ヒ停止ノ部ニ於テ説ク可シ

第二千二百三十一條 假有(プレカリテ)

羅馬法ニ用フル所ノ假有(プレケール)ハ借主ノ希願ニ因リ無賃ニテ物ヲ貸シ而シテ貸主ノ自由ニ取還シ得ル其貸約ヲ言フナリ今世ノ法律ニ用フル假有(プレケール)ノ語ハ羅馬法ニ用フル所ノ義ヨリモ甚タ汎シ假有ノ占有主ト言フ時ハ所有物トシテ占有セス既ニ他ニ讓與シタル者トシテ所持スル總テ所有者ノ名義無ク物件ヲ所持スル人ヲ言フナリ故ニ下ノ三項ニ在ル人ハ所有者ノ名義無クシテ占

有スルナリ

第一 受託者及ヒ使用借主

デボシテール、フシブラツール、フ、ニヤージュ

第二 借家人、耕作人、小作人

ロカテール、コロシ、フエルミエー

第三 入額所得者但シ虚有權ニ附テノミ之ヲ言フナリ蓋シ該者他

ニ所有者アルヲ知リ而シテ其人ノ名ヲ以テ占有スレハナリ其所有

者トハ該者ニ入額所得權ヲ許シタル人ナリ然レモ所得權ノ占有ニ

ハ所有者ノ名義アリ蓋シ己レノ固有ノ權トシテ之ヲ執行スレハナ

リ故ニ時効ニ因リ入額所得權ヲ得可シ

(千八百四十四號) 人アリ一物ヲ他人ニ譲リ未タ之ヲ其人ノ手ニ渡サ

スシテ己レニ所持ス然ル時ハ此讓與者ヲ指シテ所有者ノ名義ナキ

占有主ト謂フ可キ歟例之ハ甲田地ヲ乙ニ賣ル乙其地價ヲ拂ヒ未タ

受取ラスシテ死亡ス乙ノ相續人之ヲ知ラサルヲ以テ敢テ甲ニ買約

向
起

後

ノ執行ヲ促カサス甲常ニ田地ヲ占有シ三十年間相續人ヨリ田地ノ

返却ヲ求メス是ニ於テ甲ノ爲メニ時効ヲ生シ三十年ノ占有ヲ以テ

甲ハ一旦乙ニ讓與シタル此田地ヲ得ル歟此問題ヲ決スルニハ先ツ

下ノ問題ヲ研究ス可シ曰ク賣約シタル物ヲ買主ニ渡サスシテ所持

スル賣主ハ所有者ノ名義アル占有主ナル歟或ハ其名義ナキ占有主

(買主ノ名ニ因リ買主ノ爲メニ占有スル者)ナル歟若シ賣主ヲ指シテ

所有主ノ名義ナキ占有主ナリトセハ時効ヲ生セス若シ又之ヲ所有

者ノ名義アル占有主ナリトセハ時効ヲ生ス可シ

若シ買主、賣主ト相約シテ買約ニ特別ノ附文ヲ加ヘ或ル時間賣主ハ

借家人小作人或ハ受託者ノ名義ヲ以テ其賣物ヲ所持ス可シト契約

シタル時ハ疑ヒモ無ク賣主ハ買主ノ名ニテ所有者ノ名義ナク占有

スルナリ故ニ時効ノ利益ヲ受ケス契約ニ上文ノ如キ附文無キ時ト

時効妨礙ノ原因

雖モ賣主ヲ所有者ノ名義無キ占有主ナリトスル歟世論概テ是ヲ所有者ノ名義ナキ占有主ナリトス其論ニ曰ク凡ソ所有者ノ名義ナキ物件ノ所持トハ其物件ヲ眞主ニ還與ス可キ義務アル人ノ位置ニテ之ヲ所持スルコトナリ占有ニ所有者ノ名義ナシトシ時効ヲ生スルニ妨礙ナリト言フモ此還與ノ義務アルヲ以テナリ今買物ヲ渡サ、ル賣主ハ買主ニ買物ヲ渡ス可キ義務アル位置ニテ之ヲ所持ス故ニ其占有ニ所有者ノ名義ナシ因テ時効ヲ生スルヲ得ス

余謂ラク上文ノ説非ナリ還與ノ義務ヲ生スル所ノ證書ノ力ニ因リ物件ヲ所持スル人ハ所有者ノ名義無キ所持者ナルコトハ上文ノ説ノ主トスル所ノ原則ニシテ其原則ハ余輩ノ信シテ決シテ疑ハサル所ナリ然レモ此原則ハ上文賣主買主ノ例ニ適セス請フ之ヲ詳説セシメ若シ賣主賣主ノ位置ニテ占有シタル時ハ賣主ノ位置ニテ占有スル

トハ賣約ニ依リ買主ニ買物ヲ渡ス可キ義務ヲ負擔シタル位置ヲ謂フ)上文ノ説ハ確定シタル者ニシテ論破ス可カラスト雖モ上文ノ賣主ノ占有ハ決シテ賣約ニ因テ生シタルニ非ス又占有ノ原因ハ賣約ニ在ルニ非サルナリ賣主ニ物件ヲ渡ス可キ義務アリト雖モ原ト占有ニ付與ス可キ名稱ナキヲ以テ其義務ハ占有ノ名義ヨリ生スルニ非サルナリ

占有主物件ノ眞主ニ物件還與ノ義務ヲ負フテ占有シタル時ハ時効ヲ生セスト云フ規則ハ法律中ニ明言スル所ニ非ス蓋シ法律上ノ鑿説ニ出ツルナラン

竊盜ノ如キモ其盜物ヲ還與スルノ義務アリ然ラハ還與ノ義務アルヲ以テ時効ノ發生ヲ妨クル歟否決シテ妨クルニ非サルナリ好意ニテ占有物ノ他人ノ所屬タルヲ表認シタル占有主ニ其所有者

ニ對シテ還與ノ義務アルハ勿論ノコトナリ此眞所有者ノ權利ヲ表認シタル効ハ經過シタル占有ヲ消滅スト雖モ向後ノ占有迄モ所有者ノ名義ナシトスルニ非ス唯時効ヲ斷絶スルノミ
 契約ニ未必ノ條件ヲ載セテ物件ヲ得タル人ニハ向後約スル所ノ條件ヲ生スル時ニ當テ其物件ヲ還與スル義務アリ今爰ニ前約ノ條件發生シタルトモ得權者物件ヲ還與セスシテ時効ニ必要ナル歲月ヲ經過シタルコトヲ想像セヨ右ノ得權者ニ還與ノ義務アルヲ以テ時効ニ因リ其物件ヲ得ル能ハサル歟否決シテ然ラス假令ヒ未必條件ニテ一旦失亡シタル占有主ト雖モ時効ニ因リ其所有權ヲ恢復スルヲ得ルナリトハ法律ノ示ス所ナリ(第九百六十六條)
 故ニ曰ク占有主カ負フ所ノ物件還與ノ義務ハ盡トク時効ノ妨礙ナリト言フ可カラス

宜シク一層深微ニ入り基礎ニ附テ區別ヲ爲スヘシ
 若シ此物件還與ノ義務(例之ハ受託者、借家人、小作人、入額所得人ノ義務ノ如ク)

占有ヨリ離ル可カラサル條件ニ係ル時ハ此義務アルヲ以テ其占有ニ所有者ノ名義ナシトス故ニ時効ヲ得ル能ハス此道理ハ甚ダ簡ナリ抑、此條件アル時ハ假令ヒ所有者カ幾多ノ歲月間占有ヲ委棄スルトモ附託ト謂ヒ借家ト謂ヒ固ト占有ノ原因トナル名稱ニテ明白ニ如何ナル譯ニテ所有者カ物件ノ還與ヲ促サ、ルコトヲ知ルニ足ル者ナリ斯ノ如ク所有者ノ黙過ヲ正シキ者ト見認ル以上ハ數歳ヲ經過シタリトモ決シテ義務ヲ負フ人ヨリ所有者ニ對シテ時効ヲ申立ルヲ得ス

若シ此物件還與ノ義務占有ノ効力ニ係リ又ハ占有ヲ得タル名義ヨ

リハ他ノ名義ヨリ生スル所ニ係ル時ハ此義務ハ時効ヲ妨遮セス此
 場合ニ於テハ始メ占有主カ物件ヲ掌握スル名義ニテハ所有者ハ何
 故此物件ヲ取還サスシテ久シク委棄經過シタルカチ他ヨリ知り得
 可カラサルナリ斯ノ如ク所有者ノ黙過ニ自然ノ條理ナシ故ニ時効
 ナ生ス

此ニ由テ之ヲ觀レハ若シ賣主買物ヲ渡サスシテ占有スル時ハ其賣
 約ニテハ何故ニ物件ヲ賣主ノ手中ニ委テ置テ所有者之ヲ取還サ
 ル哉ヲ了解スル能ハス其故何ソヤ曰ク此買約ノ名義ニテハ決シテ
 一旦賣リ渡シタル物件ノ賣主ノ手中ニ在ル理由無ケレハナリ

〔千八百四十五號〕余カ説ヲ駁スル者アリ曰ク賣約ニ附文アリ明白ニ
 買主買物ヲ掌握スル時ニ非サレハ賣主之ヲ失ハスト載ス此附文ハ
 民法上ノ引渡ト呼フ者ナリ此引渡ノ附文アルヲ以テ賣主ノ實際ノ
 トラシヨシヨシウヤール

占有ハ所有者ノ名義無キ占有ナリ今我民法ノ基ク所ノ新主旨ニ從
 ヘハ此民法上ノ引渡ハ契約面ニ明載セサル時ハ暗ニ含蓄スル者ア
 リトス故ニ賣主ニ買物占有ヲ委テ置キタル理由モ亦明白ナリ〔第二
 帙千二百二十五號參觀〕

余此駁論ニ答ヘテ言ハン此民法上ノ引渡ハ純粹ノ想像ニシテ所有
 權變主ノ時ニ在ル者ナリ今賣主ハ賣渡サンコトヲ欲シ買主ハ買受ケ
 ンコトヲ欲シテ互ノ承諾ヲ以テ賣約ヲ結ヒ各自ノ目的ヲ達シ買主物
 件ヲ買得テ假令ヒ實際ニ之ヲ握持セサルモ所有權ハ業ニ已ニ主ヲ
 變シタルナリ變主全ク終リタルヲ以テ賣主買主約束ヲ實行ス可シ
 然ルニ賣主ハ引渡ヲ現行セスシテ買主カ己レノ手中ニ委遺シタル
 物件ヲ名義無ク占有スル有リ何ソ論者ノ説ノ如ク茲ニ所有權變主
 ノ時ニ論ス可キ引渡ノ想像ヲ掲出スルヲ要センヤ

千八百四十六號 第參 假有ノ効

假有ノ効ハ得權時効ノ發生ヲ妨礙ス然レモ負債主ノ始メ占有ヲ得タル名義ヨリ生シタル義務ニ附テハ免責時効ノ發生ヲ妨礙セス故ニ小作人借家人ノ如キハ假令ヒ其占有幾年ヲ經ルモ小作人又ハ借屋人ノ位置ニテ占有シタル物件ノ所有權ヲ得ル能ハス然リト雖モ小作料屋賃(小作料屋賃ハ五年ノ時効ニテ消滅ス第二千二百七十七條)過失ノ損害ノ償等ノ如ク人ニ對シテ生スル義務ハ第二千二百六十二條ノ通り時効ニ因リ其義務ヲ免カル、ニ妨ケ無シ附託物件ニ附テモ亦之ニ同シ假令ヒ其物件三十年四十年若クハ五十年間受託者ノ手中ニ委棄スト雖モ時効ニ據リ物上權ヲ失ハス附託者ノ常ニ其物件ノ所有者ニシテ物件返却ヲ求ムル權アリ然リト雖モ若シ附託者還與ノ期後三十年以上還與ノ執行ヲ求メサル時ハ附託者ノ最

初ニ求メタル物件還與ノ義務ト物件破損ノ償ノ義務ハ時効ニ因リ消滅ス

第二千二百三十八條 千八百四十七號 第肆 假有ノ占有ノ性質ヲ變シテ所有者ノ名義アル占有ト爲ス事

他人ノ所有トシテ始メタル占有ハ後ニ占有ノ原因ヲ所有者ノ名義ニ變シタルニ非サレハ終始所有者ノ名義ナキ者ナリトス(第二千二百三十一條)何等ノ所爲ニ因テ占有ノ名義ヲ變スル歟例之ハ小作人アリ所有權ヲ得ント欲シテ先ツ下作地ノ名義ヲ變スルカ爲メ森林ヲ伐リ又ハ家屋ヲ再造シテ所有者ノ爲ス可キ事ヲ爲シタリ然ルニ此所爲ハ所有者ノ名義無キ占有ヲ所有者ノ名義アル占有ニ變スルニ足ル歟曰ク否、小作人ニ唯、所有者トナル希望アルノミニテ自カラ其占有ノ原因ト主旨トヲ變改スル能ハス

時効妨礙ノ原因

又小作ヲ止メ小作料ヲ拂ハスシテ三十年ヲ經過セシ時ハ占有ニ所有者ノ名義無キ瑕瑾ヲ被ラセタル小作地還與ノ義務ハ消滅シ占有ハ所有者ノ名義アル者ニ更改シタリシ歟曰ク否占有ノ始原ニ存シタル其瑕瑾ハ決シテ消失セサルナリ

〔千八百四十八號〕所有者ノ名義無キ占有者其占有主ノ位置ヲ罷メタル時ト雖モ未タ所有者ノ名義アル占有主ト爲ル能ハス故ニ入額所得權ヲ有スル人ノ相續人ハ死者ノ入額所得權ヲ承續セス良シヤ其物件ヲ占有スルモ始メ死者カ之ヲ爲シタル如ク之ヲ爲スノミ故ナ以テ假令ヒ相續人ヨリ我ハ占有物ノ上ニ所有者ノ爲ス可キ所爲ヲ爲シタリ決シテ他人ノ所有物トシテ占有シタルニ非ス我ニ所有者ト爲ルノ希望アルコトハ吾行爲ニテ明白ナリト言フトモ時効ニ據リ所有權ヲ得ルコト能ハサルナリ故ニ曰ク死者所有者ノ名義無クシテ

始メタル占有ハ其相續人ニ至テモ所有者ノ名義無キ占有ナリ〔第一千八百三十九條第一項參觀〕

〔千八百四十九號〕所有者ノ名義無キ占有ノ性質ヲ所有者ノ名義アル占有ニ變スル所爲ハ自カラ法律ニ限[○]數[○]アリ即チ其所爲ハ下ノ二項ニ在リ

第一 外人ヨリ出テタル原因ニ由テ更改ス

第二 占有主カ爲シタル所有者ノ權ニ反スル事柄ニ由テ更改ス

〔千八百五十號〕第一 外人ヨリ生シタル原因ニ由テ名義ヲ更改ス○此變質ハ所持人始メハ所持人ノ名義無キ占有ヲ爲シ後チ外人ヨリ新ニ證書ヲ得テ然ル後チ所有者ノ所爲チナシタル時ニ在リ爰ニ要スル所ノ其新證書ノ性質ハ宜シク此外人ナシテ若シ眞ノ所有者ナラシメハ此證書ニ由テ占有主ニ所有權ヲ讓ル程ノ効力ヲ備フヘシ

時効妨礙ノ原因

爰ニ一例ヲ掲ク甲アリ乙ノ田畝ヲ丙ニ貸ス丙小作ノ契約ニ因テ其田畝ヲ所持ス是レ所有者ノ名義無キ占有ナリ故ニ時効ニ因テ之ヲ得ル能ハス然レモ其後甲ヨリ丙ニ其田畝ヲ賣ル其賣約ハ即チ新所爲ナリ以後丙ハ小作人ノ位置ニテ他人ノ爲メ之ヲ所持スルニ非ス名稱ト位置ト二ナカラ皆ナ既ニ變シ丙ハ賣約ニ因リ買主ノ位置ニテ自己ノ爲メニ占有ス是ニ於テ假有ノ瑕瑾ハ全ク消亡ス又甲ニ非スシテ他ノ人ヨリ丙ニ之ヲ賣渡シタリト假想シテモ其結果ハ上ニ同シ法律ニ於テモ亦然リ

然ラハ若シ所有者ノ名義無キ所持人其物件ヲ所有者ニ非サル人ヨリ買受ケタル時ト雖モ亦名義ヲ更改スル歟余是ニ論スル所アリ若シ賣約確實ニシテ所有者ト爲ルニ適當ナル人ノ間ニ成リタル契約ニ係ル時ハ假令ヒ所持人其賣主ノ眞所有者ニ非サルノ實ヲ知リ

テ買受ケタル時ト雖モ其賣約ヲ以テ以後所有者ノ名義アル所持人トナル可シ此賣約以後ノ占有ハ其原買主ノ不正ニ出ツルト雖モ惡意ノ占有ハ時効ヲ妨遮セサルヲ以テ三十年ヲ經過スレハ時効ヲ生ス若シ僞所有者ナルヲ知ラス良心ニテ結ヒタル買約ナレハ十年若クハ二十年ニテ完全ス(第二千二百六十二條、第二千二百六十五條、第二千二百六十六條)

然リト雖モ詐詭明白ニシテ殆ト戯謔ニ類似シタル賣約ヲ以テ所有者ノ名義ノ缺虧ヨリ生シタル瑕瑾ヲ消亡スル能ハス例之ハ小作人其耕作ノ田畝ヲ自己ノ家奴又ハ全ク田畝ニ關係ナキ人ヨリ買受ケタリ然レモ自カラ保ツ所ノ占有ノ原因ヲ自カラ更改スル能ハス故ニ此買約ニテハ占有ノ原因ヲ更改スルヲ得ス若シ此買約ニシテ占有ノ原因ヲ更改スル者トナサハ是レ一己ノ心ニ由リ外人ノ所爲ナ

ク小作地ノ所有者タラント欲スル人ト豫メ所有者ト爲ルニ適當ナル人ト賣約シテ然ル後チ所有者ノ所爲チナシタル人ト其間異ナル無キナリ

故ニ所有者ノ名義無キ所持人其所持スル所ノ物件チ其先主ヨリ買受ケシ時ハ所有者ノ名義アル占有ニ更改ス又之チ全キ外人ヨリ買取リタル時ト雖モ純粹ノ虛誕ニ出タル買約ニ非サル以上ハ占有ノ名義チ變ス

〔千八百五十一號〕然レモ假令ヒ所有者ノ名義アリテ占有シタル時ト雖モ時効發生ニ必要ナル他ノ要件チ併具セサレハ時効チ生セス故ニ占有ノ隱匿曖昧ハ宜シク注意シテ之チ避クヘシ占有主一旦名義チ更改スル後チ若シ外貌アル所爲チ以テ自己ノ物トシテ占有スルノ意チ彰表セサル時ハ其占有ハ隱匿ニシテ且ツ曖昧ナリトス例之

ハ小作人小作地チ買受ケ而シテ以前ノ通り地主ニ小作料チ拂ヒ自己ノ所爲チ以テ所有者ノ名義アル占有チ彰表セス自カラ小作人ナリトシ之チ有スル時ハ所有者ノ名義アル占有チ隱匿シタルナリ何トナレハ田地ノ所持ハ隱匿ナラスト雖モ所有者ノ名義ノ有ル所チ彰表セサルチ以テ此名義ノ點ニ於テ占有チ隱匿シタル者トス又其占有ハ曖昧タル者ナリト言ハサルチ得ス何トナレハ占有ノ所有者ノ名義アル所チ彰表セサルチ以テ果シテ此小作人ハ自身ノ所有トシテ田地チ所持セシヤ或ハ地主ノ所有トシテ之チ所持セシヤ其如何ハ他ヨリ得テ推知シ能ハサレハナリ
例之ハ又爰ニ入額所得權チ有スル人アリ該權チ執行シタル不動産チ買ヒ證書チ匿シ舊日ノ如ク權チ行フ而シテ虛有權ニ對シテ其面目チ更メス此場合ニ在テハ其占有ハ隱匿シ且ツ曖昧ナル者トス然

時効妨礙ノ原因

リト雖モ名義ノ改更ヲ彰表スル爲メニ賣買證書ヲ虛有權ヲ有スル人ニ通知スルニハ及ハサルナリ唯、公明ナル所爲ニ因リ向後自己ノ所有トシテ占有スル意ヲ他人ノ知ルニ任スヲ以テ足レリトス

（千八百五十二號）第二 占有主ノ爲シタル所有者ノ權ニ反スル事柄ニ由テ名義ヲ更改ス

甲ナル所持人ニ式ニ據テ認メタル確實ナル證書有リテ乙ナル所有者ト爭ヲ生シ遂ニ乙ヲ以テ物主トナサス向後自己ノ爲メニ占有スル旨ヲ充分ニ乙ニ示シ得タル時ニ占有ノ名義ヲ更改ス此所有權ニ反スル事柄ハ下ノ二ノ場合アリ

第一 裁判上ノ所爲ニ在リ。○裁判上ノ所爲トハ小作料拂方ニ附キ裁判喚出ヲ受ケタル小作人ヨリ答フルニ是迄小作地トシテ借受ケタル地面ハ我所有物ナルヲ以テ小作料辨濟ノ義務ヲ負ハサル旨ヲ

以テシタル時所有者ハ直ニ權利ノ在ル所ヲ明辯シ小作人ノ非理ヲ論破ス可キニ却テ三十年間黙過シタル場合ヲ言フナリ此時ハ占有

主（小作人）ハ時効ヲ得

第二 裁判外ノ所爲ニ在リ。○此所爲ニニアリ一ハ占有主ヨリ己レノ存意ヲ知ラシムル所ノ告知書例之ハ小作人裁判所ノ使吏ニ依リ地主ニ告知書ヲ與ヘテ曰ク是迄吾カ小作トシテ所持シタル田地ハ何某ノ所有ニシテ足下ノ所爲ニ非サルヲ發見シタリ然ルニ吾ハ當時何某ノ相續人ナルノ故ヲ以テ吾レハ足下ニ對シテ小作料ヲ拂フノ義務ナシト一ハ單一ノ所爲ナリ例之ハ入額所得權ヲ有スル人アリ其終期ノ後ヲ田地ノ返還ヲ拒ミ勢ヲ以テ所有權ニ抗シ所有者ヲ田地ヨリ收益スルヲ得サラシム此ニ由テ之ヲ觀レハ所有者ノ權利ニ反スル事柄ハ必シモ裁判上ニ在ルヲ要スルニ非ス唯、所有者ノ

名義無キ所有者ノ有式有力ノ所爲ニ據リ所有者ノ執行スル權利ニ抵抗スルヲ以テ足レリトス故ニ此等ノ所爲ノ有無ハ專ラ事實ニ由テ知ル可シ若シ果シテ此所爲アリテ三十年ヲ經過スレハ時効ヲ生ス

第一千二百三十七條

第一千八百五十三號 第五 假有ノ所持人ノ不特定名義ノ相續人及ヒ其特定名義ノ參權者ノ事

第一千二百三十八條ニ掲載スル所ノ原因ノ内一箇ヲ以テ假有ノ瑕瑾ヲ消去スルニ非サレハ其瑕瑾ハ占有ニ附帶シテ本主ヨリ後主ニ讓リ後主ヨリ又其後主ニ讓リ遂ニ久遠ニ及ホス此瑕瑾ヲ生シタル本主ノ位置ニ於テ相續セサル時ト雖モ同シク瑕瑾ハ久遠ニ連綿シテ消ヘス(千八百三十九號、千八百四十八號參觀)

上文ノ規則ハ少シク正理ニ反スル所アルカ如シ何トナレハ此規則

ニ循ヘハ或ハ久遠ニ所有權ノ歸スル所ヲ分明ナラシメサルノ弊アレハナリ例之ハ一家ノ中ニ數百年前先祖ヨリ所有者ノ名義無キ位置ニテ占有シ來リタル財寶アリテ既ニ數十人ノ相續スル所トナレリ然レモ上文ノ規則ノ在ルアリテ數多ノ相續人一人トシテ時効ニ因リ所有權ヲ得ル者ナケレハ幾萬年ヲ經過スルモ資産保存ノ安全ヲ得ス遂ニ何人ノ所有タルヲ知ル可カラサルナリ

第一千二百三十九條

第一千八百五十四號 假有ハ假有ノ所持人ノ特定ノ名義アル後主ニ對シテ時効ノ發生ヲ妨遮セス故ニ小作人、借屋人ノ如キハ自カラ時効ヲ得ル能ハスト雖モ若シ其所持スル所ノ物件ヲ他ニ賣渡シ又ハ贈與シ或ハ遺囑スルニ至レハ買主、受贈者、受遺囑者等ノ參權者ハ所有者ノ名義缺虧ヨリ生スル瑕瑾ヲ承續スルニ非ス物件ヲ得ルノ後チ自カラ新占有ヲ始ムルナリ向後隱匿曖昧ノ事ナキ時ハ參權者ハ時効

時効妨礙ノ原因

ヲ得可キ位置ニ居ルナリ(千八百四十號參觀)甲小作ノ名義ヲ以テ所持シタル不動産ヲ乙ニ賣渡シタリ買主ハ眞所有者ノ取還ノ訴訟ヲ起サントシテ恐レ賣主ト計テ占有ヲ祕シ以前ノ通り小作料ヲ拂ヒ所有者ニ占有ノ存在ヲ知ラシメス買主ノ占有ニハ所有者ノ名義アリト雖モ亦隱匿ノ瑕瑾アリ此瑕瑾ヲ消滅セサル時ハ決シテ時効ヲ生

第一千二百四十四條第二十二條

セ六
千八百五十五號) 證書ニ記シタル名義ニ反シテ時効ヲ得可カラスト云フノ規則

法律ノ吾ニ教ヘテ曰ク何人ヲ論セス物件ヲ占有スルニ附テノ原因ト主旨トチ自カラ更改スルコトヲ得サルカ故ニ占有ノ因テ來タル所ノ證書ニ所有者ノ名義無キ時ハ其名義ニテ時効ヲ得可カラス故ニ第一千二百三十八條ニ循ヒ占有ノ原因ヲ改更セサル以上ハ時効ヲ

生セス(千八百四十五號以下參觀)然リト雖モ亦下ノ二項ノ通り證書ニ在ル名義ニ反シテ時効ヲ生スル事アリ

第一 所有者ノ名義ナキ所持者ト雖モ受託者、借主、借屋人、耕作人、小作人、入額所得者ノ位置ニテ負フタル人權上ノ義務ヲ時効ニ因リ免カル、ヲ得ルコト有リ(千八百四十六號參觀)

第二 總テ負債者ハ債者ニ訴ヘラレスシテ三十年ヲ過キシ時ハ假令ヒ債主ヨリ證書ヲ出シ負債ノ存在ヲ辯解スト雖モ其證書ニ反シテ時効ニ因リ責ヲ免カル、コトヲ得此場合ニ於テハ負債主ノ名義ニ反シテ責ヲ免カル、ナリ然ラハ則チ證書ニ在ル名義ニ反シテ時効ヲ生セスト云フ規則ハ免責時効ニ適用セス唯得權時効ニノミ適用ス可シ○得權時効ニ附テハ第一千二百四十條ニ在ル特別ノ意味ニ此規則ヲ解ス

時効妨礙ノ原因

可シ故ニ證書ノ名義ニハ二丁ノ田ヲ買ヒ實際ニ三丁ノ田ヲ所持スル人時効ニ因リ占有ノ全部ヲ得ルモ此規則ニ於テ妨礙ナシ

○第四章 時効ノ斷絶又ハ停止ノ原因

アンデロムフシヨシ シユスバンシヨシ

〔千八百五十六號〕總論

時効ノ斷絶トハ時効ノ進行中ニ生シタル妨礙ナリ而シテ其妨礙ノ効ハ既ニ經過シタル歲月ヲシテ時効ノ用ヲ爲サシメサルナリ然ルト雖モ占有主或ハ所持者ノ時効ヲ再始スルニハ敢テ妨礙スル所ナク又斷絶アリト雖モ一般ニ時効ノ他ノ要件ノ性質ヲ變セス物件ノ占有ト所有者ノ默過トニ基キタル得權時効ノ場合ニ於テハ斷絶ハ占有休止ヨリ生シ或ハ占有主ニ對シテ所有者ヨリ爲シタル法律上ノ出訴ヨリ生シ或ハ時効ニ因リ權ヲ失フ可キ人ノ權ヲ占有主ヨリ見認ムルニ因テ生ス(第二千二百四十三條、第二千二百四十四

條、第二千二百四十八條)

有權者ノ默過ニ基キタル免責時効ノ場合ニ於テ斷絶ハ或ハ委棄シテ消滅ニ垂タル權利ヲ實行スルニ因テ生シ(第七百六條)或ハ負債主ニ對シテ債主ヨリ爲シタル法律上ノ出訴ニ因テ生シ或ハ負債主ヨリ債主ノ權利ヲ見認ムルニ因テ生ス

時効ノ停止トハ時効ノ發期ヲ支ヘ(第二千二百五十七條)或ハ進行ヲ停ムル所ノ一時ノ妨礙ナリ一時停止スト雖モ既ニ經過シタル歲月ヲ棄テ用ヲ爲サ、ラシムルニ非ス又決シテ時効ヲ變スルヲ無シ故ニ若シ一時停止シテ後チ停止ノ原因ヲ除却シタル時ハ再ヒ時効ノ期ヲ起シ停止ノ始日ト終日ノ中間ノ歲月ヲ引去リ其殘數ノ日月ヲ經過スレハ時効ヲ生ス一人ノ負債主アリ二十九年間債主ノ催促ヲ受ケス是ニ於テ今一箇年ヲ經過セハ時効ノ權ヲ得可シ然レモ不幸

時効ノ斷絶又ハ停止ノ原因

ニシテ債主幼年ノ相續人ヲ遺シテ死亡(債主ノ幼年ハ時効停止ノ一原ナリ)第二千二百二十五條(此時ハ新債主ノ幼年間時効ヲ停止シ債主ノ丁年ニ達スルヤ否ヤ時効ヲ再始シテ停止ニ因リ缺虧シタル時日ヲ完全ス(故ニ債主ノ丁年ヨリ全一年ニテ完全ス))
 上文ニ説ク如ク斷絶ト停止ヲ混淆スル勿レ其間大ナル差異アリ
 斷絶ハ其効ヲ過去ニ向テ生ス故ニ既ニ經過シタル歲月ヲ消滅シ以後若シ時効ヲ得ント欲セハ未ダ嘗テ時効ヲ始メサル者ノ如ク新ニ之ヲ始ム可シ
 停止ハ其効ヲ未來ニ生スルノミ故ニ既ニ經過シタル歲月ヲ保存シ停止ヲ終ル日以後ノ歲月ニ加算スルヲ得可シ
 斷絶ノ効ハ過去ニ非サレハ生セズ停止ノ効ハ未來ニ非サレハ生セズ故ニ停止ハ時効ヲ斷絶セズ斷絶ハ之ヲ停止セズト言フハ甚ダ理

260
 261
 262

アリ

〔千八百五十八號〕斷絶停止ト斷絶停止ヲ生スル所爲ト混淆スル勿レ夫レ斷絶ハ斷絶スル迄ノコトヲ停止セズ停止ハ停止スル迄ノコトヲ斷絶セスト雖モ其斷絶停止ヲ生スル所爲ニハ其斷絶停止ヲ含有スル者アリ例之ハ一人ノ債主アリ負債ノ當時既ニ返済ス可ク爲リタルヲ知リテ更ニ債主ト何日間ニ辨済ス可シト契約ス是ニ於テ時効ハ一時ニ斷絶停止ス蓋シ負債主ヨリ負債ノ存在ヲ認メシヲ以テ斷絶ナリトス(第二千二百四十八條)當時此負債ニ豫定ノ期日アルヲ以テ停止ナリトス(第二千二百五十八條)故ニ此例ニハ二ノ所爲ヲ併合ス即チ一ハ時効ヲ斷絶スル所ノ負債認定他ハ之ヲ停止スル所ノ延期ノ約諾ナリ

263
 264
 265

〔千八百五十九號〕斷絶ス可キ所爲アルニ因リ獨リ斷絶停止ヲ生スル

時効ノ斷絶又ハ停止ノ原因

ノミナラス時効ヲ得ント欲スルモ全ク能ハサルコト有リ例之ハ占有主時効ヲ得可キ位置ニ在テ占有ヲ棄捨シタル時効ヲ斷絶スルノミナラス之ヲ得ント欲スルモ能ハサルナリ蓋シ占有無キ時ハ時効ヲケレハナリ

茲ニ斷絶ノコトニ附テ余カ説ヲ略言セン時効ヲ得可キ位置ニ在テ斷絶ヲ生シタル所爲ニ斷絶停止ノ兩質ヲ具ヘタル所爲ヲ加附セサル時ハ斷絶ハ既ニ經過シタル歲月ノ用ヲ爲サ、ル迄ニテ向後新ニ時効ヲ再始スルニハ妨ケ無シ

〔千八百六十號〕時トシテハ時効ノ斷絶ヲ生ス可キ所爲ノ効ヲ以テ時効ノ期日ヲ改更シ大時効ヲ小時効ニ變シ小時効ヲ大時効ニ變スルコト有リ例之ハ甲ヨリ乙ノ拂フ可キ爲換手形ヲ出ス是ニ於テ甲ハ債主ナリ乙ハ負債主ナリ然ルニ乙ハ甲ニ對シテ再三商事ノ性質ナキ

民事ノ所爲ニテ負債ヲ認定セリ(爲換手形ハ商事ナリ)今乙カ負債ノ認定ニテ斷絶シタル時効ハ原ト五年(小時効)ニテ完全スル者ナリト雖モ斷絶ノ日ヨリ向後發生スル所ノ時効ハ三十年(大時効)ヲ經ルニ非サレハ完全セス(商法第百八十九條)故ニ曰ク斷絶ヲ生ス可キ所爲ノ効ハ小時効ヲ大時効ニ變スルコト有リ又例之ハ甲乙ニ對シテ通常ノ負債アリ甲ヨリ債主ノ爲メニ爲換手形ヲ出シテ時効ヲ斷絶ス斷絶ノ後ニ始ムル所ノ時効ハ三十年(大時効)ニ非ス五年(小時効)ニシテ完全ス故ニ曰ク斷絶ヲ生ス可キ所爲ノ効ハ大時効ヲ小時効ニ變スルコト有リ

〔千八百六十一號〕上文第二例ニ縮言セン負債主アリ證書ヲ以テ期限ニ至リタル五年ノ時効ニテ消滅ス可キ負債ヲ自認シ(第二千二百七十七條)向後一年間ニ辨濟ス可キ旨ヲ約ス此新約ハ時効ヲ斷絶停止

時効ノ斷絶又ハ停止ノ原因

改更ス下ニ斷絶停止改更ノ同時ニ來ルノ理ヲ説示サン

一 斷絶ス○蓋シ負債主其負債ノ存在ヲ自認スレハナリ(第二千二百四十八條)一旦斷絶スル以上ハ向後既ニ經過シタル歲月ヲ算入スルヲ得ス

二 停止ス○蓋シ新負債ニ豫定ノ期日アレハナリ(第二千二百五十七條)一旦停止スル以上ハ辨濟ノ兩約書ノ日附ト其期限トノ中間ニ經過シタル歲月ヲ算入スルヲ得ス

三 時期ヲ三十年ノ時効ニ改更ス○蓋シ舊負債ハ五年ノ時効ニテ消滅スト雖モ新負債ハ普通法ノ域内ニ變入シタレハナリ

○第一款 斷絶

第二千二百四十二條第二千二百四十三條

〔千八百六十二號〕斷絶ニ二種アリ一曰ク自然ノ斷絶二曰ク民法上ノ斷絶

○第一節 自然ノ斷絶

〔千八百六十三號〕自然ノ斷絶ハ占有主占有ヲ止メシ時ニ在リ其占有ヲ止ムルハ下ノ二項ニ在リ

第一項 占有主隨意ニ占有ヲ棄捨ス此項ニ於テハ一度棄捨シタル占有ハ再ヒ恢復スルヲ得ス占有主ハ新占有ヲ得能フハ論ヲ俟タスト雖モ舊占有ハ決シテ再ヒ之ヲ得ル能ハス舊占有ノ棄捨ト新占有ヲ得タル日ノ間ニ一年ヨリ少ナキ歲月アリト雖モ舊占有ハ再得シ能ハサルナリ(千八百一十一號參觀)

第二項 占有主一年ヨリ多キ間外人ノ所爲ニ因リ物件ノ收益ヲ失フタル時

〔附言〕時効進行中ニ占有ノ物件其品位ヲ變シテ時効ヲ生ス可カラサル物件ノ列ニ入りタル時モ亦自然ノ斷絶アリトス然レモ此

斷絶 自然ノ斷絶

斷絶アラシムルニハ品位ノ變更ハ永久ニシテ物件全ク賣買ス可
カラサル者ナルヲ要ス若シ此品位ノ變更一時ニ止マル時即チ占
有ノ物件嫁資財産トナリ讓與ス可カラサル者ト變シタル場合ニ
於テハ時効ヲ斷絶セス(四百六號參觀)

上文ニ曰ク一年ヨリ多キ間云々夫レ他人ノ行爲ニ由リ占有ヲ失フ
タル占有主ハ占有ノ訴或ハ占有物ノ所有權要求ノ訴ニ據リ其占有
ヲ恢復スルヲ得故チ以テ若シ占有主占有ヲ失フタル日ヨリ一年ノ
間ニ此訴訟ヲ爲シ失亡シタル不動産ヲ恢復シタル時ハ此占有主ヲ
嘗テ占有ヲ止メサル者ト看做ス(千八百十二號參觀)一年間ニ訴訟ヲ
起シ裁判ノ宣告ハ數年ノ後ニ在リト雖モ亦之ニ同シ實ニ然リ其裁
判ノ延滞ヲ以テ原告人ニ害チ加フ可カラス假令ヒ裁判ヲ延滞シタ
リト雖モ原告人ハ起訟ノ時直ニ裁判ヲ得ル時ト同一ノ位置ニ在ル

可キハ自然ノ理ナリ○若シ占有主一箇年間ニ訴訟ヲ起サス默過シ
タル時ハ彌^ニ占有ヲ失フ故ニ占有主後日ニ到リ占有物ノ所有權要求
ノ訴訟或ハ他ノ方法ニテ新ニ占有ヲ得ルヲ有リト雖モ一旦亡失シ
テ一年間ニ訟ヲ起サ、ル時ハ決シテ其占有ヲ恢復スル能ハス舊占
有ハ全ク消滅シ假令ヒ時効ヲ再始スルヲ有リト雖モ之ヲ算入スル
ヲ得ス

〔附言〕 占有主其占有ヲ失フタル時ヨリ一年ノ後チ占有物ノ所有
權要求ノ訴ヲナシ勝訴訟トナリタル時ハ自己ノ新占有ニ敵手ノ
占有ヲ合算スルヲ得可シ然レモ自カラ失フタル占有ハ合算スル
ヲ得ス

上文ニ又曰ク外人ノ所爲ニ因リ云々外人トハ法律ニ於テ其誰ナル
ヲ明言セサルヲ以テ所有者及ヒ他ノ人ヲ指スヲト知ル可シ又法律

ニ於テ外人ノ所爲ノ暴行ニ出ツルヤ否ヤチ分タス故ニ唯、占有ヲ剝奪サレシ占有主一年ヨリ多キ間詞訟ヲ致サ、ル時ハ其占有ヲ失フ
〔千八百六十四號〕自然ノ斷絶ト民法上ノ斷絶ト其異ナル所ハ左ノ如

第一 自然ノ斷絶ハ得權時効ニ限ル民法上ノ斷絶ハ得權時効ト免責時効トニ普ク通ス

〔附言〕 然レヒ人ニ對スル土地ノ義務及ヒ物ニ係ル繼續ナキ土地ノ義務ノ免責時効ニハ自然ノ斷絶アリ此等ノ土地ノ義務ハ實用セサルヲ以テ消滅ス例之ハ此土地ノ義務ニ附キ權利ヲ有スル者二十九年度迄ハ權利ヲ使用セシテ此年ヨリ收益ノ所爲ヲ始メタル時ハ自然ノ斷絶アリ何トナレハ第六百十六條及ヒ第七百七條ニ於テ權利ヲ實用セサルニ因リ土地ノ義務ノ消滅スル期限ハ

最終ノ收益ノ所爲ヨリ起算スト有レハナリ
第二 自然ノ斷絶ハ占有止休ノ時ニ在テ何人ニ對シテモ時効ノ妨礙ナリ民法上ノ斷絶ノ効ハ人ニ對シテ別アリ故ニ通例斷絶ノ利益アルハ斷絶セシメタル人ナリ占有主ノ方ヨリ言ヘハ斷絶ハ占有者ト反對ノ位置ニ在ル人ニ對シテノミ其効アリ〔千八百八十三號以下

參觀

○第二節 民法上ノ斷絶

第一千二百四十四條

〔千八百六十五號〕民法上ノ斷絶ハ下ノ五項ヨリ生ス

- 第一 裁判呼出
- 第二 要決書
- 第三 財産差押
- 第四 勸解裁判所ノ呼出○但シ呼出ノ後チ一箇月内ニ本裁判所ニ

民法上ノ斷絶

出訴シタル時ニ限ル

第五 占有主ノナシタル所有者ノ權利ノ自認シ又ハ負債主ノナシタル債主ノ權利自認

(千八百六十六號) 第壹 裁判呼出(シタシヨン)

抑シタシヨン(裁判呼出)トハ一ノ訟人對手ノ被告者ヲ喚テ己レノ願狀ヲ聽カシムル爲メニ裁判所ノ使吏ニ依頼シテ裁判所ニ出頭ヲ促ス事ナリ治安裁判所ニ喚出ス時ハ之ヲ「シタシヨン」云々(喚出ノ義)其他ノ裁判所ニ呼出ス時ハ之ヲ「アシユールスマン」或ハ「アスシニヤシヨ」ニナカラ喚出ノ義ト謂フ(訴訟法第一條及第二卷第二章參觀)然レモ本節ニ用フル「シタシヨン」ノ語ハ汎キ意義ニ解ス可シ故ニ總テ裁判所ノ使吏ニ依リ書狀ヲ作テ起ス所ノ出訴ヲ指スナリ然レモ法文中ニ總テ出訴ノ意ニ呼出(シタシヨン)ノ語ヲ用フルカ如

キハ正シカラサル者ノ如シ夫レ出訴ニ呼出ノ式ヲ要セサル者アリ附帶ノ訴訟及ヒ起訴人ニ對シテ更ニ起ス訴(ドマン、ドルコンワンシヨ)ンチール)ノ如キハ單一ノ敬慎願書或ハ代訟人ヨリ代訟人ニ送ル書狀ニテ事足ル(訴訟法第三百三十七條以下及第四百六十五條參觀)此等ノ訴訟ハ呼出ノ式ニ用ヒスト雖モ唯、出訴ノ件ヲ以テ時効ヲ斷絶スルコトハ人ノ疑ハサル所ナリ

故ニ法文ヲ改良セント欲セハ呼出ノ式ヲ用ヒ、或ハ用ヒスシテ爲シタル總テノ出訴ハ、時効ヲ斷絶スト書ス可シ

第二千二百四十六條

(千八百六十七號) 管轄外ノ判官ニ出訴シタル時ト雖モ其出訴ハ時効

ヲ斷絶ス實ニ裁判管轄ノ法ハ精密ニシテ知り易キ者ニ非サレハ裁判事務ノ熟練者ト雖モ往々此點ニ誤ルコト有リ是ヲ以テ法律ハ原告人ヲシテ此避ケ難キ過誤ニ因リ害ヲ被ラシムルヲ欲セス故ニ曰ク

管轄外ノ判官ニ出訴シタル時ト雖モ其出訴ハ時効ヲ斷絶スト法律
 ハ物ニ因リ「ラシチチー、マテリエ」譯者曰ク不動産訴訟ハ不動産所在
 ノ裁判所ヲ管轄トスルカ如キヲ管轄物ニ因ルト謂フ或ハ人ニ依リ
 「ラシチチー、ベルソチー」譯者曰ク貸借訴訟ハ被告人所住ノ裁判所ヲ
 管轄トスルカ如キヲ管轄人ニ依ルト謂フ「裁判管轄違アリト雖モ
 上文ニ同シトス例之ハ不動産取戻ヲ治安裁判所或ハ商事裁判所ニ
 出訴シタリ此時裁判管轄當ヲ得スト雖モ時効ヲ斷絶ス
 然レモ斯ノ如キ管轄ノ誤謬ハ通常ノ人ト雖モ之ヲ避クルハ甚タ易
 シ今此誤謬アルモ時効ヲ斷絶スルト爲スハ法律其適度ヲ失フカ如
 シ然レモ他ニ明文ナキヲ以テ此法律ヲ遵守ス可キハ論ヲ俟タサル
 ナリ

第一千二百四十七條 出訴或ハ勸解裁判ノ出訴ノ効ハ時効ヲ斷絶スト雖

モ此効ヲ生スルト生セサルトハ出訴ノ上裁判決案如何ニ係ル故ニ
 出訴ノ後ヲ裁判ニテ原告人ノ權利ナシト決シタル時ハ時効ヲ斷絶
 セス

故ニ出訴アリト雖モ下ノ四項ニ於テハ時効ヲ斷絶セス

第一 法式ノ缺虧ニ因リ呼出ノ効ヲ失フタル時云々

此缺式ニ因リ時効ノ斷絶ヲ止メント欲セハ宜シク訴訟ノ初メニ於
 テ被告人ヨリ呼出ノ無効ヲ申立ツヘシ何トナレハ呼出取消ノ訴ハ
 (裁判管轄違ノ申立ノ外)總テ辯論ヲ爲シ又ハ訴訟ニ故障ヲ述フル前
 ニ之ヲ爲スニ非サレハ一方ノ者ヨリ其効ヲ補フヲ得レハナリ(訴

訟法第七十三條)

呼出ノ失効ハ時効ノ斷絶ヲ休止スト言フ規則ハ過嚴ニシテ且ツ上
 文ニ述ヘタル管轄違ノ裁判所ニ爲シタル出訴ト雖モ時効ヲ斷絶ス

ト云フ規則ト其間權衡ヲ得サル者ノ如シ裁判管轄法ハ精密ニシテ適當ニ出訴ス可キ裁判所ノ甲ニ在リ乙ニ在リト知り得ルハ實ニ容易ニ非サレハ此過誤ヲ爲スノ人ニシテ決シテ其過誤ノ害ヲ被ムル可カラス故ニ裁判所ノ管轄ナルト否ヲ問ハス時効ヲ斷絶ス然ルニ今呼出ノ無効ハ呼出狀作爲ニ附キ爲シタル過失ヨリ生スル者ニシテ法律ニ於テハ此失効アレハ時効ヲ斷絶セストナス故ニ原告人ハ時効ニテ權利ヲ失フ有ルハ必然ナリ裁判管轄ノ過誤ハ大ナリト雖モ之ヲ問ハス呼出狀作爲ノ過誤ハ小ナレトモ之ヲ許サス何ソ法律ノ一ニ寛裕ニシテ他ニ苛酷ナルノ甚シキヤ故ニ彼ト此ト比較セハ其間權衡ヲ失フ者ト謂ハサルヲ得ス然リト雖モ法律ノ明文アル以上ハ如何トモ爲シ難シ

〔千八百六十九號〕 第二 原告人ヨリ訴ヲ願下ケシ時云々法律ノ意ハ

原告人ノ訴ヲ願ヒ下ケシハ其願筋乃チ己レカ願旨トスル所ノ權利ヲ拋棄シタル時ニ非ス(若シ其權利ヲ拋棄セハ既ニ時効ヲ言フニ及ハス)當ニ既ニ始メタル訴訟ヲ自カラ止ムル時ニ在リ然ル時ハ此原告人ハ一旦訴ヘタル物件ヲ出訴以前ト位置ノ儘ニシテ自カラ安スルナリ故ニ假令ヒ原告人ノ權利ハ現存スル者ト知ルモ其時効ハ繼續シテ斷絶セス何トナレハ斷絶ノ効ヲ生ス可キ出訴ハ既ニ無効ニシテ成立サル者トナレハナリ

〔千八百七十號〕 第三 原告人訴訟ヲ永キ時間其儘捨置キタル時原告人ノ訴訟ヲ其儘ニ捨置クヤ其意ヲ審考スレハ是レ原告人自カラ訴訟ヲ默棄スルナリ蓋シ此時原告人ハ自カラ訴訟ヲ止メタル者ト看做スノ推測アレハナリ故ニ法式ニ循フタル手續ヲ以テ訟詞ヲ起シタル原告人ト雖モ其後チ三年間(或ル場合ニテハ三年半)訴訟ヲ續ケ

ス其儘捨置ク有ル時ハ其黙過ニ因リ原告人ハ訴權ヲ棄捨シ自カ
ラ好テ訴訟ヲ止メシ者ト推測ス然リト雖モ此推測ハ三年ヲ過クレ
ハ必シモ生スルト言フニハ非ス被告人ヨリ此推測ヲ願ハサル時ハ
其訴權ハ依然トシテ存ス又推測ヲ願フノ前ニ原被兩造ノ間ニ新ニ
訴訟書類或ハ有効ノ書類ヲ取換シタル有ル時ハ其推測ヲ取消シ
被告ハ推測ヲ引キ時効ノ斷絶ナシト言フヲ得ス

原告人ノ訴訟ヲ等閑ニスルハ原告人自カラ好テ明白ニ訴訟ヲ止ム
ルト一般訴訟ヲ止ムルト雖モ其訴權ヲ失フニハ非サルナリ然レモ
嘗テ訴訟ヲ始メサル者ト看做スヲ以テ訴訟捨置ノ間ニ經過シタル
時効ニ因テ訴權ヲ失フ有リ(訴訟法第三百九十七條ヨリ第四百一
條マテ參觀)例之ハ茲ニ二十九年以來返濟期限切レニナリタル人權
アリ債主一度出訴シ以後其訴訟ヲ其儘ニ捨置ク其時訴訟ハ効ナキ

者ト爲ス故ニ時効ヲ斷絶セスシテ訴訟中ニ時効ヲ完全スル有リ
此ニ由テ之ヲ觀レハ原告人ノ等閑ヨリ生シタル訴訟ノ委棄ハ時効
ヲ斷絶セスシテ却テ間接ニ權利ノ消滅ヲ來ス者ナリ

〔千八百七十一號〕 第四

訴訟ノ却下ニ逢ヒタル時此項ハ極メテ難題

ナリ夫レ裁判所ヨリ訟詞ヲ受理セスシテ原告人ニ訴狀ヲ却下シタ
ル時ハ是レ原告人ノ負公事ナリ既ニ負公事タル以上原告人ハ其訟
詞ノ訴權ヲ失フ之レヨリシテ又被告人ニハ既判件ノ方アリテ自防
スレハ他人ニ告ケラル、ノ患ナシ故ニ被告人ハ以後原告人ヨリ望
ム所アルモ時効ヲ申立ルニ及ハス然ルニ法律ニ於テ訴狀却下ニ逢
フタル原告人ノ出訴ハ時効ヲ斷絶セス時効ハ繼續スルナリト有リ
之ヲ一見スレハ此法文ハ無用ノ者ニ似タリ然レモ是レ必ス冗條ニ
非サル可シ須ラク法意ノ何ノ所ニ在ルヤヲ研究スヘシ

爰ニ一例ヲ假想シ法意ノ在ル所ヲ詳説ス可シ
 連帶債主ノ一人訟廷ニ出訴ス此人ハ他ノ債主ヲ代理スルヲ以テ此
 出訴ニ由リ獨リ當人ノミナラス總テ他ノ連帶債主ノ爲メニモ時効
 ナ斷絶ス(第二帙千百四十三號第二項參觀然レモ原告人不幸ニシテ
 負公事トナリタリ其時勿論當人ニ債主ノ權利無キヲ明白ナレハ最
 早時効ノ斷絶ノ有無ヲ論スルニ及ハス然レモ原告人ノ權利ヲ失フ
 タル既判件ノ力ハ他ノ連帶債主ニ對シテ力無シ(第二帙千六百二十
 八號參觀)故ニ此債主等ハ新ニ出訴スルヲ得然レモ彼等ヨリ先債
 主ノ爲シタル出訴ニテ時効ハ既ニ斷絶シタリト主張スルヲ得ス何
 トナレハ既ニ却下サレタル訴ハ無効ナレハナリ
 不可分ノ物件ノ債主アリ此物件ニ附キ債主ノ一人ヲ訴フ此出訴
 ハ被告タル負債主一人ノミナラス他ノ負債主ニ對シテモ時効ヲ斷

絶ス(第二千二百四十九條)然レモ此債主負公事トナリタル時ハ最早
 被告タル負債主ハ第二千二百四十七條ヲ掲ケ來テ時効斷絶セサル
 旨ヲ申立ルニ及ハス既判件ノ力ノ保護アリ亦更ニ告ケラル、ノ思
 無キナリ然リト雖モ未タ告セラレサル他ノ負債主ハ債主ニ對シテ
 既判件ノ力ニ因リ自防スルヲ得ス蓋シ彼等未タ訴訟ニ現出セサル
 ナ以テ既ニ訴ヘラレタル負債主トハ異ナリ是ニ於テ債主ノ權利ハ
 未タ訴ヘサル負債主ニ對シテ十全ニ存スルヲ以テ彼等新ニ訴ヲ受
 ルヲ得可シ其被告トナルニ當テ負債主ヨリ先負債主ニ對シテ起シ
 タル出訴ハ却下ニ逢フタルヲ以テ時効ハ嘗テ斷絶セサルナリト申
 立ルヲ有ル可シ

是ニ由テ考フレハ訴訟却下ニ逢フタル原告人ノ訴ハ時効ヲ斷絶セ
 スト云フ法文ノ用處ハ既判件ノ力ヲ申立ルヲ得サル人ノ爲メカ或

ハ其人ニ反シテ果シテ先出訴ノ効ハ時効ヲ斷絶スルヤ否ヤノ點ニ在リ

第一千二百四十五條

〔千八百七十二號〕 第貳 勸解裁判ノ呼出

或ル場合ニ於テハ前以テ治安裁判所ニ於テ勸解シタル後ニ非サレハ初告裁判所ニ呼出スヲ得サルヲ有リ(訴訟法第四十八條) 此等ノ場合ニ於テ若シ債主又ハ所有者ハ初告裁判ノ呼出ヲ以テスルニ非サレハ時効ヲ斷絶スル能ハストセハ是レ債主又ハ所有者ハ訴訟ノ初手續ナル勸解ノ効ニ因リ時効斷絶ノ原因ヲ失フテ却テ損害ヲ被ムルニ非スヤ實ニ不正ノ甚シキ者ナリ例之ハ三十年以來辨濟期限切レニナリタル負債アリ今二三日ヲ過キナハ三十年ヲ完全スルニ至ル可シ債主ノ危害切迫ニシテ此二三日ヲ怠リテ斷絶ニ注意セサレハ時効ニ因リ權利ヲ失フ可シ是時ニ當テ債主ハ何ノ手段

アリテ時効ヲ斷絶スル歟負債主ニ對シテ初告裁判呼出ヲ爲サンノミ然レハ勸解ヲ經スシテ直ニ初告裁判所ニ訴出スルハ法律ノ許ササル所ナリ若シ勸解呼出ニ斷絶ノ効ナシトセハ勸解手續ノ間ニ二三日ヲ消耗シテ時効ヲ完全シ遂ニ債主之カ爲メニ害ヲ被ムルニ至ラン故ニ法律ニ於テ勸解初訴ノ義務ヲ置ク以上ハ勸解呼出ニ斷絶ノ効ヲ加附ス可シ是レ理ノ當然ナリ 勸解呼出ハ時効ヲ斷絶スト雖モ勸解呼出ノ後チ一箇月内ニ本裁判所ニ出訴スル時ニ非サレハ時効ヲ斷絶セス 一箇月内ニ本裁判所ニ出訴シタル時ハ勸解呼出ノ日ニ時効ヲ斷絶シ又ハ呼出後ノ本裁判出訴ノ日ニ再ヒ之ヲ斷絶ス故ニ勸解呼出ト本裁判出訴ノ間ニ經過シタル時日ハ時効ノ用ヲ爲サス新時効ノ再生ハ本裁判出訴ノ日以後ヨリス

勸解ノ後一箇月内ニ本裁判ニ出訴セスシテ一箇月後ニ出訴シタル時ハ勸解呼出ハ必要ノ事ニ非サリシ者ナリト看做シ法律ニ於テハ此呼出ヲ以テ時効ノ斷絶ト爲サス時効ヲ繼續ス故ニ若シ時機ニ後レ本裁判出訴ノ前ニ時効ヲ完全シタル時ハ被告人ハ時効ヲ申立テ訴訟ニ勝ヲ占ルヲ得ルナリ

〔千八百七十三號〕

茲ニ數種ノ論說アリ請フ之ヲ述ヘン

第一 訴人隨意ニ治安裁判所ニ出席シ其後チ一箇月間ニ本裁判所ニ出訴シタル時ハ時効ヲ斷絶スル歟

世論概テ之ヲ時効ノ斷絶トス訴訟法第四十八條ニ據テ見レハ訴人隨意ノ出席(勸解裁判所ニ)ヲ呼出ト同視シ訴訟ヲ受理ス故ニ隨意ノ出席ニ呼出ト同一ノ効アリ若シ此出席ニ時効ヲ斷絶スルノ力無キ時ハ時効ヲ斷絶セント欲スルヤ必ス呼出ヲ爲サ、ルヲ得ス然ルニ

呼出ノ式ヲ用ヒハ多少ノ耗費アリ故ニ法律ハ無用ノ耗費ヲ避クル爲メニ必シモ呼出ノ式ヲ要セサルナリ

〔千八百七十四號〕

第二 治安裁判所管轄内ノ詞訟ニハ勸解ノ式ヲ用

ヒス然レモ千八百三十八年五月二十五日ノ法律第十七條ニ曰ク治安裁判官ハ至急ノ事件ヲ除クノ外何ノ訴訟ニテモ訟廷使吏ニ一應入費ヲ要セサル書狀ヲ以テ訴人ヲ招呼セシ後ニ非スシテ裁判呼出ヲ爲スヲ無カラシムルヲ得ルナリト此條ヨリ一問題ヲ生ス曰ク若シ治安裁判官勸解ノ爲メ訴人ヲ召スニ呼出ノ式ヲ用ヒスシテ單一ノ書翰(入費ヲ要セサル書狀)ヲ用ヒタル時其書翰ニハ時効ヲ斷絶ス可キ力アリヤ否、無式ノ書翰ハ有式ノ呼出シト同シカラス何トナレハ有式ノ呼出ハ公正官吏ノ送達スル所ニ關ルト雖モ單一ノ書翰ハ公正官吏ノ送達スル所ニ非サレハ訴人ノ果シテ其書翰ヲ受取タル

ヤ否ヤチ明證スルヲ得サレハナリ○但シ時効ノ完全且夕ニ追リタル時ハ治安裁判官ハ直ニ呼出ノ式ヲ用フ蓋シ至急ノ事件ナレハナリ○

〔千八百七十五號〕第三 勸解ノ式ニ從フ可キ事件ニ附キ原告人本裁判所ニ直訴シタル時其裁判呼出ハ時効ヲ斷絶スル歟

大審院ノ裁決ハ之ニ斷絶ノ力無シトス裁決ニ曰ク此直訴ノ呼出ハ効無シ何トナレハ訴訟法第四十八條ノ法文ニ「如何ナル訴訟モ一應被告人ヲ勸解ニ呼出シタル後ニ非サレハ受理セス」ト在リ此出訴ノ順序法ニ悖ルヲ以テ其呼出狀ニ効ナシ而シテ無効ノ呼出ハ時効ヲ斷絶セス是レ民法第二千二百四十七條ニ明言スル所ノ箇條ナリト余カ論ハ之ト異ナリ第二千二百四十七條ノ法文ニ據レハ法式ノ缺虧ニ因リ効力ヲ失フタル呼出ハ時効ヲ斷絶セスト有リ然レモ第二

千二百四十六條ノ法文ニ據レハ法式ニ缺所ナキ呼出ハ假令ヒ裁判管轄違ノ判官ニ訟フルト雖モ時効ヲ斷絶スト有リ此大審院ノ裁決ヲ經タル問題ノ訴訟ハ法式ニ附テハ十分ノ効力アリ受理セサルハ唯、管轄違ノ裁判所ニ直訴シタルニ由ル畢竟原告人ノ裁判所ヲ誤リ被告人ヲ治安裁判所ニ呼出ス可キニ他ノ裁判所ニ呼出タル迄ノ一ナリ故ニ此訴訟ノ缺式ハ唯、裁判管轄違ノ缺所アルノミ然ルヲ今假令ヒ勸解ノ式ヲ用ヒスト雖モ時効ノ式ニ據リ裁判所ニ出シタル訴ニ時効斷絶ノ効無シトスルノ理アラシヤ

〔千八百七十六號〕第四 勸解ノ式ヲ要セサル事柄ニ附キ若シ原告人初告裁判所ニ直訴セスシテ被告人ニ勸解呼出ヲ達シタル時其勸解呼出ハ時効ヲ斷絶スル歟

世論概テ斷絶無シトス余カ説ハ全ク世論ト反ス余カ見ル所ニ據レ

ハ上例ト一般此例ニ於テモ唯一ノ裁判管轄ノ誤謬アリ之ヲ要スルニ原告人出訴ス可キ裁判所ヲ撰フニ注意セサルヨリシテ呼出ニ缺所ヲ生ジタルナリ然ルニ此缺所ハ時効ノ斷絶ヲ妨遮セス

〔附言〕 或ル論者ハ此論點ニ附テ區別ヲ設ク其說ニ曰ク勸解ヲ要セサル事件ト雖モ其性質和解スルヲ得可キ者タル時ハ勸解呼出ニ斷絶ノ効アリ之ニ反シテ事件ノ性質和解ス可カラサル者タルニ於テハ斷絶ノ力ナシ蓋シ事件ノ和解ス可カラサル者ニ係ル時ハ勸解ハ好シ之ヲ試ムルモ無益ノ所爲ナリ故ニ呼出ニ斷絶ノ力ナシト○余ハ之ニ答ヘテ言ハノ物ニ由テ管轄違ナル裁判所ノ呼出ハ實ニ無益ノ所爲ニシテ恰モ論者ノ述フル所ノ和解ス可カラサル事件ニ於ケル勸解呼出ト同シ然ルニ法律ハ此呼出ニ時効斷絶ノ力ヲ付與シタルニ非スヤ故ニ此勸解呼出モ亦其力ヲ有ス可

第一千二百四十四條

〔千八百七十七號〕

第參

時効ヲ妨遮スル爲メニ送リタル要決書

權利ヲ執行シ財産ヲ差押フルニハ先ツ必ス償還ノ要決書ヲ作り債者又ハ其住宅ニ送ル可シ動産差押ノ時ハ前一日ニ於テ要決書ヲ送り不動産差押ノ時ハ三十日前ニ於テス若シ未タ執行力アル證書ヲ送達セサル時ハ此要決書ニ此證書ノ本書又ハ寫書ヲ添へ送ル可シ(訴訟法第五百八十三條第六百三十六條第六百七十三條第六百七十四條第六百八十條參觀)

故ニ要決書ノ解チ下ス左ノ如シ曰ク要決書トハ裁判所使吏ノ署名ニ依頼シ書ヲ出シ裁判ニ據テ申渡シタル事ノ執行又ハ執行力アル證書ニテ負フタル義務ノ執行ヲ命シ若シ執行セサルニ於テハ之ヲ強迫ス可シト陳述スル所ノ書狀ナリ

民法上ノ斷絶

要決書ハ出訴ト同シク時効ヲ斷絶ス然レモ要決書ト出訴ハ至要ノ
 點ニ差異アリ出訴ハ裁判所内ノ所爲ナリ故ニ訴訟ヲ其儘ニ捨置ク
 ニ因リ訴訟ノ手續ヲ失フ要決書ハ裁判所外ノ所爲ナリ故ニ訴訟ヲ
 其儘ニ捨置クニ因テ訴訟ヲ失フヲ無シ唯之ヲ失フハ時効ニ在リ例
 之ハ原告人、被告人ニ對シテ呼出狀ヲ送り三年間(或ハ三年半)訴訟ヲ
 其儘ニ捨置キシ時ハ被告人ハ訴訟ノ捨置ニ因リ之ヲ失フノ理由ヲ
 申立ルヲ得可シ然ル時ハ始メノ呼出ハ其効力ヲ失フ故ニ嘗テ時効
 ナ斷絶セサル者ト看做ス(千八百七十號參觀)然レモ要決書ハ送達ノ
 後ヲ訴訟手續ヲ爲サスト雖モ三十年間ハ其効力ヲ存ス

〔附言〕 不動産差押ニ附テハ三箇月其差押ヲ實行セサル時ハ要決
 書ハ其効ヲ失フ然レモ此失効ノ期限ハ唯書換ヲ爲シテ差押ヲ行
 ハシムル爲メニ定メタル者ナレハ三箇月ノ後ト雖モ時効ヲ斷絶

スルノ力アリ

〔千八百七十八號〕 世人概テ曰ク要決書ニ因リ斷絶スルハ唯、免責時効
 ノミ夫レ要決書ハ財産差押ノ最始ノ所爲ナリ又財産差押ハ金錢負
 債ノ訴訟ヨリ生ス而シテ金錢負債ノ時効ハ免責時効ニシテ得權時
 効ニ非スト

余ハ此論ニ從ハス勿論要決書ハ財産差押ノ初式ニシテ常ニ免責時
 効ニ關係アリト雖モ往々之ニ反シタル例アリ甲、乙ト詞訟ヲ起シ裁
 判ニハ甲ニ理アリトシテ乙ニ不動産ヲ甲ニ與フ可キ旨ヲ申渡シタ
 リ是ニ於テ乙若シ授與ヲ拒ム時ハ甲ハ不動産受取ノ爲メ政府ノ威
 力ヲ願フノ權ヲ有スト雖モ直ニ之ヲ願フヲ得ス先ツ不動産差押ノ
 爲メニ要決書ヲ出ス可シ若シ其後甲訴訟ヲ其儘ニ捨置キ時効ノ
 有無如何ニ至テ先ノ要決書ハ乙ノ爲メニ經過スル所ノ得權時効ヲ

斷絶シタルナリト甲ヨリ申立テ得ルコトハ人ノ信シテ疑ハサル所ナ
 リ○乙裁判ノ申渡ヲ以テ甲所有ノ不動産ヲ甲ニ與フ可シト命セラ
 レタリ其裁判書ニ若シ不動産與渡延引セハ一日毎ニ百フランヲ拂
 フ可シト有リ然ルニ乙期限内ニ之ヲ渡サス由テ甲ハ上文ノ償金ヲ
 得ル爲メニ乙ノ財産ヲ差押ヘントス然ル時ハ甲ハ先ツ乙ニ要決書
 ナ送ル可シ此要決書ハ乙カ占有スル所ノ不動産ノ得權時効ヲ斷絶
 スルコトハ論ヲ俟タサルナリ若シ又此要決書ヲ得タルノ後チ乙不動
 産ヲ渡スコトヲ敢テセス甲ハ償金ヲ己レニ拂ハシムル爲メ乙ノ財産
 ナ差押ヘタリ此財産差押ハ一旦要決書ヨリ生シタル斷絶ヲ新ニス
 故ニ要決書前ノ歲月ト財産差押迄ノ時日ヲ時効ニ算入スルヲ得ス
 時効ハ財産差押ノ日ヨリ期限ヲ再起ス

〔千八百七十九號〕

催○書○ハ○時○効○ヲ○斷○絶○セ○ス○然○レ○モ○此○書○ハ○要○決○書○ト○類
ソムマシヨ

似スルヲ以テ彼ト此トヲ區別ス可シ

要○決○書○ハ○執○行○力○ヲ○有○ス○ル○證○書○ニ○因○ル○ニ○非○サ○レ○ハ○作○ル○能○ハ○サ○ル○催○促○
 書○ナ○リ○要○決○書○ヲ○出○ス○ニ○當○リ○前○以○テ○此○執○行○力○ヲ○有○ス○ル○證○書○ヲ○送○達○セ
 ス○又○ハ○要○決○書○ニ○其○證○書○ノ○謄○寫○ヲ○副○ヘ○サ○ル○時○ハ○其○効○ヲ○シ○ト○ス○故○ニ○曰
 シ○要○決○書○ハ○負○債○主○好○意○ニ○テ○義○務○ヲ○執○行○セ○サ○ル○ニ○因○リ○裁○判○上○ノ○手○續
 ニ○因○リ○裁○判○所○使○吏○ノ○手○ヲ○假○リ○債○主○ノ○有○シ○タル○執○行○力○アル○證○書○ノ○義
 務○ノ○執○行○ヲ○催○促○ス○ル○所○ノ○強○迫○ナ○リ○ト

單一ノ催促書モ亦爭訴或ハ權利ノ執行ノ強迫ナリ然レモ要決書ト
 差異アリ

第一 單一ノ催促書ハ執行力ヲ有シ或ハ有セサル證書ニ因リ又ハ
 證書無シシテ作爲スルヲ得

第二 單一ノ催促書ヲ出スニ執行力ヲ有スル證書ヲ用意シタル債

主ノ作爲ニ係ル時ハ其證書ノ謄寫ヲ副ユルニ及ハス
 如何ナル道理アリテ催促書ニハ出訴及ヒ要決書ト同シキ効力無キ
 歟何ノ點ヨリ催促書ハ時効ヲ斷絶セサルノ理ヲ生スル歟夫レ催促
 書ハ時効ヲ斷絶セス蓋シ此書ハ原ト之ヲ作爲シタル人ノ適切ノ意
 ナ充分ニ表證セサレハナリ若シ作爲者注意スル所アリテ而シテ自
 己ニ充分ノ權利アリト信セハ何ソ催促書ノ如キ裁判所ノ強制ヲ用
 フルチ是レ爲サン宜シク其自己ノ權利ヲ表認セシメテ之ヲ執行セ
 シムルニ至當ノ手續ヲ爲スヘシ又催促書ハ其根本ト爲ル證書ヲ送
 達シテ受取ル者ノ返答サヘモ要セサル程ノ輕少ナル強迫ナレハ其
 證書ニ受ケシ者モ作爲者ノ望ム所切迫ノ者ニ非スト思考スルモ道
 理無キニ非ス故ニ出訴及ヒ要決ノ如キ効力ナシ
 故ニ出訴ハ負債主ヲ遲滯ニ附シ而シテ負債主ニ對シテ利子ヲ生シ

(第一千五百五十三條)時効ヲ斷絶ス

單一ノ催促書ノ効ハ唯之ヲ受取タル人ヲ遲滯ニ附スルノミ利子ハ
 法律ニ明文シタル格別ノ場合ニ非サレハ生セス(第四百七十四條及
 第一千六百五十二條)又時効ヲ斷絶セス

〔附言〕 然レモ催促書ノ要決書ト力ヲ同シフシテ時効ヲ斷絶スル
 ノ場合アリ(千六百七十七號參觀)

要決書ハ出訴ト一般負債主ヲ遲滯ニ附シ時効ヲ斷絶ス然レモ負債
 主ニ對シテ利子ヲ生セシムルハ第四百七十四條、第一千六百五十二條
 ニ記載シタル場合ニ限ル

(千八百八十號) 第肆 財產差押

或問フ前項ニ見ル如ク要決書ハ財產差押ノ初式ニシテ時効ヲ斷絶
 スルノ効アリ然ルニ今財產差押ニ時効斷絶ノ効ヲ加附シテ何ノ益

アルカ

答テ曰ク

第一 財○産○差○押○ヲ○爲○ス○ハ○必○ス○先○ツ○要○決○書○ヲ○作○ル○可○シ○ト○雖○モ○此○規
 則○ハ○常○ニ○行○フ○可○キ○者○ニ○非○ス○他○ノ○地○方○ヨリ○來○ル○負○債○主○ノ○財○産○差○押○訴
 訟○法○第○八○百○二○十○二○條○動○産○取○戻○ノ○爲○メ○ノ○財○産○差○押○訴○訟○法○第○八○百○二○十
 六○條○質○物○ト○シ○テ○爲○ス○財○産○差○押○訴○訟○法○第○八○百○十○九○條○下○ノ○附○言○ヲ○見
 ル○可○シ○ノ○如○キ○ハ○要○決○書○ノ○書○式○ヲ○要○セ○ス○故○ニ○斯○ノ○如○キ○場○合○ニ○ハ○財○産
 差○押○ニ○時○効○斷○絶○ノ○効○ヲ○加○附○ス○ル○ハ○實○ニ○必○要○ノ○事○ナリ

〔附言〕 訴訟法第八百十九條中ニ要○決○書○ノ○語○アリ○宜○シ○ク○之○ヲ○催○促
 書○ト○改○ム○ヘ○シ○何○ト○ナ○レ○ハ○本○條○ノ○問○題○タル○差○押○ハ○證○書○ナ○ク○シ○テ○之
 ヲ○行○フ○ヲ○得○ル○者○ナ○レ○ハ○必○ス○要○決○書○ヲ○俟○タ○ス○シ○テ○之○ヲ○行○フ○ヲ○得○可
 シ○固○ト○要○決○書○ハ○執○行○力○アル○證○書○ニ○由○テ○作○ル○者○ナ○ル○ニ○此○場○合○ニ○テ

ハ其證書アルヲ無シ

第二 財○産○差○押○ニ○時○効○斷○絶○ノ○効○ヲ○加○附○ス○ル○ハ○要○決○書○ノ○初○式○ヲ○用○ヒ
 タル○時○ト○雖○モ○必○要○ナリトス○抑○財○産○差○押○ハ○一○旦○要○決○書○ヨリ○生○ジ○タル
 斷○絶○ヲ○更○新○シ○要○決○書○ト○財○産○差○押○ノ○間○丈○ケ○ノ○時○効○ヲ○延○引○ス○故○ニ○要○決
 書○ハ○要○決○書○前○ニ○經○過○シ○來○タル○時○効○ヲ○消○滅○シ○財○産○差○押○ハ○要○決○書○後○ノ
 時○日○ヲ○消○滅○ス○故○ニ○時○効○ヲ○申○立○ル○人○ハ○時○効○ヲ○算○ス○ル○ニ○要○決○書○ノ○日
 ヨリ○セ○ス○シ○テ○財○産○差○押○ノ○日○ヨリ○セ○サル○ヲ○得○ス○之○ニ○反○シ○テ○若○シ○財○産
 差○押○ニ○時○効○斷○絶○ノ○効○ナシトセハ○時○効○ノ○起○算○ハ○要○決○書○ノ○日○ヨリ○ス
 〔千八百八十一號〕 財○産○差○押○ヨリ○生○ス○ル○時○効○ノ○斷○絶○ハ○免○責○時○効○ノ○場○合
 ニ○限○ル○故○何○ト○ナ○レ○ハ○財○産○差○押○ノ○法○ヲ○用○フ○ル○ハ○金○錢○負○債○ノ○辨○濟○ヲ○得
 ル○カ○爲○メ○ノ○ミ○ナ○レ○ハ○ナリ○然○レ○モ○余○ハ○第○千○八○百○七○十○八○條○ニ○於○テ○財○産
 差○押○ノ○効○ニ○由○リ○得○權○時○効○ヲ○斷○絶○ス○ル○ノ○場○合○ヲ○說○明○シ○タリ○キ

第一千二百四十八條

第五 占有主又ハ負債主ノ爲シタル所有者又ハ債主ノ權ノ自認

六九四

占有主其所有者ノ權利ヲ自認シ又ハ負債主其債主ノ權利ヲ自認スルニハ或ハ公成證書ヲ以テシ或ハ私印證書ヲ以テシ或ハ單一ノ書翰ヲ以テスルヲ得ルナリ斯ノ如キ自認ハ盡トク効アリ而シテ又之ヲ暗認スル者アリ故ニ負債主ト債主ノ間或ハ占有主ト所有者ノ間ニ暗ニ負債又ハ所有權ヲ自由スル所ノ事ヲ爲シタル時ハ其暗ニナシタル自白ニ由テ時効ヲ斷絶ス例之ハ負債主債主ニ向テ返濟延期ヲ願ヒ或ハ内拂勘定ヲ以テ負債ノ分數ヲ拂ヒ又ハ保證人或ハ他ノ抵當ヲ入レタリシ時ハ時効ヲ斷絶ス何トナレハ此等ノ所爲ハ暗ニ負債ノ存在ヲ自白スレハナリ

テ證ス然レモ茲ニテモ他ノ場合ノ通り第一千三百四十四條ニ記載シタル格別ノ規則ヲ適用スルヲ得ルナリ然レモ若シ證書證人ニナカラ存在セサル時ハ宣誓ヲ以テ之ヲ證スルヲ得ル歟○余カ說ハ之ヲ許ス可シトス凡ソ原則ニ於テ誓言ハ時期ヲ完全シ既ニ得タル時効ヲ申立ル人ニ望ムヲ得サルハ論ヲ俟タサルナリ(第一千二百七十五條ノ解説參觀)然リト雖モ茲ニ論スル所ノ場合ニ在テ訴訟中ニ出ル所ノ問題ハ必ス時効ノ有無即チ時効完全ニ必要ノ時日充分ナルヤ否ヤノ問題ニシテ決シテ既得ノ時効ニ關涉セス故ニ誓言ヲ以テ自認ヲ證スルヲ得可シ

民法上ノ斷絶

六九五

負債主其債主ノ權利ヲ自認シ占有主其所有者ノ權利ヲ自認スルニ由テ生スル時効ノ斷絶ト既得時効ノ拋棄ト混淆スル勿レ余既ニ第一千七百九十九號ニ於テ此二ノ者ノ間ニ生スル至要ノ別ヲ説明シタ

第一千二百四十九條

（千八百八十三號）

民法上ノ斷絶ニ因テ利ヲ得又ハ害ヲ被ムル人

裁判呼出出訴、要決書、財産差押及ヒ權利ノ自認ヨリ生シタル斷絶ニ因リ利ヲ得ル者ハ自カラ此斷絶ヲ爲シタル人ニ限ル又之ヲ他ノ一面ヨリ見レハ此斷絶ハ斷絶ヲ受ケ或ハ之ヲ承諾シタル人ニ對シテノミカアリ是レ則チ裁判上ノ所爲ハ契約ト一般外人ニ對シテ利害ヲ生セスト云フ原則ノ施行ナリ

故ニ負債主ノ死後其相續人ノ中一人ヲ相手取テ爲シタル出訴ハ其訴ヘラレタル一人ニ對シテノミ時効ヲ斷絶ス

若シ債主ノ死後其相續人ノ中一人負債主ヲ相手取テ訴ヲ起シタル時ハ其訴ヘタル一人ノ爲メノミ時効ヲ斷絶ス

分ツ可カラサル負債ニ非サルノ外假令ヒ書入ノ抵當アルモ上ノ二

項ニ同シ○若シ負債ニ書入ノ抵當アル時ハ債主ニ兩訴權アリ一人ノ權上ノ訴權一ハ書入ノ訴權ナリ書入ノ訴權ハ人權上ノ訴權ニ從屬ス故ニ若シ人權上ノ訴權其全部或ハ一部ヲ消滅スルト有レハ書入ノ訴權モ亦隨テ其全部或ハ一部ヲ消滅ス

人權上ノ訴權ハ負債主ノ相續人ノ各人ニ比例シ各人ノ割前丈ケ各人ニ對シテ執行ス○書入ノ訴權ハ相續人ノ遺物ノ中ヨリ書入トナリタル不動産ヲ承受シタル一人ニ對シテ抵當丈ケノ負債全部ノ爲メニ施行スルヲ得（第八百七十三條）○然レモ負債主ノ身ニ負擔セル高ニ非サレハ書入ノ訴權ノ執行ニ由テ得ル能ハサルヲ以テ若シ時効ニテ負債ノ一部ヲ消滅シタル時ハ書入ノ訴權モ亦其一部丈ケ權力ヲ減ス例之ハ茲ニ一ノ書入抵當ノ負債アリ負債主ノ死後三名ノ相續人其義務ヲ負フ之ヲ人權上ヨリ（相續人ノ位置ヨリ）言フ時ハ三

民法上ノ斷絶

人ノ各ハ負債ノ三分之一ヲ負フ然レモ三人ノ内書入ニナリタル不動
 産ヲ承續シタル一人ハ負債償却ニ備ヘタル不動産所持人ノ位置ニ
 在ルヲ以テ獨リ抵當アル負債ノ全部ヲ負フ(第八百七十三條)今債主
 人權上ヨリシテ二名ノ相續人ヲ訴フ其時ハ此二人ニ對シテ時効ヲ
 斷絶スト雖モ書入不動産ヲ承續シタル一人ニ對シテハ斷絶セス又
 之ニ反シテ債主書入不動産ヲ承續シタル一人ヲ訴ヘ他ノ二人ヲ訴
 ヘス此時二人ニ對シテ時効ヲ斷絶セス若シ二人ニ對シテ時効ヲ完
 全セシメハ債主ノ有スル書入ノ訴權モ既ニ二人ニ對シテ時効ニ因リ
 消滅シタル負債ノ部分丈ケ權力ヲ滅シタルヲ以テ其殘部丈ケニ非
 サレハ書入不動産所持ノ相續人ニ對シテ此訴權ヲ執行スルヲ得ス
 (千八百八十四號)特別ニ法典ニ於テ三項ヲ記載ス一曰ク連帶ノ負債
 二曰ク分ツ可カラサル負債三曰ク保證人アル負債○以下三項ヲ別

ニ說明セントス

第壹 連帶ノ負債○連帶ノ負債主ノ一人ニ對スル訴訟又ハ其一人
 ヨリ爲シタル負債存在ノ確認ハ獨リ其當人ニ對シテ時効ヲ斷絶ス
 ルノミナラス總テノ連帶義務者ニ對シテモ之ヲ斷絶ス○此論說ハ
 時効ノ斷絶ニ因リ利ヲ失フハ斷絶ヲ受ケシ人ニ限ルト云フ原則ニ
 反スルニ非ス何トナレハ連帶ノ負債者ハ互ニ代理者ト爲リ一人ニ
 利益トナル事ハ他モ亦之ヲ利シ一人ニ害スルノ事ハ他モ亦其害ヲ
 被ムル者ナレハナリ(第二帙千二百四十七號以下該論ノ詳說ヲ參觀
 ス可シ)

(千八百八十五號) 若シ連帶義務者ノ一人死シテ數名ノ相續人ヲ遺ス
 死者ノ負債ハ連帶ノ者ト雖モ之ヲ相續人ノ間ニ分チ相續人ハ各割
 前丈ケノ義務ヲ負フノミ而シテ各割前丈ケノ負債ニ附テ未亡ノ連

帶義務者ニ對シテ負債ヲ連帶スト雖モ相續人ノ間ニハ連帶ナシ故ニ下ノ三件ヲ生ス

第一 若シ債主相續人ノ全名ヲ訴ヘシ時ハ未亡連帶者及ヒ既亡連帶者ノ相續人全名ニ對シテ時効ヲ斷絶ス

第二 若シ債主相續人ノ内一名ヲ訴ヘタル時ハ未亡連帶者及ヒ被告ノ相續人ノミニ對シテ時効ヲ斷絶ス但シ此相續人ノ時効斷絶ヲ受ルハ遺物ノ割前丈ケノミ○他ノ訴ヲ受ケサル相續人ニ對シテハ時効ヲ斷絶セス(第二帙千三百號參觀)

〔千八百八十六號〕 上文連帶ノ負債ニ附テ設ケタル規則ハ連帶ノ債主權ニ附テモ亦之ニ同シ(第千八百八十號參觀)

〔千八百八十六號ノ二〕 第貳 分ツ可カラサル物件ノ債主ノ一人其負債主ノ一人ニ對シテ時効ヲ斷絶シタル時ハ其斷絶ハ債主全名ノ益

トナリ負債主全名之カ爲メニ利ヲ失フ例之ハ負債主ノ相續人ノ内一人ニ對シテ爲シタル訴訟ハ相續人ノ全名ニ効力アリ故ニ全名ニ對シテ時効ヲ斷絶ス(第二帙千二百八十四號第五項ニ述ヘタル此規則ノ非難ヲ參觀ス可シ)

第一千二百五
十條

〔千八百八十七號〕 第參 保證人アル負債

負債主ノ本人ニ對シテ爲シタル訴訟及ヒ負債ノ存在ヲ認メタル本人ノ所爲ハ本人ノミナラス保證人ニ對シテモ時効ヲ斷絶ス蓋シ法律ノ意ハ保證人ヲ以テ負債償却ヲ保證シ本人ノ義務ヲ負フ丈ケハ何處迄モ責ニ任ヌ可シト約シタル者トスレハナリ

負債主負債ノ存在ヲ時効期內ニ確認セス既ニ之ヲ得ルノ後之ヲ爲ス時ハ此確認ハ斷絶ニ非ス既得時効ノ拋棄ナリ斷絶ト拋棄ハ混淆ス可カラズ斷絶ハ保證人ニ及ホシ拋棄ハ保證人ニ向テ効ナシ(千

七百九十九號參觀

〔千八百八十八號〕 上文既ニ見ル如ク負債主ノ本人ニ向テ爲シタル訴

訟ハ保證人ニ向テモ時効ヲ斷絶ス

然レモ保證人ノ受ケタル訴訟ハ盡トク本人ニ對シテ時効ヲ斷絶ス

ルニ非サルナリ此點ニ三說アリ請フ之ヲ說カン

第一說 保證人ノ受ケタル訴訟ニ時効斷絶ノ効ナシ此訴ハ負債主

ニ對シテ時効ヲ斷絶セス蓋シ保證人ハ本人ノ名代ヲ爲ス者ニ非サ

レハナリ

又保證人ニ對シテ時効ヲ斷絶セス何トナレハ保證人ハ附屬負債主

ノ位置ニテ訴ヲ受ケタルヲ以テ本人ノ負債存在スル時ニ非サレハ

債主ヨリ此人ヲ訴フルヲ得ス故ニ若シ負債主時効ニ因リ責ヲ免カ

レシ時ハ其保證人モ必ス自由ノ身トナラサルヲ得ス故ニ保證人ニ

高
七〇二

對シテ時効ヲ斷絶セスト謂フ

〔千八百八十九號〕 第二說 保證人ノ受ケタル訴訟ハ保證人及ヒ本人

ニ對シテ時効ヲ斷絶ス其故如何曰ク債主ハ負債主ニ對スルモ亦保

證人ニ對スルモ其權利ハ一ニシテ二ナラス故ヲ以テ若シ債主負債

主又ハ保證人ノ内一人ニ對シテ權利ヲ執行スルヲ有ル時ハ則チ他

ノ一人ニ對シテモ之ヲ執行シタルナリ是ヲ以テ見レハ雙方ニ向テ

斷絶セサルヲ得ス

〔千八百九十號〕 第三說 保證人ノ受ケタル訴訟ハ時効ヲ斷絶スルヤ

否ヤノ問題ハ保證人ノ位置如何ヲ畫別シテ而シテ之ヲ決ス可シ○

若シ保證人ノ負債ヲ保證スルハ原ト負債主ヨリ保證ノ爲メ依頼シ

タル名代ニ出ツル時ハ保證人ニ向テ起リタル訴訟ハ保證人及ヒ負

債主ニ對シテ時効ヲ斷絶ス可シ蓋シ此時保證人ハ負債主ヲ名代ス

民法上ノ斷絶

レハナリ○若シ保證人ノ負債ヲ保證スルハ原ト負債主ノ知ラサル所ニ出ツル時ハ(乃チ名代人ニ非ス事務管理者ノ名義ニテ)負債主ニ對シテ時効ヲ斷絶セス蓋シ保證人ハ負債主ヲ名代シタルニ非サレハナリ又保證人ニ對シテ時効ヲ斷絶セス蓋シ負債主ノ本人時効ニ因リ責ヲ免カル、時ハ負債主ノ附屬者モ必ス義務ヲ免カレサルヲ得サレハナリ

〔千八百九十一號〕以上三說ノ内余ハ第一說ヲ以テ至當ナリトス

第二說ノ如キハ主旨虛誕ニ涉ルカ如シ何トナレハ論者ハ保證人ノ有スル附屬ノ義務ト負債主ノ有スル本原ノ義務ハ債主ニ對シテハ一ハ消滅シ他ノ一ハ存在スルカ如キ大ニシ且ツ必要ナル別アル有リ豈ニ之チ一ニシテ二ナラサル者ト言フヲ得ンヤ〔千六百六十號以下參觀〕

第三說ハ保證人ノ位置如何ヲ區別シテ論スト雖モ其區別ハ論者ノ純乎タル專横ニ出ツルカ如シ何トナレハ依頼ヲ受ケス他人ノ財產ヲ理治スル者ハ本人ノ身分ヲ名代ス〔千六百六十三號參觀〕猶ホ名代人ノ本人ヲ名代スルニ異ナラス然レモ論者ハ名代スルニ非サルナリト言フ亦甚シキ誤謬ナラスヤ

○第二款 時効ノ進行ヲ停止スル原因

第二千二百五十一條〔千八百九十二號〕時効ノ權ヲ得可キ期限ヲ別段法律上ニ定メタル變

例ノ場合ノ外何人ニ對スト雖モ之ヲ停止スルヲ無カル可シ
法律ニ於テ失踪者ノ爲メニ此變例ヲ設ケス〔第三百三十七條、第一千六百七十六條〕又自己ノ權利ヲ忘却シタル者ノ爲メニモ之ヲ設ケス故ニ此等ノ人ニ對シテ時効ヲ停止スルヲ無シ何トナレハ原ト失踪者ニハ權利執行ノ爲メニ代理者ヲ任セスシテ住所ヲ出テ遂ニ跡ヲ失ス

時効ノ進行ヲ停止スル原因

ルニ至リタルノ過失アレハナリ又權利ヲ忘却シタル者ニ附テ言ヘ
ハ自己ノ利益タル權利ノ現存ヲ知ラサルカ如キ多クハ己レノ不注
意或ハ怠慢ヨリ出ス是レ則チ權利者ノ過失ナリ故ニ之カ爲メニ變
例ヲ設ケス

然レモ或ル場合ニ於テ失踪者又ハ自己ノ權利ヲ忘却スル人ノ爲メ
ニ時効ヲ停止スルコト有リ其例左ノ如シ

第一 夫ヨリ我子ニ非スト訴フル權ノ時効ハ失踪シタル夫ノ歸着
ノ日ヨリ起算シ其レ迄ハ時効ヲ停止ス(第三百十六條)

第二 錯誤或ハ詐詭ノ件ヲ以テ契約取消ヲ願フ時ニ其訴權ノ時効
ハ錯誤或ハ詐詭ヲ發見セシ日ヨリ起算シ其レ迄ハ時効ヲ停止スル
ナリ(第千三百四條)

〔千八百九十三號〕 疾疫兵亂其他ノ天災非常ノ事ニ因リ裁判事務ヲ廢

絶スル時ハ時効ヲ停止スル歟尙ホ之ヲ概言スレハ抗拒シ難キ力ニ
支ヘテレ詞訟ヲ起ス能ハサル位置ニ在ル人ニ對シテモ時効ヲ經過
セシムル歟

此問題ヲ決スルニハ先ツ下ニ掲グル所ノ問題ヲ研究ス可シ曰ク我
法典ハ「コントラ、ノン、ワランテム、アゼレ、ノン、キユリト、プレスクリ
プシヨ」即チ訴ヲ興シ(原告)或ハ訴ヲ防ク(被告)能ハサル者ニ對シテ
時効ヲ經過セスト言フ古ノ法語ニ據リシヤ否ヤ

學士ノ說多クハ法典ニ此法語ノ原則ヲ用ヒタリトス然レモ余以爲
ラク學士ノ說非ナリト

抑訴ヲ起シ或ハ訴ヲ防ク能ハサル者ニ對シテ時効ヲ經過セスト言
フ規則ハ理論上ヨリ見レハ道義ニ適スル者ナリト雖モ實際ニ附テ
危險無キニ非ス而シテ此規則ノ如ク伸縮自由ニシテ且ツ恣暴ナル

時効ノ進行ヲ停止スル原因

者ハ余カ未タ嘗テ見サル所ナリ世人ノ普ク知ル如ク古裁判所ニ於テ古法ヲ執行スルニ當テ判官ニ訴スニ特權ヲ以テス故ニ判官ハ上文ノ訴ヲ起シ云々ノ規則ニ據リ正理ニ拘泥シ屢時効ヲ施行セサルヲ有リテ其弊遂ニ時効ノ法行ハレサルニ至レリシユノ一氏言ヘル有リ曰ク若シ此規則ニ拘泥シテ法ヲ執ラハ失踪者ノ契約ニ係ル裁判ノ如キニ至テハ困難ヲ生スル甚タ多カル可シ若シ又其困難ヲ除カント欲セハ宜シク大家ノ意見ニテ受理裁判スヘシト爲シタル場合ヲ法條ノ明文ニ揭示ス可シ若シ之ヲ掲クル時ハ條款卷數ノ巨大ヲ要セサレハ能ハス

此弊害ハ我立法官ノ第一ニ着目シタル所ニシテ我輩ハ此弊害ヲ生スル所ノ規則(訴ヲ起シ訴ヲ防ク能ハサル者ニ對シテハ時効ヲ經過セスト云フ規則)ハ立法官ノ引用セサル所ナリト思想セサルヲ得ス果シテ法典中ニ此規則ヲ引用シタル條款ヲ見ルヲ無シ人アリ或ハ此規則ヲ引用スルト否ヤナ明文セサルヲ以テ立法者ハ決シテ此規則ヲ棄捨セサルナリト言ハノ或ハ然ラン然レハ法典ニ於テ時効ハ法律ニ於テ別段ニ定メタル變例中ニ在ル者ノ外何人ニ對シテモ經過スノ明文アリ且ツ其變例中ニ抵抗シ難キ事實ニ由テ訴ヲ起シ或ハ訴ヲ防ク能ハサル者ヲ記セス論者ハ果シテ何ノ理アリテ此規則ヲ引用シタルナリトスルカ余カ考フル所ニ由レハ引用セサルヤ明カナリ

或又曰ク法律中ニ記スル變例ハ則チ訴ヲ起シ或ハ訴ヲ防ク能ハサル者ニ對シテ時効ヲ經過セスト云フ規則ノ施行ナリ故ニ我法典ニ此規則ヲ引用シタルナリト看做サルヲ得ス加之此規則ハ道義ニ適スル者ナリト

甚シイ哉此論理ノ怪ナルヤ古ノ規則ハ實際ニ施スニ至リ弊害ヲ生
スルヲ以テ我法典ニハ此古則ヲ引用セスシテ古則ノ中最モ正理ニ
適スル者ヲ採リ成文條章ヲ以テ之ヲ限畫シテ施行スルナリ然ルニ
論者曰ク我法典ハ全ク此古則ヲ引用シ獨リ法律ニ明言スル場合ノ
ミナラス其他總テ訴ヲ起シ訴ヲ防ク能ハサル場合ニ此古則ヲ施行
ス可キナリトナス此論果シテ條理アルヤ余之ヲ信セス
法律ノ正條ニ限畫シタル變例ヲ設ク其文ニ曰ク時効ハ何人ニ對シ
テモ經過ス其變例ノ如キハ明文ニ記シタル場合ニ限ルト然ルニ論
者カ吾輩ニ向テ主張スル所ノ變例ハ法律ニ設クル所ノ者ナル乎誰
カ之ヲ法律ニ設ケタルナリト謂フヲ得ンヤ
法律ノ正條ナキヲ以テ條理ニ據テ其古則ヲ討論セント欲ス
我法典ニ於テ變例トシテ時効ヲ經過セシメサル場合ハ極テ僅少ナ

リ然ルニ若シ其變例ノ外又別ニ訴ヲ起シ訴ヲ防ク能ハサル者ニ對
シテ時効ヲ經過セスノ規則ヲ施行ス可シトセハ如何ナル影響ヲ生
シ來ル乎吾輩ハ變例夥多ニシテ遂ニ法典ニ在ル變例ノ規則ヲ徒ニ
スルニ至ランヲ恐ル實ニ訴ヲ起シ訴ヲ防ク能ハサル場合ハ唯疾
疫兵亂ノ時ニ在ルノミナラス洪水亂心情慾ノ激動等ノ如キ千萬ノ
事情ヨリスル者ナリ故ニ若シ訴ヲ起シ訴ヲ防ク能ハサル者ニ對シ
テ時効ヲ經過セストセハ則チ古法ニ在ル如ク我法典ニ於テモ亦例
之ハ失踪者ノ一事ニ附キ隨意ニ出タル失踪ト反意ニ出タル失踪ノ
別ヲ置キ國益ノ爲メニナシタル失踪ト私利ノ爲メニナシタル失踪
トヲ分チ熱病ノ日數ヲ計ヘ債主ノ出訴ヲ妨遮シタル洪水ノ時間ヲ
算シ裁判事務ヲ停止シタル疾疫兵亂ノ時ヲ數フル等ノ確カナラサ
ル多數ノ區別ヲナシ其場合ヲ定限シ又之ヲ明文セサルヲ得ス是レ

法官ノ私斷アリテ成文正條無キナリ又法律ハ公寧ノ爲メ閉塞セン
ト欲スル所ノ争訴ノ路ヲ廣開スルナリ

或又曰ク假令ヒ訴ヲ起シ訴ヲ防ク能ハサル者ニ對シテ時効ヲ經過
セスト云フ規則ヲ施行スルト雖モ若シ權利者ノ出訴ヲ支ヘタル妨
遮ト時効ヲ完全シタル時ト相遠カル甚ク久シク或ハ債主自由ノ身
トナリ出訴ニ必要ノ時間ヲ默過シタル時ハ時効ノ經過ヲ停止セス
爰ニハ時効ノ時日ヲ算スル甚ク密ナラス必シモ權利者ノ毎日出訴
シ得可キ位置ニ在リシヲ望ムニ非サルナリ

抑此論者ハ訴ヲ起シ訴ヲ防ク能ハサル者ニ對シテ時効ヲ經過セス
ト云フ規則ニ寛裕スル所アリテ其訴訟ヲ起シ或ハ防ク能ハサル事
情ヲ密鑿セサルモ可ナリトスト雖モ其說ハ非ナリ其密鑿セサルモ
可ナリトハ何ノ正條ニ記載シアル歟吾レ之ヲ見サルナリ時効ニ向

テ必要ナラサルヲ以テ計算ス可カラストスル時日ハ如何ナル日ヨ
リ起算ス可キヤ詞訟ヲ起シ或ハ之ヲ防ク能ハサルノ時日ハ幾何ナ
リシヤ若シ詞訟ヲ起シ或ハ防ク能ハサルノ時日一日若クハ二日ヨ
リ多カラサル時ハ時効ヲ停止ス可キヤ此等ノ細事ハ何ノ規則ニ循
テ決ス可キヤ皆ナ此問題ハ法官ニ委ヌルニ特權ヲ以テシテ唯法官
ノ意見ニ從テ決スルノ外他ナシ然レモ法律ニ於テ法律ノ正條ニ記
載シタル變例ノ外變例無シト原則ヲ置ク以上ハ此特權ハ法律カ法
官ニ禁シタル者ナリ

〔附言〕 法律ニ正條云々ノ箇條ハ最初ノ草案中ニ見ヘス此草案ニ
ハ時効ノ進行ヲ受ケサル人ノミヲ記セリ此事ヲ記シテ始テ本文
ノ變例云々ノ必要ナルヲ覺レリ故ニ法律ノ意ヲ案スルニ唯時効
ヲ停止スル場合ノミヲ揚クルニ止マル時ハ法律ヲ解釋スル者ハ

理論ノ通弊トシテ必ス法律ノ限界ヲ越へ變例ノ區域ヲ擴張スル
 ナラン其專横ヲ防クカ爲メニ法律ノ自カラ定メタル變例ノ場合
 ノ外他ノ變例アリトスルヲ法官ニ禁シタルナリ○若シ本條ノ
 規則ニ余カ説明シタル意味ナシトセハ此規則ハ何等ノ意味ヲモ
 有セサルナリ

余ハ末尾ニ於テ一言ヲ加ヘン夫レ自己ニ權利ノ存スルヲ知ラサ
 ルヲ以テ全ク其權利ヲ行フ能ハサル時ハ是ヲ以テ時効停止ノ原因
 ト爲ス可キ歟世ノ學士ハ否ラスト爲ス其說ニ曰ク權利ヲ忘却スル
 ハ一ノ過誤ニシテ法律ノ預リ知ル所ニ非サルナリト余以爲ク人ノ
 自己ニ權利ノ存在スルヲ知ラサルハ多ク怠惰不注意ニ出ツルト雖
 モ又反對ノ場合無キニ非ス若シ人アリ全ク錯誤ニ因リ自己ニ權利
 アルヲ知ラサル時其人ハ時効ニ因リ權利ヲ失フ可シトセハ何ソ獨

リ他ノ原因ニ因テ出訴ヲ遮ラレタル人ノ爲メニ時効ヲ停止スルノ
 理アラシヤ其出訴スル能ハサルハ一ナリ

第二千二百五十一條ノ原則ヲ施行スルニ嚴ニシテ寬ナル所ナケレ、
 ハ必ス天理ニ反シタル結果ヲ生ス然レモ此條ヲ設クルノ主意ハ我
 古法ニ在ル訴ヲ起シ訴ヲ防ク能ハサル者ニ對シテ時効ヲ經過セス
 ト言フ原則ヨリ生スル所ノ訴訟繁雜ノ弊ヲ除クニ在リ凡ソ如何ニ
 正直ナル規則ト雖モ萬中一二ノ非常ノ場合ニ於テ忌嫌ス可キ結果
 ヲ生セサル者ハ蓋シ稀ナリ故ニ我法典ニ於テモ兵亂疾疫ヲ以テ時
 効ヲ停止ノ原因ノ一トシテ加入セシナラハ善美ナラン然ルニ立法
 者ハ之ヲ忘レタルカ或ハ他ノ理由アリテカ兵亂疾疫ヲ以テ停止ノ
 原因ノ中ニ載セサリシナリ既ニ之ヲ變例中ニ措カサル上ハ法官ハ
 事件ヲ判決スルニ臨ミ是ハ法律ノ不備ナリトシテ兵亂疾疫ヲ以テ

停止ノ原因ト爲スヲ得ス何トナレハ法官ハ法律ノ不備ヲ補フノ權
ナケレハナリ

〔附言〕 共和五年「ブリュメール」月六日ノ法律ハ護國士其他陸海軍
ニ從事セル國民ノ爲メニ一箇ノ變例ヲ定メタリ然レモ此法律ハ
一時ノ者ニシテ今日ニ至テハ行ハレサルナリ○千八百十四年一
月二十六日參議院ノ決議此決議ハ國主ノ批准ヲ經テ布告全書ニ
登錄シタリハ敵軍侵入アル時ハ要償ノ約束ナキ期限ニ後レタル
爲換手形ノ効ヲ失ハシメスト決シタリ然レモ此決議ハ要償ノ約
束ニ關シタル者ナリ此約束ハ極メテ短期内ニ行フ可キカ故ニ普
通法ノ規則ヲ適用セス變例中ニ之ヲ置ケリ

〔千八百九十四號〕 余按スルニ若シ吾人ノ出訴防訴ヲ支ユル所ノ妨遮
ヲシテ法律ノ自カラ爲ス所ニ係ル時ハ時効ヲ停止シテ可ナリ例之

ハ人アリ他ニ贈與ス贈與ノ額存留ノ財産ノ額ヲ超過ス其時贈與減
少ノ訴訟ノ時効ハ未來相續人ノ相續ヲ承クルニ至ル迄ハ中停シテ
經過セサル可シ何トナレハ此訴權ハ贈與者ノ存生中ハ法律上ノ成
立モ又未必條件上ノ成立モ無ケレハ此時迄ハ未タ發生セサレハナ
リ抑時効ヲ得ルトハ他人ノ權利ヲ得或ハ他人ニ對シテ負擔シタル
義務ヲ免カル、ノ謂ヒナリ而シテ言フ迄モ無キナカラ權利ノ他
ニ移轉スルニハ其權利ハ少ナクトモ未必ノ條件上ニ發生シタル
ヲ要ス若シ此發生ナキ時ハ時効ハ權利ヲ滅シ或ハ之ヲ移ス能ハサ
ルナリ

〔千八百九十五號〕 時効ノ經過ヲ受ケサルノ特權ヲ有スル人ノ事
此特權ノ生スルハ或ハ債主又ハ所有者ノ位置ヨリシ或ハ權利者ト
義務者ノ關係又ハ所有者ト占有主ノ關係ヨリシ或ハ人權ノ模様モ

時効ノ進行ヲ停止スル原因

第一千二百五十二條

〔千八百九十六號〕 第壹 債主又ハ所有者ノ位置ヨリ生シタル特權

下ノ二箇ノ場合ニ於テハ時効ヲ經過セシメス

第一 幼者及ヒ治産禁ヲ被ムリタル者ニ對シテハ時効ヲ停止ス○

法律ニハ幼者ノ明文アレトモ幼者ノ後見ヲ免カレタル者ト未タ免

カレサル者ヲ分タス故ニ此等ノ人ハ皆ナ特權ヲ有ス

治産禁ヲ被ムリタル者ニ附テハ法律ニ於テ裁判所ヨリ命シタル輔

佐人ノ監視ヲ受ル人(第四百九十九條、第五百十三條)白癡、癩疾、狂疾者

ノ未タ自治ノ禁ヲ受ケサル者ヲ明文セス故ニ此等ノ人ニ對シテハ

時効ヲ經過ス

幼者及ヒ治産ノ禁ヲ被ムリタル者ニハ後見人ナル者アリテ後見ノ

任トシテ付與サレタル權限内ハ此等ノ人ニ代テ訴權ヲ執行スルノ

權利アリ又之ヲ執行ス可キノ義務アリ若シ過誤失策ニ因リ之ヲ執
行セサル時ハ幼者又ハ治産ノ禁ヲ被ムリタル者ニ對シテ抵償ノ責
アリ故ニ幼者等ニ對シテ時効ヲ經過セシムルモ損害ナキカ如シ然
レハ幼者等ノ如キハ思慮周カラス後見人ノ行狀ヲ觀察シ處置ノ宜
シキヲ得サルモ後見ノ職ヲ免スルノ能力ナシ法律ハ幼者ヲシテ自
カラ豫防シ能ハサル他人(後見人)ノ過誤失策ノ犧牲タラシムルヲ欲
セス是レ時効ヲ停止スル所以ナリ

然レハ訴訟ノ繁多ヲ避クル爲メ幼者及ヒ治産ノ禁ヲ被ムリタル者
ト雖モ五年ヨリ多カラスシテ完全スル所ノ小時効ヲ受ルコト有リ(第
二千二百七十八條、第六百六十三條、第六百七十六條參觀)此件ハ
幼者等ノ爲メニハ害ナキニ非スト雖モ社會便益ノ爲メ彼等ノ利益
ヲ枉ケサルヲ得サルナリ

時効ノ進行ヲ停止スル原因

〔千八百九十七號〕 或人幼者及ヒ治産ノ禁ヲ被ムリタル者ニ與ヘタル
 特權ヲ非議ス曰ク此特權ハ全社會ニ害スル甚タ大ナリ何トナレハ
 此特權アルヲ以テ不朽ニ時効ノ期限ヲ延引シ遂ニ所有ヲシテ久シ
 シ確屬スル所ナカラシム若シ假ニ占有主ナル幼者死シテ幼者又之
 ニ相續スルカ或ハ被禁者死シテ又被禁者之ニ相續シタリト想像セ
 ハ恐クハ百年ノ久シキヲ經ルモ占有物ノ眞所有者ハ何人タルヲ知
 リ得可カラサルニ至リ或ハ數百年以來占有シタル後チ其占有物ヲ
 所有者ニ返還スルニ到ルヲ有ル可シ故ニ曰ク社會ノ害タル甚シト
 此論者ノ説ニテハ幼者被禁者ニ適施スルニ普通法ヲ以テシテ特權
 ナラシム唯、通常ノ時効ヨリハ期限ヲ二倍スルヲ以テ可ナリトナス
 ナラン現ニサルデ、ノ國法ニ記スル所モ唯、時期ヲ二倍スルノミ

第二千二百五十四條 〔千八百九十八號〕 第二 下ノ四項ニ於テハ幼年、丁年ヲ問ハス有夫婦

ニ對シテ時効ヲ停止ス

第一項 夫婦財產契約ノ方法如何ヲ問ハス夫又ハ裁判所ノ允許ヲ
 經スシテ婦ノ結ヒタル契約取消ノ訴權ノ時効ハ婦ニ對シテ停止シ
 婚姻解除ノ後ニ非サレハ此訴權ノ時効ヲ生セス(第千三百四條)

凡ソ婦タル者ハ夫又ハ裁判所ノ允許無ク結約スルヲ得ス然ルニ若
 シ夫ニ隱シ竊ニ結約シタルヲ有ル時ハ假令ヒ後日其契約ニ附テ訴
 ヘント欲スト雖モ或ハ恐ル婦ハ既ニ此情實アルヲ以テ軟弱ナル精
 神ニテ思慮シ始メ結婚ノ時嚴ニ恭順ス可シト誓ヒタル夫權ヲ蔑視
 シタルヲ今自白センヨリハ寧ロ自己ノ利益ヲ拋棄シ時効ノ經過
 ナ好マンヲ故ニ本項ヲ設ケテ婦ノ害ヲ防ク又法律ニ於テ婦ハ道
 義上ヨリシテ訴ヲ爲スノ勢力無キ者ト認メタル以上ハ此項ニ在テ
 婦ノ爲メニ婚姻解除ノ時迄テ時効ヲ停止スルハ理ノ然ラシムル所

時効ノ進行ヲ停止スル原因

第一千二百五十六條

千八百九十九條

第二項

夫婦財産契約ノ如何ヲ問ハス婦若シ外人ニ對シテ執行ス可キ訴權ニシテ其極夫ノ身ニ及フ可キ者ノ時効ハ婚姻中停止ス○婦若シ執行スレハ其極夫ニ及フ可キ訴權トハ訴ヲ受ケタル人ノ方ヨリ其夫ヲ保證人ナリトシテ要償スルヲ有ル可キ訴訟ノ權ヲ謂フナリ

若シ此訴權ハ婚姻中ト雖モ時効ニ因リ消失ス可キ者トセハ二ノ害ヲ生ス先ツ其一害ヲ言ハシ婦ハ婚姻中ト雖モ此訴權ヲ失フヲ恐レ之ヲ執行スレハ夫ノ害タルヲ知ルモ止ムヲ得ス執行シ夫ノ怒怨ヲ起シ遂ニ家政ノ平和ヲ損ス又ハ他一害ヲ言ヘハ婦其夫ヲシテ保證ノ責ヲ負ハシメ夫之ヲ怒ラントシテ恐レ遂ニ自己ノ利益ヲ拋棄ス此二害ハ右ヨリナルモ左ヨリナルモ其一ハ必ス生ス可シ故ニ下ノ

規則ヲ設ク曰ク婦若シ執行スレハ其極必ス夫ニ及フ可キ婦ニ屬シタル訴權ノ時効ハ婚姻解除ノ時迄テ停止ス夫ヲ恐敬親愛スルノ情深キヲ以テ婦ノ利益ト夫ノ利益ト相衝突スル時ハ婦ヲ認メテ道義上ヨリシテ軟弱ナル者トス

〔千九百號〕二三ノ例ヲ研究セン

婦ノ承諾ヲ得スシテ其夫婦ノ不動産ヲ賣ル○婦若シ其買主ニ對シテ訴訟スル時ハ如何ナル影響ヲ來スカ此場合ニ在テ夫ハ賣約ノ保證人タルヲ以テ若シ買主其不動産ヲ取返サ、ルヲ有ル時ハ買主ハ夫ニ對シテ償ヲ求ム可シ故ニ夫ハ不動産ノ賣價ト賣約ヨリ生シタル諸雜費其他ノ損害ノ償ヲ買主ニ納ム可キナリ(第千六百三十條)此例ヲ見ル時ハ婦ハ買主ヲ訴ヘテ不動産ヲ得ルト雖モ其訴訟ハ間接ニ害ヲ夫ニ及ホスナリ尙ホ深ク之ヲ論スレハ婦ハ自己ノ固有ノ利

時効ノ進行ヲ停止スル原因

益ヲ護スル爲メニ却テ自己ノ利益ヲ拋棄スルナリト言ハサルヲ得
 ス詞ヲ換ヘテ言ヘハ曰ク婦ニ訴權アリ之ヲ執行スレハ必ス反射シ
 テ自己ノ利益ヲ害スト故ニ若シ此買主ヲシテ果シテ不動産ハ婦ノ
 所有物タルノ實ヲ知ラスシテ買入シ時ハ婦カ夫ノ配下ニ在ル中ハ
 婦ニ對シテ時効ヲ經過ス可カラズ
 夫其婦ノ不動産ヲ以テ自己ノ所有物ナリト宣言シテ他人ニ賣リ併
 テ其賣約ヲ保證セサル旨ヲ約ス買主ハ其實ヲ知ラサルヲ以テ夫ヲ
 眞所有者ト認メ之ヲ諾ス○此買主ハ賣主ノ婦ニ對シテ婚姻解除迄
 ハ時効ヲ申立ルヲ得ス此場合ニ於テ婦訴權ヲ執行スレハ其返動ハ
 夫ニ及ホス何トナレハ假令ヒ契約ノ時夫ヨリ賣約ヲ保證セサル旨
 ノ附文ヲ出シ置クト雖モ若シ買主此不動産ヲ取戻サレシナラハ賣
 主(即チ夫)ハ既ニ受取タル價ヲ買主ニ返却ス可ケレハナリ(第千六百

二十九條

然レモ夫實ニ不動産ノ婦ノ所有タルヲ知ラスシテ之ヲ以テ他ニ賣
 リ賣約ヲ保證セサル旨ノ約ヲ加附ス買主ハ其不動産ノ夫ノ所有ニ
 非サルヲ知リテ之ヲ諾スルカ或ハ夫ノ所有物ナリト信シ夫ハ賣約
 ヲ保證セス且ツ危害損失悉皆買主ノ任タルノ旨ヲ證シタル約文ヲ
 加附シテ之ヲ許諾ス此場合ニ於テ婚姻中ト雖モ妻ニ對シテ時効ヲ
 經過ス何トナレハ夫買主ニ對シテ賣約ヲ保證セサルヲ以テ(第千六
 百二十九條)假令ヒ其婦訴權ヲ執行シ不動産ノ取戻ヲ求ムルモ其訴
 權執行ノ夫ニ害ヲ生スルノ恐れ無ケレハナリ

〔千九百一號〕 夫其所有タル不動産ヲ以テ他人ニ贈與ス受贈者ハ贈與
 者ノ婦ニ對シテ時効ヲ經過セシメ得ル乎○通常ノ贈與ナレハ時効
 ヲ生ス何トナレハ贈與者ハ決シテ贈與ヲ保證セサルヲ以テ(第二帙

時効ノ進行ヲ停止スル原因

六百八十二號參觀假令ヒ婦ヨリ取戻ノ訴權ヲ執行スルモ夫ニ對シ
間接ヨリ來リテ害ヲ生セサレハナリ○結婚ノ爲メニ爲シタル贈與
ニ係ル時ハ贈與者ハ婦ニ對シテ時効ヲ經過セシムルヲ得ス何トナ
レハ此場合ニ於テハ受贈者不動産ノ取戻ニ逢フ有レハ贈與者其
責ニ任ス是レ即チ婦ヨリ取戻ノ訴權ヲ執行スレハ贈與者ナル其夫
ニ間接ヨリ來リテ損害ヲ來スナリ(第千四百四十條、第千五百四十七
條)

故ニ曰ク時効ハ婚姻中ト雖モ婦ニ對シテ經過スルハ原則ナリト雖
モ若シ妻ノ外人ニ對シテ有スル所ノ訴權ノ執行反射シテ其夫ノ利
害ニ關スル時ハ假令ヒ其外人ハ良心ノ者ト雖モ婚姻中時効ヲ停止
ス
此理論ヨリ道義ニ反シタル結果ヲ生ス

夫其婦ノ不動産ヲ贈與シ又婦ノ所有タル他ノ不動産ヲ賣ル然ルニ
受贈者ハ惡心婦ノ所有物タルノ實ヲ知ルヲ謂フアリト雖モ婚姻中
贈與者ノ婦ニ對シテ時効ヲ得ルノ權アリ買主ニ至テハ良心婦ノ所
有物タルノ實ヲ知ラサルヲ謂フコト買ヒ得タリト雖モ婚姻中ハ時
効ノ權ヲ得ル能ハス

夫其婦ノ不動産ヲ以テ自己ノ所有物ナリトシテ之ヲ賣ル買主良心
ニテ之ヲ諾ス又一人アリ夫婦ノ不在ヲ幸ニ婦ノ所有タル他ノ不動
産ヲ押領ス然ルニ良心ノ買主ハ婚姻中賣主ノ婦ニ對シテ時効ヲ中
立ルノ權ナシ之ニ反シテ押領者乃チ惡意ノ占有者ハ時効ヲ經過セ
シムルノ權アリ

千九百二號 第三項 財產共通ノ約ヲ以テ婚シ共通ヲ拋棄スルトセ
サルト決スルノ後ニ非サレハ婦ヨリ執行ス可カラサル訴權ニ附

時効ノ進行ヲ停止スル原因

テ時効ノ經過ヲ停止ス

例之ハ婦一ノ不動産ヲ以テ共通ノ内ニ加ヘ更ニ約シテ若シ婦ヨリ
 共通ヲ拋棄スル時ハ此不動産ハ共通財産ニ非ストシテ前約ヲ取消
 ス可シトス此場合ニ在テ婦ハ常ニ共通終止ノ時ニ取ル可キ所有權
 ナ此不動産ノ上ニ有ス若シ婦共通ヲ承諾スレハ不動産常ニ共通ノ
 中ニ在ル者ト看做ス若シ之ヲ拋棄スレハ所有權ハ常ニ婦ノ有シタ
 ル者ト看做ス爰ニ尙シ此不動産ヲシテ外人ノ手中ニ在ラシムル時
 ハ共通間婦ニ對シテ時効ノ經過ヲ停止ス何トナレハ共通ヲ解除シ
 タル後ニ共通ヲ拋棄スルトモサルトナ決シタル上ニ非サレハ婦ヨ
 リ外人ニ對シテ取戻ノ訴權ヲ執行スルヲ得サレハナリ
 夫共通財産ニ屬シタル不動産ヲ以テ他人ニ贈與ス此贈與ハ婦ニ對
 シテ効ナキヲ以テ贈與ノ取消ヲ願フヲ得可シ(第一千四百二十二條)然

贈與ノ例

時効ノ例

レハ婦ハ共通ヲ承諾シタル場合ニ於テ其共通ノ終止スル時ニ此
 取消ノ訴權ヲ執行スルヲ得受贈者ハ婦ニ對シテ婚姻中ハ時効ヲ經
 過セシムルヲ得ス何トナレハ共通ノ承諾ト拋棄トヲ決スルノ後ニ
 非サレハ取消ノ訴權ヲ執行スルヲ得サレハナリ

〔千九百三號〕

何ノ理由アリテ共通ノ承諾ト拋棄トヲ決スルノ後ニ非

サレハ婦ヨリ執行スル能ハサル訴權ニ附テハ婦ニ對シテ時効ノ經
 過ヲ停止スル乎世人ハ大抵此時効ノ經過ヲ停止スル所以ハ此訴權
 ノ性質ノ未必條件ニ關スルノ故ナリト謂フト雖モ我ハ説ヲ異ニス
 何トナレハ吾輩カ後ニ第二千二百五十七條ヲ説明スルニ當リ見ル
 如ク取戻ノ訴權尙ホ汎ク言ヘハ物上訴權ハ假令ヒ訴權ノ未必條件
 アル者ニ係ルモ又確定ノ期限アル者ニ係ルモ皆ナ時効ニ因リ失亡
 ス故ニ此ニ論スル所ノ訴權ノ如キモ未必條件アルヲ以テ時効ヲ停

時効ノ進行ヲ停止スル原因

止スルニ非サルナリ余竊カニ法律ノ眞意ヲ按スルニ若シ此訴權ニ
附キ婚姻中婦ニ對シテ時効ヲ經過セシム可シトセハ婦ハ常ニ其夫
ノ家政ヲ精査シ嚴ニ共通財産ノ理治如何ヲ監視セサルヲ得ス又夫
ニ懈怠アリト思考スル時ハ婦之ニ代テ自カラ共通財産ニ係ル訴ヲ
執行セサルヲ得ス是レ殆ト婦ニシテ財産共有ニ干渉スル者ナリ而
シテ法律ヲ以テ夫ニ付與シタル共通財産上ノ廣大ナル權威ヲ犯シ
遂ニ一家不和ノ原トナルニ至ルコト明ケシ法律ハ宜シク其弊ナカラ
シムヘシ

第一千二百五十五條

第一千九百四號 第四項 婦若シ嫁資分括ノ方法ヲ以テ婚姻シ其嫁資中

ノ不動産ノ讓與ヲ許シタル契約ナキ時ハ婚姻中婦ニ對シテ時効ノ
經過ヲ停止ス

嫁資分括ノ方法ヲ以テ婚姻シタル時ハ其嫁資中ノ不動産ハ讓與シ

得○サ○ル○者○ナ○リ○但○シ○格○別○ノ○契○約○ア○ル○時○ハ○此○例○ニ○ア○ラ○ス○(第千五百五十
四條及第千五百五十七條參照)嫁資分括ニ屬スル不動産ヲ分テ二種
トス一ハ讓與シ得可キ者一ハ讓與シ得サル者

讓與シ得サル者ノミ婚姻中時効ヲ生セス

故○ニ○法○律○ニ○於○テ○嫁○資○分○括○ノ○法○ニ○據○テ○理○治○シ○タ○ル○不○動○産○ハ○讓○與○シ○得○
サ○ル○者○ト○ス○ル○ヲ○以○テ○亦○時○効○ヲ○生○ス○ル○ヲ○得○サ○ル○者○ト○ス○○然○レ○此○規
則○ニ○二○ノ○變○例○ア○リ

第一 嫁資分括中ニ在ル不動産ハ原ト讓與シ得サル者ナリト雖モ
若シ婚姻公式ノ前既ニ此不動産ノ上ニ時効ヲ始メタル時ハ婚姻中
タリトモ時効ヲ生スルヲ得可シ第千五百六十一條例之ハ甲乙ノ所
有タル不動産ヲ占有ス乙其女ヲ嫁スルニ當リ此不動産ヲ以テ嫁資
トシ女ハ嫁資分括ノ方法ニ據テ嫁ス若シ其嫁スルノ時既ニ時効ヲ

時効ノ進行ヲ停止スル原因

始メシナラハ其時効ハ甲ノ爲メニ繼續ス故ニ曰ク嫁資分括ハ嫁資ノ不動産ヲ讓與シ得サル者トナスト雖モ其不動産ヲ嫁資分括中ニ置クノ時既ニ起期シタル時効ハ之ヲ停止セス(四百六號ニ於テ此箇條ノ理由ヲ參觀ス可シ)

第二 財產分離ノ効ハ嫁資分括中ニ在ル不動産ニ讓與ス可キ性質ヲ付與セスト雖モ其不動産ヲシテ普通法ニ從ヒ時効ヲ生ス可キ者ト爲スナリ但シ嫁資分括外ノ他ノ財產ト雖モ時効ヲ生ス可カラサル場合ハ此例ニアラス(四百七號以下參觀)

(千九百五號) 上文ノ要略 嫁資分括ニテ讓與シ得サル不動産ト雖モ若シ結婚ノ前ニ占有ヲ始メタル時ハ婚姻中時効ヲ繼續ス若シ此占有ヲ婚姻中ニ始メシ時ハ財產分離ノ日迄テ時効ヲ停止ス若シ財產分離ノ後ニ占有ヲ始メシ時ハ占有ノ即日ヨリ時効ヲ始ム

然レモ左ノ二箇ノ訴權ノ時効ハ婚姻解止ノ後ヨリ發始ス

第一 夫又ハ裁判所ノ許可ナク婦ヨリ承諾シタル終權ノ取戻ノ訴權(千八百九十八號參觀) アリエナシヨシ

第二 婦若シ關係アル外人ニ對シテ執行スレハ其返動ヲ夫ニ來タス可キ訴權(千八百九十九號以下參觀)

第二千二百五十四條

(千九百六號) 吾輩既ニ變例トシテ有夫婦ニ對シテ時効ノ經過ヲ停止スル場合ヲ説キタリ其四ノ場合ノ外ニ在テハ有夫婦ト雖モ普通法ニ循フ故ニ第二千二百五十四條ノ文ニ曰ク夫婦財產契約ヲ以テカ或ハ裁判所ノ命ヲ以テ分離スルニ非サレハ夫ニ理治ヲ委子タル財產ニ對シテ時効ヲ經過ス婦ハ其夫ニ抵償ヲ求ムルヲ得可シ夫ニシテ婦ノ財產ヲ理治スルノ權ヲ有スル場合ノミテ法律ニ於テ明言シ其理治ノ任ナキ場合ヲ記載セスト雖モ法律ノ意ハ決シテ婦

時効ノ進行ヲ停止スル原因

自カラ固有ノ財産ヲ理治スル場合ニ於テハ婦ニ對シテ時効ヲ經過セシメスト言フニハ非サルナリ○茲ニ法律ニ於テ夫ニ理治ノ權アル場合ヲ特別ニ記載シ理治ノ責ナキ場合ヲ記載セサル所以ヲ説カシ
 抑婦自カラ自己ノ資財ヲ理治スル時ハ婦ノ爲メニ時効ヲ停止ス可キ別段ノ理由ナキハ論ヲ俟タスシテ瞭然タリ然レモ財産理治ノ權ヲ其夫ニ委ヌル時ハ其資産ニ關シタル訴權ノ執行ハ之ヲ夫ニ任シ婦ハ猶ホ幼者ノコトク夫ハ亦後見人ノ幼者ノ權利ヲ代理スルト同一ノ位置ニ在ルヲ以テ人或ハ誤テ幼者ニ對シテ時効ノ經過ヲ停止スルカ如ク婦ニ對シテモ亦之ヲ停止ス可シト爲サントテ恐ル故ニ法律ニ於テ特別ニ其場合ヲ明言シ其停止ナキヲ明カスナリ
 而シテ法律ハ有夫ノ婦ト幼者ト同一視スルハ正理ニ適スル者ニ非

スト爲ス凡ソ幼者并ニ治産ノ禁ヲ被リタル者ニ對シテ時効ヲ經過セシムルハ不正ノ甚シキ者ナリ何トナレハ幼者等ハ原ト能力ニ乏シキ者ナレハ常ニ後見人ヲ監視シ假令ヒ懈怠ニ因テ無能力者ノ利益ヲ害スルコト有ルモ其職ヲ罷メシメ以テ自己ノ利益ヲ保護スル能ハサレハナリ之ニ反シテ有夫ノ婦ハ若シ其夫訴ヲ怠リテ訴權ヲ害スルコト有ル時ハ直ニ財産分離ヲ願フテ以テ自カラ此訴權ヲ執行スルヲ得此ニ由テ之ヲ觀レハ婦ニハ時効ノ身ニ迫ルノ時ニ當リ自カラ防護スルノ方法アリ故ニ時効ノ經過ヲ停止スルノ特權ヲ與フルノ理ナシ
 然レモ夫其婦ノ財産ヲ理治スル場合ト理治セサルノ場合ニ因テ差異アリ
 若シ婦自カラ財産ヲ理治シ時効ノ經過ヲ委棄シタル時ハ其婦ノミ

時効ノ進行ヲ停止スル原因

ニ責アリ故ニ時効既ニ成ルノ後ニ至テ其夫ニ對シテ要償スルヲ得
ス之ニ反シテ夫其財産ヲ理治シ遂ニ時効ヲ生セシムルニ至ル時ハ
其責夫ニ在リ何トナレハ原ト婦ヨリ自己ノ財産保存ノ任ヲ夫ニ委
テタル者ニシテ其委任ヲ受ケタル夫ノ怠慢ヨリ生シタル損害ハ夫
ヨリ之ヲ償フハ當然ノコトナレハナリ

故ニ婦ノ財産ノ管理者タル夫時効ヲ生スルノ點ニ在テ之ヲ斷絶シ
得可クシテ斷絶セス。遂ニ之ヲ完全セシメタル時ハ其婦ニ對シテ責
ニ任ス可シ。○上文斷絶シ得可クシテ斷絶セスト云フノ意ヲ詳カニ
スレハ曰ク凡ソ人過失アレハ其責ニ任シ過失ナケレハ其責ニ任セ
ス故ニ斷絶シ得可カラスシテ斷絶セサル時ハ夫ニ過失ナキヲ以テ
其責ニ任セス而シテ責任ノ有無ハ事實ニ據テ決ス例之ハ夫ハ果シ
テ結婚ノ時婦ノ權利ニ時効ノ經過シ來リタルコトヲ知リシヤ或ハ之

ヲ知ラサルノ過失アルヤ否ヤハ法官ノ事實ニ據リ審決スル所ナリ
若シ結婚公式後日ナラスシテ時効ヲ完全シ果シテ夫ニ未ダ婦ノ資
産ノ位置如何ヲ知ルノ時日ナキカ如キ時ハ夫ニ責任ナキハ疑ヒチ
容レサルナリ

第一千二百五十三條

第一千九百七號 第貳 權利者ト義務者ノ關係又ハ所有者ト占有主ノ關
係ニ基キ設ケタル變例

時効ハ下二箇ノ關係ニ因テ其經過ヲ停止ス

第一 夫婦ノ間ニハ互ニ時効ヲ經過セシメス

ビゴ、プレナムノ一氏ハ參議院ノ演說ニ於テ此變例ノ理由ヲ明カ
ニセリ曰ク凡ソ夫婦ハ互ニ雙方ノ權利ヲ相敬尊シ相維持ス可シ然
ルニ倘シ夫婦間ニ於テ時効ニ據テ權利ヲ得或ハ之ヲ失フコト有レハ
是レ婚姻協和ノ天然ニ戾レルナリ而シテ親睦ハ夫婦ノ幸福ニシテ

時効ノ進行ヲ停止スル原因

且ツ社會ノ順序ヲ整頓スルニ缺ク可カラサル者ナリ故ニ法律ハ宜シク其親睦ヲ破ルノ事ヲ禁止スヘシト他又夫婦ハ己レニ間接ノ贈與ヲ爲スノ能力ナキ者ナリ然ルニ夫婦ノ間ニ時効ニ據リ權利ヲ得或ハ之ヲ失フ有ル時ハ其無能力ハ有名無實ノ者トナラン何トナレハ配耦者ノ一人時効ヲ經過セシメテ他ノ一人ニ損害ヲ被ラシメ自己ヲ利益シ暗ニ間接ノ贈與ノ無能力ヲ破ルニ極メテ容易ナレハナリ

第一千二百五十九條第二千二百五十三條

〔千九百八號〕 第二 相續ニ對シテ有スル人權ニ附キ目錄相續人ニ對シテ時効ヲ經過セシメス。或曰ク此變例ノ理由ハ訴ヲ起シ訴ヲ防ク能ハサル者ニ對シテ時効ヲ經過セスト言フ規則ニ據テ設ケシ者ナリト其言ニ曰ク時効ハ相續ノ債主タル目錄相續人ニ對シテ進行セス何トナレハ此相續人ハ自身ヲ自身ノ相手トシテ訴ヲ起シ訴ヲ

防ク能ハサレハナリト此說適正ナラス目錄相續人ト雖モ自身ヲ相手トスルニ非スシテ充分ニ其相續ニ對シテ有スル所ノ訴權ヲ執行スルヲ得現ニ其手續ノ如キハ載セテ訴訟法第九百九十六條ニ在テ共同相續人ニ對シ又ハ自カラ遺物ノ爲メニ撰任シタル管財者ニ對シテ訴訟ヲ起スヲ得ルナリ。蓋シ目錄相續人ニ對シテ時効ノ進行ヲ停止スル所以ハ此相續人ハ人權ノ抵當トシテ遺物ヲ質ニ取リタルト一般ノ位置ニ在テ其權利アル部分ヲ得ルコト儘ニシテ更ニ相續ニ對シテ詞訟ヲ起スノ利益ナキヲ以テナリ

〔千九百九號〕 相續中ニ在ル目錄相續人ニ對スル人權ニ附テ相續ノ爲メニ時効ヲ停止スル乎世論概テ停止ス可シト爲ス此論理ナキニ非ス

抑、目錄相續人ハ遺物ノ管理者ナルヲ以テ遺物中ニ在ル權利ノ保存

時効ノ進行ヲ停止スル原因

ハ自カラ之ヲ擔任ス可シ故ニ若シ時効ノ經過スル有ラハ速カニ相續ノ爲メニ之ヲ斷絶ス可シ又己レ相續ニ對シ負債主ノ位置ニ在ル時ハ其負擔スル所ノ義務ヲ自己ニ向テ辨濟ス可シ若シ怠テ之ヲ辨濟セサルヲ有レハ則チ一ノ過失ナリ凡ソ何人ヲ論セス自己ノ本分ヲ盡サ、ルヲ引援シテ己レニ利ヲ得ル能ハサルナリ(譯者曰ク己レニ利ヲ得ル能ハストハ時効ヲ進行セシムルヲ得スト謂フノ意ナリ)

〔千九百十號〕故ニ時効ハ相續ト目錄相續人ノ間ニハ其進行ヲ停止ス然レモ此停止ハ目錄相續人ヨリ相續ニ對シ又ハ相續ヨリ此相續人ニ對シテ有スル所ノ人權ノミニ附テ有ル者ニシテ目錄相續人ヨリ他ノ相續人ニ對シ又ハ他ノ相續人ヨリ目錄相續人ニ對シテ有スル所ノ人權ニ附テハ停止セス例之ハ甲死ス四名ノ相續人アリ四名ノ中一名ハ千二百「フラン」ノ債主タリ其債主タル相續人ハ目錄ノ便益

ベチヒイス、ダンリシテール

ニ依リ承續ス是ニ於テ此千二百「フラン」ノ負債ハ分テ四ノ負債ト爲リ其一分ハ目錄相續人ノ受取タル遺物ノ部分内ニ入り其三分ハ他ノ相續人三名ノ部分内ニ在リ然ルニ目錄ノ便益ニ據リ承諾シタル債主ノ部分内ニ入りタル人權ニ對シテハ時効ヲ停止スト雖モ他ノ相續人ノ部分内ニ在ル對人權ニ對シテハ時効ヲ停止セス

〔千九百十一號〕相續ノ暫時歸スル所ナキ者ニ對シテハ之カ爲メニ管財者ヲ設ケサル時ト雖モ時効ヲ進行ス

時効ハ遺物精算表作爲ノ三箇月間并ニ調査日數四十日間ト雖モ相續ニ對シテ進行ス何トナレハ此時間ニ在テ相續人ハ相續人タルノ身分ニテ遺物保存ノ責ヲ負フニハ非スト雖モ總テ保存ノ所作ヲ爲スヲ得ルカ故ニ相續ニ對シテ進行スル所ノ時効ヲ斷絶スルヲ得レハナリ

時効ノ進行ヲ停止スル原因

故ニ之ヲ相續ノ方ニ附テ觀レハ時効ハ相續人ノ相續ス可キ部分ヲ
 調査スルノ間ト雖モ相續ノ爲メニ進行ス何トナレハ此時間ト雖モ
 相續ニ對シテ權利ヲ有シタル外人ハ調査ヲ爲ス所ノ相續人ニ對シ
 充分ニ其權ヲ執行シ時効ヲ斷絶スルヲ得レハナリ凡ソ遺物調査間
 ニ在ル相續人若シ外人ヨリ訴ヲ受ル有ル時ハ訴訟法第百七十四
 條ノ訴訟猶豫ノ本案外ノ答辯ヲ以テ其外人ニ對抗シ一時訴訟ヲ中
 止スト雖モ後ニ至リ相續人ニ對シ之ヲ繼續ス相續人ニ對シテ訴訟
 ヲ再始スルハ其相續人相續ヲ領承シタル時ナリ若シ相續ヲ棄捐シ
 タル時ハ代テ承續シタル人ニ對シテ訴訟ヲ續ク始ム可シ蓋シ相續
 ヲ棄捐シテ一度ヒ外人ノ適正ニ行フタル所爲(訴訟ヲ指ス)ノ効力ヲ
 破滅スル能ハサレハナリ故ニ外人ハ相續人ニ對シ充分ニ其權ヲ行
 ヒ時効ヲ斷絶スルヲ得ルナリ(本書第二篇二百八十號參觀)

第一千二百五十七條

第一千九百十二號 第參

人權ノ模樣ニ基キ設ケタル變例
モダリテ

凡ソ時効ハ下ノ三項ニ於テ停止ス

第一項 未○必○條○件○係○ル○人○權○ニ○附○テ○ハ○其○條○件○ノ○發○出○ス○ル○時○迄○テ○時
 効ヲ停止ス

時効ノ進行ヲ支止スル所ノ未○必○條○件○ハ○則○チ○人○權○ノ○成○立○ヲ○抑○停○ス○ル
 條件ナリ○之ヲ停止ノ未○必○條○件○ト○謂○フ

解除ノ未○必○條○件○即○チ○義○務○ノ○成○立○ヲ○停○止○ス○ル○ニ○非○ス○シ○テ○義○務○ヲ○解○止
 スル未○必○條○件○ハ○其○効○上○文○ノ○條○件○ト○同○シ○カ○ラ○ス○此○條○件○アル○人○權○ハ○既
 ニ成立スル者ナルヲ以テ此人權ヲ有スル人ハ通常ノ人權ヲ有スル
 者ト一般其權利ヲ執行スルヲ得故ニ時効ノ進行ヲ停止スルノ理ナ

第一千九百十三號 第二項

擔保ノ訴訟權ニ附テハ奪取アル迄ハ時効ヲ停

時効ノ進行ヲ停止スル原因

アシシヨクアン、カランチ

エツサクシヨク

止ス。

該項ハ上文第一項中ニ含有スル者ニシテ別ニ此一項ヲ起スニ及ハ
ス其故ハ畢竟奪取アルニ非サレハ擔保ノ訴權ニ時効ヲ生セスト爲
スモ之ヲ要スルニ訴權ニ確然タラサル未來ノ事情(即チ奪取)ニ關シ
タル未必條件アレハナリ
凡ソ擔保ノ訴權トハ要報ノ名義アル得權者(或ハ贈與ノ名義アル受
贈者)既ニ眞ニ得タリト思考スル物件ヲ其眞主ニ返還スルヲ誣ラ
レ依テ其初メ物件ヲ與ヘタル者ニ對シテ其奪ヒ取ラレタルヨリ生
スル損失ト若シ返還スルヲ無ケレハ將ニ得タル可キノ利益ノ償ト
ヲ要求スルノ訴權ヲ謂フナリ(第千六百三十條)

〔千九百十四號〕第三項 期限アル人權ニ附テハ其期限ヲ超過スル迄
ハ時効ヲ停止ス

期限極終日ノ全日ハ義務者ノ權内ニ在ルヲ以テ時効ノ進行ヲ始ム
ルハ極終日ノ翌日ヨリス
若シ負債ニ數多ノ期限アル時ハ其既ニ拂フ可キ期限ヲ超過シタル
部分ニ對シテ最初期限ノ終盡ノ日ヨリ時効ヲ進行シ他ノ各部分ハ
各辨濟期限ノ終盡ノ日ヨリ之ヲ始ム

〔千九百十五號〕斯ク未必條件及ヒ期限ハ時効ノ進行ヲ停止ス是レ何
等ノ理由ニ因テ然ルカ論者或ハ訴ヲ起シ訴ヲ防ク能ハサル者ニ對
シテ時効ヲ進行セスト言フノ規則ヲ適施スルナリト言ハシ然レモ
決シテ然ラス故何トナレハ假令ヒ時効ハ未必條件或ハ期限アル人
權ヲ有スル權利者ニ對シテ進行スルモ權利者ハ第千八百八十條ノ
原則ニ據リ之ヲ斷絶スルヲ甚タ容易ナレハナリ
抑此條ノ原則ハ未必條件未ダ生セサル時ト雖モ權利者ハ人權保存

時効ノ進行ヲ停止スル原因

ノ事ヲ爲スヲ得況ヤ日限中豈ニ之ヲ爲スヲ得ルヲ有ラシヤト言フニ過キス故ニ時効ノ進行スル有ルモ權利者ハ必ス義務者ノ家ニ行キ而シテ「余ハ汝ニ對シテ未必條件(或ハ期限)アル人權ヲ有ス然ルニ其人權ハ殆ト時効ニ因リ消滅スルノ點ニ在リ故ニ汝ヲ人權ヲ確認シ再認書ヲ余ニ與ヘヨ」ト言ハシ若シ義務者之ヲ拒テ與ヘサレハ人權成立ヲ認知セシムル爲メ裁判呼出ヲ爲サン義務者ヨリ和談ニテ權利者ノ權利ヲ認ムルモ又裁判呼出ニ因リ之ヲ認ムルモ皆テ第二千二百四十四條及ヒ第二千二百四十八條ニ據リ時効ヲ斷絶スルナリ(千六百三十一號參觀)

蓋シ未必條件未タ到ラス又日限未タ盡キサル中ノ進行ヲ停止スル所以ハ未必條件又ハ期限アル人權ニ附テ時効ヲ生スル理由ナケレハナリ凡ソ免責時効ノ原則ハ法律上ヨリ見テ債主ノ三十年間黙過

シタルハ必ス既ニ負債ノ返濟ヲ受取リシ者ナラントスルニ在リ此推測或ハ實事ト相反スルヲ無キニ非スト雖モ社會ノ公益上ヨリ之ヲ觀レハ債主自己ノ懈怠久シキ黙過ニ因リ損耗(時効ニ因リ對人權ヲ失フ)ヲ被ラシムルモ決シテ不正ノヲニ非サルナリ然ルニ本題ノ如キハ素ヨリ此推測ヲ生ス可キ場合ニ非ス

第一 義務者其義務ヲ辨濟シタルノ推測ハ未必條件未タ到ラス或ハ期限未タ盡キサル人權ニ付テ起ル可キ者ニ非サルナリ何トナレハ推測ハ世間通常ノ事ニ基テ立ツ義務者ニシテ其負擔スル未必條件ノ未タ到ラサル前或ハ期限未タ盡キサル前ニ義務ヲ辨濟スルカ如キハ義務者ノ情態ニ於テ決シテ無キヲナリ

第二 未必條件未タ到ラサル時又ハ期限中權利者義務ノ辨濟ヲ得ル爲メ訴訟ヲ起サ、ルハ決シテ權利者ノ過失ニ非ス何トナレハ此

時間ヲ默過スルハ法律ノ自カラ命スル所ナレハナリ斯ク推測ノ立ツ所ナキヲ以テ時効ヲ停止ス

〔千九百十六號〕

先ツ法典ノ條例ノ文字ヲ熟看ス可シ其文ニ曰ク、未必

條件アル人權ニ附テハ其條件ノ現ニ在ル迄テ時効ヲ停止シ又期限

アル人權ニ附テハ日限盡クル迄テ之ヲ停止ス云々

條文對人權ニ附キ云々ノ文字アリテ物權ノ文字ナキヲ以テ見レハ

該條ノ規則ハ人權ニ適施ス可シト雖モ物權即チ所有權及ヒ所有權

ノ分支ニ適施ス可カラス故ニ物件ヲ占有スル者ハ占有物ノ上ニ未

必條件又ハ期限アル權利ヲ有スル人ト占有物ノ上ニ通例ノ權利ヲ

有スル人トチ別タス時効ヲ進行セシムルヲ得ルナリ

例之ハ甲一ノ不動産ヲ以テ遺囑トシテ乙ニ與へ之ニ停止ノ未必條

件ヲ附ス然ルニ遺囑者ノ相繼人此不動産ヲ以テ丙ニ賣渡セリ丙ハ

良心ニテ十年若クハ二十年(又ハ惡心ニテ三十年)間之ヲ占有ス期既

ニ滿ル時ハ丙其占有ヲ始メタル日ヨリ時効ヲ計算シテ其所有權ヲ

得ルナリ

此場合ニ在テ時効ヲ進行セシムルハ不正ナリト謂フ可カラス蓋シ

乙若シ時効ヲ斷絶セント欲セハ之ヲ爲ス極テ容易ナレハナリ且ツ

法律ハ乙ニ未必條件到ラサル時ト雖モ自己ノ權利ヲ保存スルニ必

要ナル所作ヲ爲ス可シト命セシニ非スヤ當ニ乙ハ占有者ヨリ好意

ニテ爲シタル權利確認證カ又若シ之ヲ拒テ與へサル時ハ裁判呼出

ニテ權利ノ確認證ヲ得可シ然ルニ之ヲ爲サズ遂ニ時効ヲ進行セシ

ムルニ至ル是レ過失ナリ然ラハ進行ハ豈ニ之ヲ不正ナリト謂フチ

得ンヤ

〔千九百十七號〕

上文ノ理論ヨリ奇怪ナル結果ヲ生ス甲ナル者アリテ

時効ノ進行ヲ停止スル原因

未必條件又ハ期限アル人權ノ抵當トシテ書入ヲ有セリ然ルニ此書入不動産ノ乙ナル負債主ノ所有ニ在テ且ツ未必條件未ダ到ラサルカ又ハ期限未ダ盡キサル間ハ甲ノ其負債主ニ對シテ有スル人權上ノ訴權又ハ不動産上ニ有スル書入ノ訴權ニ附キ甲ニ對シテ時効ヲ進行セシムルヲ得然レモ今茲ニ乙ナル負債主此書入不動産ヲ他ニ賣却シタリト假想セシニ其買得テ而シテ占有シタル丙ハ假令ヒ甲ノ有スル人權ニ未必條件到ラス或ハ期限未ダ盡キスト雖モ甲ニ對シテ時効ヲ進行セシメ其占有スル不動産ノ上ニ是迄負ヒ來リタル書入ノ義務ヲ免脱スルヲ得ルナリ○然レモ甲ハ占有主即チ丙ニ迫テ書入ニ未必條件又ハ期限アルヲ確認セシムルヲ得若シ占有主好意ニテ之ヲ確認セサル時ハ裁判呼出ヲ以テ之ヲ爲スヲ得可キハ勿論ナリ(千六百五十三號參觀)

〔千九百十八號〕要畧

未○必○條○件○到○ラ○ス○或○ハ○期○限○盡○キ○サ○ル○中○時○効○ヲ○進○行○セ○シ○メ○ス○ト○云○フ○規○則○ハ○得○權○時○効○ニ○適○施○ス○可○カ○ラ○ス○獨○リ○免○責○時○効○ニ○ノ○ミ○之○ヲ○適○施○ス○可○シ

〔千九百十九號〕

此章ヲ終ルニ臨ミ一ノ着目ス可キヲ有リ未ダ生セサル權利(未ダ法律上ニ成立セサル權利ニシテ未必條件上ニモ成立セサル者)ト純粹ノ未必條件アル權利ト混淆スル無カル可シ例之ハ可得處分ノ高ヲ超過シタル贈與ヲ減少スルノ權利ノ如キ贈與者ノ生存中ハ未必條件アル權利ノ形ヲニテモ成立セサル者ナリ未來ノ受贈者ヨリ贈與者ニ對シ贈與者ノ生存中他ニ爲シタル無報名義ノ讓與ヲ取消サンヲ願フノ權ノ如キモ亦然リ(第千八十三條)此等ノ權利ハ皆十贈與者ノ死後ニ非サレハ開始セス其開始セサル中ハ推測相續人及ヒ未來ノ受贈者ノ如キモ此權利ヲ執行シテ保存ノ事ヲ爲

時効ノ進行ヲ停止スル原因

スヲ得ス故ニ時効モ亦彼等ニ對シテ進行スルヲ得サルナリ

○第五章 時効ノ期日

○第一款 總則

第一千二百六十條

時効ノ期日ヲ算スルノ方日ヲ數ヘテ時ヲ數ヘス故ニ時効ヲ始メタル同時刻ニ於テ之ヲ終ル者トスルヲ要セス例之ハ時効ハ何年何月何日第十時ヨリ始マリ何年何月何日第十時迄ナリト算セス何年何月何日ヨリ何年何月何日迄ト算ス可シシラトノ氏曰ク「法律上ニ於テ時効ノ期日ニ望ム所ノ時日ハ二十四時間ノ時ヲ取り何時ヨリ何時ト言フニ非ス半夜ヨリ始テ半夜ニ終リタル一日ノ數ヲ算ヘルニ在リト」

法律ニ日ヲ算ヘテ時ヲ算フルヲ欲セサルハ蓋シ起期ノ精密ヲ了知スルノ難キヨリ生スル訴訟ノ繁雜ヲ豫防スルナリ

第一千二百六十一條

茲ニ一問題アリ之ヲ研究ス可シ曰ク若シ時効ノ極日未ダ全カテサル時ハ之ヲ全日トシテ時効ノ期日ニ算入シテ可ナルカ或ハ極日ノ分數ヲ算セス全ク加算セスシテ可ナルカ又起期點ニ在ル一日ノ分數ハ全日トシテ算フ可キカ或ハ其一日ハ全ク加算セスシテ可ナル乎

羅馬律ニ據レハ此問題ヲ決スルニ區別アリ得權時効ニ附テハ未全一日ヲ算フ故ニ極日既ニ始マルノミニシテ時効ノ權ヲ得免責時効ニ附テハ未全一日ヲ算ヘス故ニ極日ヲ完全スルノ後ニ非サレハ時効ノ權ヲ得ス

我法典ニハ此區別ヲ採ラス得權免責時効ニ附テハ二十カラ未全一日ヲ算ヘス故ニ第一千二百六十條ニ曰ク「期限ノ極全日經過シ終レハ時効ノ權ヲ得ト」

總則

〔千九百二十二號〕時効ノ起期點ニ在ル未全一日ハ全日トシテ之ヲ算入ス可キカ或ハ之ヲ除去ス可キ乎

我法典ハ其如何ヲ明言セス

メルラン氏ハ之ヲ加算ス可シトスジュラントン氏ハ得權時効ト免責時効ノ別ニ從テ或ハ全日トシテ加算シ或ハ除去ス可シトス其說ニ曰ク先ツ得權時効ノ場合ニ在テハ占有主ハ起期點ニ在テ一日間ハ實ニ物件ヲ占有シタリシニ相違ナケレハ其日ノ極時ヨリ算ヲ起ス可シ然ルニ時効ノ期日ハ日ヲ算ヘテ時ヲ數ヘス故ニ此日ヲ全一日トシテ加算ス可キナリ〔下ノ附言甲ヲ見ル可シ〕免責時効ノ場合ニ在テハ負債期限ノ日ハ全ク負債主ノ權内ニ在ル〔下ノ附言乙ヲ見ル可シ〕ヲ以テ其日ニハ債主ヨリ訴ヲ起スヲ得ス故ニ負債主ニ對シテ時効ノ進行スルハ其翌日ヨリトス

〔附言〕甲 然レモ人或ハ曰ハントス起期點ノ一日ハ全ク除去ス可シ何トナレハ時効ノ期日ハ時刻ヲ以テ計算セサレハナリト此說モ亦理アリ故ニ余謂ラクジュラントン氏ハ疑問ヲ決定スルニ疑問ヲ以テシ到底着決スル所ナカル可シ

〔附言〕乙 期限アル負債ノ期限盡クル日ハ負債主ノ權内ニ在リト云フノ說ハ當レリ然レモ單一ノ負債又ハ未必條件ノ實行ニ因テ發生スル未必條件アル負債ニ附テハ債主ハ負債ノ成立シタル日ヨリ辨濟ヲ要求スルヲ得此二ノ負債ニ關シテジュラントン氏ノ說如何氏嘗テ之ヲ論シタルヲ無シ

〔千九百二十三號〕他ノ一說ニハ起期點ニ在ル一日ハ決シテ算加ス可カラストス我古昔ノ法律ニ於テモ議論一定ナラサリシカ遂ニ算加セサルヲニ決セリ其時代ノ習慣ニ一ハ算加ス可カラサルノ說ヲ固

守シ他ハ時効ノ期日ノ外又他ノ一日ヲ加フ是レ起期點ノ一日ハ算加ス可カラスト言フニ外ナラサルナリ今又我法書ヲ見ルニ決シテ此舊判決例ヲ棄テタル者トハ信シ難シ第二千二百六十條ノ明文ニ時効ノ期日ハ日ヲ算ヘテ時ヲ算ヘスト有ルハ暗ニ完全ノ一日ニ非サレハ算フ可カラストノ謂ヒナリ且ツ起期點ノ一日ヲ算加セハ必ス理ニ於テ行ヒ難キ結果ヲ生スルニ至ル例之ハ今日正午ニ甲乙ト純粹ノ賣約ヲ結ヒ乙ノ家ヲ買フ其時(起期)ノ日ヲ算加スルトセバ甲乙ニ對シテ負擔スル義務ノ上ニ生スル免責時効ハ正午十二時前即チ其義務ノ未ダ發生セサルノ前ヨリ既ニ進行シ來リタルノ理ニ當ル夫レ時効ハ未ダ發生セサル義務ヲ消滅スルヲ得ル乎決シテ之ヲ消滅スルヲ得サルナリ○又甲正午十二時ニ不動産ノ占有ヲ得其日ヲ全一日トシテ計ルトセハ時効ハ此日ノ午前即チ甲カ未ダ占有ヲ

始メサルノ前ヨリ進行シ來リタルナリ是レ豈ニ占有ナクシテ得權時効ヲ得ルニ非ス乎

〔千九百二十四號〕 要略 時効ノ期日ヲ算スルニハ全一日ヲ以テ一日

トス起期點ノ日或ハ期限ノ極日ノ如キハ之ヲ算ヘス

例之ハ甲ハ千八百三十年一月一日正午十二時ニ於テ不動産ノ占有ヲ得後チ全三十年ヲ經テ時効ノ權ヲ得可シ然ルニ此三十年ハ何年何月何日ニ於テ完全スル乎千八百三十年一月一日ハ全一日ニ非サルヲ以テ之ヲ算セス又千八百六十年一月一日モ加算セス蓋シ一日未ダ全タカラス其一日ノ分數ノ如キハ之ヲ算ヘサルナリ故ニ時効三十年ノ期日ノ第初日ハ則チ千八百三十年一月二日ニシテ三十年ヲ完全スルニハ千八百五十九年十二月三十一日ノヨリナラス千八百六十年一月一日ノ全日ヲ要ス若シ千八百六十年一月一日中ニ所有

者ヨリ取戻ヲ訴ヘタル時ハ其訴ニカアリテ時効ヲ斷絶ス

〔千九百二十五號〕月ヲ以テ期トスル時効ノ時日ハ大陽曆ニ據リ例之

ハ一日ヨリ一日迄十五日ヨリ十五日ヲ一箇月ト算シテ一箇月中ニ

日ノ不同アルヲ問ハス故ニ一月一日ヨリ始マリタル六箇月ノ時効

ハ七月一日ヲ過キテ完全ス(商法第三百二十二條ヨリ推論ス)

〔千九百二十六號〕法律上ノ祭日ト雖モ他ノ祭日ト同シク期日ニ加算

ス可シ時効ノ極日祭日ニ當ルト雖モ之ヲ算ス何トナレハ權利者若

シ權利アルヲ知ラハ何ソ之ヲ前日ニ訴ヘサルヤ極日ヲ待テ訴ヘン

トスルカ如キハ遅延ノ過チ有レハナリ其他又一ノ理由アリ凡ソ祭

日ト雖モ特別ニ法官ニ願ヒ權利ノ保存ニ缺ク可カラサル所行ヲ爲

スノ允許ヲ得能フ者ナリ(訴訟法第六十三條及第一千三百三十七條參

觀)

○第二款 三十年ノ時効

第一千二百六十二條

〔千九百二十七號〕人權及ヒ物權ニ附テ總テノ訴權ハ三十年ヲ以テ時

効ノ期限トス但シ其時効ノ權ヲ得ントスル者ハ嘗テ其物件ヲ得或

ハ義務ヲ免カレタル證書ヲ出スニ及ハス又其時効ヲ妨ケントスル

者ハ其時効ノ權ヲ得ントスル者ハ嘗テ惡意アリテ其物件ヲ占有シ

或ハ義務ヲ免カレントスルヲ述フルヲ得ス

此正條ヲ註釋スル左ノ如シ

總テノ訴權云々(下ノ附言ヲ見ル可シ)○正條ニ總テノ訴權ト有レト

モ指人爲親ノ訴權(第三百二十八條)及ヒ共有未分間ニ於ケル分派ノ

訴權(第二帙三百二十五號、三百二十六號參觀)擔保ノ訴權及ヒ期限又

ハ未必條件アル人權ヲ目的トスル訴權ノ如キ(第一千二百五十七條)

法律上ニ時効ヲ生ス可キ者ニ非スト定メタル訴權ハ時効ニ據テ消

三十年ノ時効

減セス
對人權及ヒ物上權ニ附キ云々○此條文ニ人物兩權ニ係ル訴權ヲ附加ス可シ

〔附言〕 占有主始メ物件ノ眞所有者ト契約シテ其占有ヲ得タリト雖モ登記法ヲ履行セサル時ハ外人ニ對シ三十年ノ時効ニ因リ其證書ニテ移轉セサル所有權ヲ得ル乎又ハ十年若クハ二十年ノ時効ニ因テ之ヲ得ル乎

三十年ヲ以テ期限トス云々○此條文ノ下ニ且ク法律ニ於テ定メタル他ノ要件アリテ(第二千二百十九條)ノ一句ヲ加フ可シ蓋シ所有權取戻ノ如キ物權ニ關スル訴權ノ時効ハ人權ニ關スル訴權ノ時効ト同シカラサルヲ以テナリ
物權ニ關スル訴權ノ時効ハ二ノ原素ニ據テ組成ス乃チ時間及ヒ他

人ノ物件占有是ナリ例之ハ我三十年間所有權ヲ執行セサルヲ以テ其所有ノ權及ヒ之ニ附帶スル取戻ノ權ヲ失フヲ無シ故ニ時間ノミニテハ時効ノ權ヲ得ルニ充分ナラス他人ノ其權ヲ占有シ此時間ヲ經過スルニ至テ始メテ我カ所有權ヲ失フ此ニ由テ之ヲ觀レハ時効ノ權ヲ得ルニハ第二千二百二十九條ノ明文ニ循ヒ此條ニ定メタル要件ヲ履ミ或ル時間所有權ヲ占有シタルヲ要ス
人權ニ關シタル訴權ハ其權ヲ有シタル人ノ法律上ニ定メタル時間默過スルノミニテ消滅ス
三十年ヲ以テ期限トストハ普通法ニ據テ言フナリ法律ニ特別ノ明文ヲ以テ三十年ヨリ短カキ期限ヲ定メサル場合ハ悉ク三十年ヲ以テ期限トス

三十年ヨリ短カキ時効(第二千二百六十五條及第二千二百七十條ヨ

リ第二千二百八十條ニ至ルノ場合はナリ有リト雖モ三十年ヨリ長
 キ時効ナシ
 但シ其時効ノ權ヲ得ントスル者ハ嘗テ其物件ヲ得或ハ其義務ヲ免
 カレタル證書ヲ出スニ及ハス又其時効ヲ妨ケントスル者ハ其時効
 ノ權ヲ得ントスル者嘗テ惡意アリテ物件ヲ占有シ或ハ義務ヲ免カ
 レントスルトナリト述フルヲ得ス○故ニ三十年ノ得權時効ヲ申立ル者
 ハ下ノ箇條ヲ證ス可シ

第一 今自己ノ所有物ナリト陳述スル所ノ物件ヲ占有シタル事
 第二 三十年間之ヲ占有シタル事

以上二箇ノ證據上リシ後時効ヲ完全ス○又證書ヲ以テ占有ヲ明
 白スルニ及ハス之ヲ詳カニスレハ其占有ノ來リタル原因ヲ證スル
 ヲ要セストノ謂ヒニシテ現在我レ此物件ヲ占有スルカ故ニ即チ我

レニ占有アルナリト謂フヲ得可シ○惡意アリテ占有シタルヤ否ヤ
 ハ問ハス所有者自己ノ資産ヲ棄テ遠久ノ時間他人ノ占有スルヲ措
 テ問ハス其過失ニヨリ資産ヲ失フナリ故ニシヨノ一氏曰ク法律ノ時
 効ヲ設クルハ專ラ公寧ヲ主トスルヲ以テ敢テ惡意アル占有者ノ不
 良ヲ尤メスト

故ニ物件取戻ヲ願ヒ(原告)被告人ヨリ三十年ノ時効ヲ以テ辯護サレ
 タル原告人ヨリ占有主ノ惡意ヲ證スルモ其益ナシ時効ノ發生ニ缺
 ク可カラサル占有ノ要件ノ一ヲ缺クカ(第二千二百二十九條)或ハ斷
 絶及ヒ停止ノ原因アルカヲ證スルニ非サレハ訴訟ニ勝チ得ル能ハ
 サルナリ

第二千二百六
 十三條

(千九百二十八號) 第二千二百六十三條ニ曰ク年金ノ負債主ハ最終ノ
 證書ノ日附ヨリ二十八年ノ後チ自費ニテ債主ニ新證書ヲ渡スコトニ

三十年ノ時効

強ヒテ、チ得可シト

年金ニハ二ノ者アリ之ヲ注目ス可シ其一ハ年金即チ毎年年金ノ利
金ヲ求ムルノ權利ナリ其二ハ年金ノ上リ高即チ定マリタル人ニ拂
フ可キ期限ニ至リタル年金ノ利金はナリ

定マリタル人ニ拂フ可キ年金ノ利金ハ其拂方期限ヨリ算ヘ五年ヲ
以テ時効ヲ生ス(第二千二百七十七條)

年金ノ利金ヲ求ムルノ權ハ三十年ニ非サレハ時効ヲ生セス(第二千
二百六十三條)

三十年間黙過シタル年金ノ債主ハ未タ收メサル利金并ニ向後其利
金ヲ求ムルノ權ヲ失フ若シ之ニ反シテ債主ヨリ利金ノ拂ヒヲ爲
ス毎トニ正シク之ヲ收メ來リシ時ハ其拂方ハ時効ヲ斷絶ス何トナ
レハ利金ヲ拂フハ則チ年金存在ヲ認ムルノ事ニシテ又時効ニ因リ

消滅セントスル權利ノ是認ハ時効ノ進行ヲ斷絶スレハナリ(第二千
二百四十八條)

因テ茲ニ又一例ヲ舉ケ正條ニ記スル事ヲ明カニセン甲ナル年金ノ
債主アリ二十八年間怠リ無ク正シク其利金ヲ收メタリ此甲ハ其權
利ヲ行ヒ權利丈クノ事ヲ爲シタルヲ以テ時効ハ甲ニ對シ進行スル
コト無シ

然レモ若シ此ノ如クシテ向後二年ヲ過シレハ如何ナル結果ヲ生ス
ル乎乙ナル負債主或ハ甲ニ曰ハン足下カ三十年間黙過シタルヲ以
テ年金ハ時効ニ因テ消滅シタリト此負債主ノ申分ハ甚ダ不正タル
ヤ論ヲ俟タス然レモ甲ハ何チ證據トシテ負債主ノ申分ヲ退クル乎
甲ハ宜シク既ニ收取シタル利金ノ拂方ヲ乙ヨリ爲シタルヲ以テ其
黙過セサルノ證ト爲ス可キナリ然ルニ其利金拂方ノ請取證ハ負債

主ノ手中ニ在テ債主ノ有スル所ニ非ス是ニ於テカ負債主ハ必ス其
證書ヲ匿シテ顯ハサス甲ハ遂ニ負債主ノ詐詭ノ爲メニ損害ヲ被ム
ルニ至ル可キナリ

法律ハ此詐詭ノ害ヲ豫防スル爲メニ最終ノ證書ノ日附ヨリ二十八
年ノ後ハ負債主ニ迫リテ負債主ノ入費ニテ原ノ儘ノ新證書ヲ作り
渡サシムルヲ許ス斯ク二十八年目毎トニ新證書ヲ造ラシムル時
ハ甲ノ權利ハ充分ノ安全ヲ得ルナリ

若シ負債主新證書ヲ渡スヲ拒ム時ハ時効ノ期ヲ完全スル迄ニ殘
ル所ノ二十九年、三十年ノ兩年ニ於テ甲ハ負債確認ノ爲メニ裁判呼
出ヲ爲ス可シ而シテ裁判所ニ於テ甲ヲ直者ナリト宣告シタル時ハ
其裁判ヲ以テ新證書ノ用ヲ爲サシム可キナリ

〔千九百二十九號〕 年金ノ時効ハ三十年ヲ以テ期限トス而シテ其期限

ハ證書ノ日附ヨリ起算ス此起算ノ事ハ參議院ニ於テ第二千二百六
十三條ニ附テ爲シタル決議ニ出テタルヲ明瞭ナリ蓋シ其決議ノ主
意ハ二十八年ニ過クレハ債主ヨリ新證書ヲ望ムノ權ヲ生ス其二十
八年ノ起期點ト時効三十年ノ起期點ト同一ニスルニ在リ

〔附言〕 マルカヂー氏ノ說ニ年金ノ元金ノ上ニ生スル時効ハ拂方
第初年期ノ期限盡キタル日ヨリ進行ヲ始ム可シト(第二千二百六
十三條第一)此說ハ非ナリ

此決議ノ主意ハ甚ダ理論ニ適セサル者ナリ
抑、債主ノ訴ヲ起ス能ハサル間ハ決シテ其債主ニ對シテ時効ヲ進行
セシメサルヲ以テ原則トス然ルニ今年金ノ債主ハ證書ノ日附ヨリ
直ニ負債主ヲ訴ヘ得ルカ決シテ之ヲ爲スヲ得サルナリ何トナレハ
唯、債主ニハ年金ノ利金ヲ望ムノ權アルノミニシテ且ツ證書ノ日附

ノ日迄ハ利金ノ第一期未タ盡キサレハナリ○若シ原則ニ據テ法律
ヲ立ツルヲ有テハ此三十年ヲ算フルニハ證書ノ日附ヨリセスシテ
利金拂方ノ爲メニ約シタル第一期後ヨリス可シ

〔千九百三十二號〕第千二百六十三條ハ畢生間ノ年金ト無期ノ年金ノ

ラント、ハ、ベ、チ、ニ、エ、ル

二ノ者ニ適施シテ區別ヲ爲サス他又畢生間ノ年金ト無期ノ年金ト
ニハ俾シク、アレラージニ〔即チ利金〕ト唱フル民法上ノ果實ヲ生スル元

金ノ權ナルカ故ニ理ニ於テ自カラ一ナリ〔第五百八十八條ヲ推論ス〕

是ヲ以テ期限ニナリタル二ノ年金ノ利金ハ其期限ヨリ五年ヲ經テ

時効ヲ生シ〔第二千二百七十七條〕又年金即チ毎年利金ヲ望ムノ權ハ

最終ノ證書ノ日附ヨリ以後黙過三十年ニシテ時効ヲ生ス

第二千二百六十四條

〔千九百三十一號〕本篇ニ記スル所ヨリ更ニ他ノ事件ニ附テハ時効ハ

規則ハ各共事件ニ關スル篇ニ之ヲ記ス○此正條ヲ明カニ了解ス可

シ○正條ノ意味ハ時効ノ篇ニ記スル所ノ概則ハ既ニ他ニ記載シ或

ハ向來記載スル所ノ特別ノ時効ニ適施ス可カラスト謂フニ非サル

ナリ若シ然ラストセハ斷絶又ハ停止ノ理論ノ如キモ全ク特別ノ時

効ニハ用フ可キ者ニ非スト爲サ、ルヲ得サルニ至ラン是レ極メテ

奇怪ノ說ニ非スヤ故ニ正條ノ眞意ノ在ル所ヲ探ルニ本篇ニ記スル

所ノ概則アルヲ以テ他ノ或ル時効ニ別段設ケタル規則ヲ廢スルニ

ハ非スト言フニ過キサルナリ此ニ由テ之ヲ觀レハ特別ノ時効ハ一

面ハ普通法ニ從ヒ一面ハ其爲メニ設ケタル特別法ニ從フ可キナリ

例之ハ小兒出生ヲ原因トシテ起ス所ノ贈與取消ノ訴權ノ時効ハ獨

リ本篇ニ在ル斷絶ノ概則ニ據ルノミナラス第九百六十六條ニ記ス

ル特別ノ原因即チ小兒出生ニ因テ斷絶ス〔千九百五十號及ヒ第二帙

千四百九十二號本篇施行ノ二項アルヲ參觀ス可シ〕

三十年ノ時効

○第三款 十年及ヒ二十年ノ時効

第一千二百六十五條

〔千九百三十二號〕法律ハ總テノ占有主ヲ以テ盡トク同一視セス占有主ノ中ニハ他人ノ所有物タルヲ知テ之ヲ占有スル者アリ又粗疎ナル誤謬ニテ他人ノ所屬タルヲ知ラスシテ占有スル者アリ此等ノ人ト所有權ヲ得タリト自カラ信スルニ足ル可キ正當ノ理由有リテ占有ヲ得タル者トナ比較セハ初メノ二ノ者ニハ咎ム可キ所アリ左ナクトモ不注意ノ甚シキ者タルヲ免カレス又後ノ者ニ一ノ咎ム可キ所ナシ他人ノ所有スルヲ知テ占有スル者ハ自然其占有物ノ上ニ所有者ノ爲ス可キ所行ヲ爲サ、ル可シト雖モ自己ノ物トシテ占有シタル者ハ信懇ニ之ヲ保存シ家屋ヲ建築シ樹木ヲ培植シ開地乾澤ノ費ヲ出シ物件ノ保存繁殖ヲ計ル者ナリ而シテ公平ノ理ト所有物ノ利益トヲ考フルニ此所有權ヲシテ確屬スル所ナカラシム可カラサ

ルナリ故ニ第一千二百六十五條ヲ設ク其文ニ曰ク良心ニテ正^{ボンス、ホアー}因ニ據リ不動產ヲ得タル者ハ十年ノ時効ニ因リ其所有權ヲ得可シ但シ十年ノ時効ハ眞所有者不動產所在ノ控訴院管轄内ニ住居スル時ニ限ル可シ若シ此管轄外ニ住居スル時ハ二十年ニ非サレハ時効ヲ生セス

〔千九百三十三號〕第壹 評論

正條ニ不動產ヲ得ル者ハ云々ノ語ハ甚タ穩カナラス凡ソ人ノ由テ以テ占有スル所ノ原因(證書)ノ効ニ因リ權利ヲ得訖レハ時効ナル者ハ無用ノ冗具ナルノミ時効ハ他人ニ屬シタル物件ヲ得ル者ナルカ故ニ正條ノ得ル者ヲ削リ不動產ノ占有ヲ得タル者ハ云々或ハ一層簡單ニ不動產ヲ受取タル者云々ト改ム可シ

〔千九百三十四號〕第貳 十年及ヒ二十年ノ時効ノ特別ノ要件

十年及ヒ二十年ノ時効

此要件ニアリーニ曰ク良心ニニ曰ク正因

〔附言〕 證書登記ノ必要ナルヤ否ヤハ余カ登記論第五十二號ヲ參

觀ス可シ

第一 良心。良心ノ語ヲ本義ニ從テ解スレハ現在占有スル所ノ所
有ハ始メ之ヲ正當ニ得タルナリト幾分カ自カラ信スル之ヲ良心ト
謂フ其自カラ信スルノ心錯誤ニ出ルヤ否ヤヲ問ハス他人カ我ニ渡
シタル物件ハ我ニ屬スル物ナリト心ニ信シテ占有シタル時ハ是レ
我ハ良心ニテ占有スルナリ然レモ吾輩後ニ見ルカ如ク十年若クハ
二十年ノ時効ヲ發生スルニハ唯一二ノ自カラ信スルノ心アルヲ以
テ足レリトモス故ニ下ニ於テ占有主ニ法律ノ恩惠(時効ヲ謂フ)ヲ與
フルニハ如何ナル性質ヲ具備ス可キカヲ研究セン

〔千九百三十五號〕 羅馬法律ヲ見ルニ時効ヲ生スルニハ占有主ニ占有

ヲ始ムルノ時良心アルヲ以テ足レリトモス故ニ既ニ時効ヲ始メタル
上ハ假令モ其後ヲ占有物ノ占有主ノ所屬ニ非サルヲ發覺スト雖モ
時効ヲ進行ス

我古法ハ之ニ異ナリ占有ヲ得ルノ時ニ占有主ニ良心アルヲ以テ足
レリトモス其良心ヲシテ時効ノ期限中始ヨリ終リ迄繼續スルヲ
必要ナリトシタリキ

我法典ハ古ノ羅馬律ノ理論ニ據ル故ニ曰ク占有ヲ得ルノ時良心アル
ルヲ以テ足レリトモス(第二千二百六十九條)

〔千九百三十六號〕 占有主ニハ常ニ良心ノ有ル者ト推測ス故ニ占有主
十年若クハ二十年ノ時効ヲ申立ル時ハ其敵手ヨリ此占有主(申立人)
ハ占有ヲ得ルノ時物件ヲ渡シタル人ハ眞ノ所有者ニ非サルヲ知リ
居タリシ旨ヲ證ス可シ而シテ此證據ハ證書證人或ハ單一ノ推測等

十年及ヒ二十年ノ時効

總テノ方法ニテ之ヲ爲スヲ得可シ(第千三百四十八條及第千三百五十三條)

〔千九百三十七號〕第二 正因(ジユスト、チートル)

「チートル」ノ語ハ法律上ニ用フル所數種ノ意味アリ時トシテハ民法上ノ効ヲ生ス可キ或ル所爲例之ハ賣買契約ノ如キノ義ニ用フ即チ真正ノ形アル權利ノ原因(コイヌ)ヲ言フナリ又時トシテハ其所行ヲ證明スル爲メニ造リタル書附即チ證據ト爲ル可キ證書ノ義ニ用フ此兩義ノ中法律ノ本篇ニ用フル意味ハ第一ノ義ニシテ占有ノ原因ヲ言フナリ占有ノ原因トハ之ヲ詳言スルハ始メ占有主ニ物件ヲ渡ス爲メニ行フタル法律上ノ所爲ヲ謂フ

若シ原因ノ事タル自然所有權ヲ得可キ者ト正當ニ信スルニ足ル時ハ其原因(占有ノ原因)ハ正當ナリトス(ジユスト)

此原因ニ所有權ヲ移轉ス可キ有効ノ性質ヲ有スル時ハ正シク得タリト信スルノ心道理ニ適スル者タルコト其原因ニテ顯表シ且ツ之ヲ正當ニス

故ニ余此ニ解義ヲ下ス曰ク正因トハ法律上ノ所爲ニシテ之ニ由テ占有ヲ得若シ此所爲ヲシテ真正ノ所有者ト占有主ノ間ニ行ハレシメハ所有權ヲ移轉スルニ附キ法律上ニ要シタル總テノ要件ヲ具備ス可キ者ヲ謂フ

故ニ規則ヲ遵守シテ爲シタル贈與、遺囑、賣買契約、交換契約、更物辨濟(ダシヨイ、イン、ソリコトム)ノ如キハ皆ナ之ヲ正因ト謂フ

之ニ反シテ下ノ三ノ者ノ如キハ正因ニ非ス

第一 土地家屋ノ賃貸、使用貸借、附託、不動産質入

第二 法式欠缺ニ因リ効ナキ證書(第二千二百六十七條)〇贈與又ハ

十年及ヒ二十年ノ時効

遺囑ノ如キ或ル讓與ノ仕方ハ端嚴ノ者ト云フ端嚴トハ法式ヲ要ス
 ル意ニシテ證書ノ體裁法式ニ循ヘハ之ニ所有權ヲ移轉スルノ効力
 アリ若シ式ニ循ハサレハ其効力ナシ故ニ此證書ニシテ法式ニ循ハ
 サル時ハ之ヲ用ヒテ正因ト爲ス可カラサルノ規則アリ
 第三 法律ニ禁スル所ノ原因即チ無能力者ノ爲シタル贈與(第九百
 一條及第九百九條)禁止ノ攝代(シユブスチチユシヨ)即チ贈與ヲ受
 ケシ者其生存中其贈物ヲ保有シ其死後ニ嘗テ贈與者ノ定メ置キタ
 ル者ニ其贈物ヲ讓與ス可キ契約ヲ謂フ(第八百九十六條)

〔附言〕 第一項ニ掲ケタル原因ノ一ニテ物件ヲ所持スル者ハ假有
 名義ノ所持人ナレハ幾年ヲ經ルモ時効ヲ得ルヲ無シト雖モ無効
 又ハ禁制ノ原因アル者ハ唯十年若クハ二十年ノ時効ヲ得サルノ
 ミナリ

〔千九百三十八號〕

茲ニ法意ヲ説カンニ良心ニテ他人ノ物件ヲ占有ス
 ル者ハ其良心アルヲ以テ之ヲシテ時効ヲ得ルニ普通法ニ遵ハシム
 ルハ甚タ酷ナリ故ニ爲メニ時効ノ通常ノ期限ヲ短縮シテ十年トス
 然レモ人ノ輕忽爲シ易キノ誤謬ヲ賞シ益ニ不注意ヲ勸獎スルノ義ニ
 非ス占有主ニ良心アルヲ以テ時効ノ期日ヲ短縮スルハ如何ニ注意
 深キ人ト雖モ爲シ易キ誤謬ニシテ恕ス可ク正當トス可キ者アル時
 ニ限ル而シテ正因アル錯誤ハ即チ是レ恕ス可ク正當トス可キ性質
 ノ者ナリ何トナレハ例之ハ賣買契約又ハ贈與ノ如キ其性質ヲ言ヘ
 ハ所有權ヲ移轉ス可キ證書ナリ其證書ニ據テ物件ヲ占有シタル者
 其賣主又ハ贈與者ヲ眞所有者ナリト心ニ信シ且ツ賣買又ハ贈與ノ
 名アリテ占有シタル以上ハ其占有主自カラ眞ニ所有權ヲ得タリト
 信考スルハ理ノ自然ナレハナリ其信考ヲ惹起ス原因正當ナルヲ明

カナレハ其信考モ亦其正當ノ者ナリ唯、占有主ノ誤謬ハ所有者ニ非
サルノ人ヲ以テ所有者ト爲スニ在リ然レハ此場合ニ在テ其誤謬ハ
甚タ恕ス可キナリ

然レハ借地借屋契約或ハ使用貸借契約ノ如キ法律ニ於テ所有權ヲ
得可キ方法ニ非スト爲シタル原因ニ據テ人ノ物件ヲ所持スル者ハ
上文ノ占有主ト同シカラス借地人、借屋人又ハ借用人ハ法律ノ大理
原則ヲ忘ル、カ如キ甚シキ者ニ非サレハ自カラ所有者ト信スルヲ
得サルナリ斯ノ如キ重大ノ誤謬ハ法律ノ庇蔭スル所ニ非サルナリ
○又所有權ヲ得ルノ方法其有効ニ必要ナル方式ニ從ハスシテ効力
ヲ失フタル者ニ依リテ物件ヲ占有シタル者モ亦恕シ難シ例之ハ私
印證書ノ贈與ニ因テ不動産ヲ受取タル者ハ深ク考ヘサルモ自カラ
其不動産ノ所有者ト爲リシトハ信セサル可シ若シ誤テ所有者ナリ

信考

ト信スルカ如キハ非常ノ輕忽ヨリ出テタル者ニシテ其誤謬ハ恕ス
可キ者ニ非ス故ニ法律ハ之ヲ正因アル良心中ニ算入セス○例之ハ
治産ノ禁ヲ被リタル者ノ爲シタル贈與又ハ禁制ノ攝代(シユプスチ
チユシヨソ)ノ如キ法律ニ於テ禁シタル所爲ニ據リ物件ヲ占有シタ
ル者モ亦之ニ同シ治産ノ禁ヲ被ムリタル者ハ財産ヲ讓與スルノ能
力ナク禁制ノ攝代ノ効ナキハ(第八百九十六條)明瞭ニシテ之ヲ知ル
極メテ易シ然ルニ若シ此所爲ニ因テ占有シ自カラ所有權ヲ得タリ
ト信スルカ如キハ輕忽ノ甚シキ者ニ非サレハ能ハス故ニ其錯誤ハ
正當ナリト言フヲ得サルナリ

(千九百三十九號) 然レハ誤テ自カラ正因アリテ物件ヲ占有スト信ス
ル者ハ十年若クハ二十年ニシテ時効ヲ得ル乎文ヲ變シテ此問ヲ述
ブレハ曰ク有ト認メタル(誤テ正因アリト信スルヲ謂フ)正因ハ真有

十年及ヒ二十年ノ時効

ノ正因ト力ヲ同シフスル乎

羅馬律ニ於テハ正因存スト認ムル思意其發スル所ノ原因正當ナラサル時ハ正因アリト爲サス之ニ反シテ其思意正當ノ基礎アリテ發スル時ハ正因アリトス例之ハ買約ヲ爲シタルニ非スシテ物件ヲ買得タリト信スルノ思意ハ其發スル所以ノ基礎ナキ者ナリ蓋シ非常ノ粗忽ニ出ルニ非サレハ自己ノ所行ヲ誤リ爲サ、ルノ事ヲ爲シタリト信スルカ如キヲ無カル可シ故ニ此思意ハ發スル所以ノ理ナキ者ナレハ法律ハ正因アリトセス然レモ若シ占有主ノ思意重大ノ事情ヨリ發シ其事情ノ外貌タル人ノ是ニ由テ原因ノ成立アルト誤認スルモ決シテ之ヲ誹ル可キニ非サル時ハ正因アリトス例之ハ甲(イ)印ノ家ヲ買フ爲メニ乙ニ委任狀ヲ與フ然ルニ代理人(即チ乙)其家ヲ買ハスシテ一ノ賣買證書ヲ偽造シ甲ヲ欺キ(イ)印ノ家ナリトシテ他

ノ家ヲ渡ス因テ甲(イ)印ノ家ヲ買ヒ求メタリト信セリ此場合ニ於テ乙カ甲ニ示シタル偽造ノ賣買證書ト甲カ買入ノ爲メニ渡シタル代理書ハ甲ヲシテ我カ爲メ賣買契約ヲ行ヒ故ニ我ニ渡シタル家屋ハ真正ニ我ニ屬スルナリト思考セシムル正當ノ基ナリ此思意ハ原ト錯誤ニ出ルト雖モ正當ニシテ且ツ道理アリ故ニ此思意ハ正因ト力ヲ同シフス

規則ニ依準シタル遺囑ヲ受ケタル者遺囑變更ニ因リ其取消ニナリシヲ知ラス遺囑ノ物件ヲ占有スル者ニシテ時効ノ權ヲ得ル所以ハ同上ノ理由ニ據ルナリ

ボチエー氏ハ我古法ニ於テ同上ノ論理ニ據レリ
ルメートル氏ハ之ニ反シ此理論ヲ棄テ、採ラス其說ニ據レハ誤テ原因アリト信スルノ思意ハ其發スル所以ノ如何ヲ問ハス原因ト力

チ同シクス可カラス慣習ニ於テ明カニ原因アルヲ要ストルメイト
ル氏曰ク、人ヲシテ他人ノ財産ヲ得セシムル時ニ其得ル人ノ爲メニ
如何ナル者ヲ以テモ之ヲ補助スルヲ得可カラスト

〔千九百四十號〕上文兩說ノ中何レニ從フテ可ナル乎余ハルメイトル
氏ノ說ヲ以テ可トスボチエー氏ノ說ニ據レハ正因トハ知識アリ且
ツ注意深キ人ヲシテ人我ニ所有權ヲ移轉セシナリト正當ノ信心ヲ
生セシムル總テノ所爲ナリト言フニ外ナラス然ルニ彼ノリゴープ
レアムヌー氏カ立法院ニ於テ爲シタル演說ニ曰ク其性質ハ所有權
ヲ移轉ス可ク其力ハ効ヲ生ス可キ正因アルニ非サレハ何人タリト
モ良心ニテ我ハ眞所有者ナリト自カラ信シテ物件ヲ占有スル者ニ
非サルナリト此言要スルニ所有權ヲ移轉ス可キ原因ナク他ノ事實
ニ因テ發スル良心ハ所謂ル正因アル良心ニハ非サルナリト言フ意

ナリスノ如ク論スレハ法律ハ稍酷ナルニ似タリ然レモ余ハ法律ノ
眞意此ニ在リト信ス

〔千九百四十一號〕第參 十年若クハ二十年ノ時効ニ必要ナル時日
十年若クハ二十年ノ時効ハ羅馬人カ長年時効(プリスクリプシヨ、
ロンジャー、ダンボリース)ト唱フル者ノ如ク同地人ノ間ニハ十年ノ占
有ヲ繼續スルヲ以テ完全シ異地人ノ間ニハ二十年ヲ以テ完全ス○
同地人、異地人トハ何ノ謂ヒソ○如何ナル實況ニ據テ同地異地ノ別
ヲ知ル乎

羅馬律ニ於テハ同地異地ヲ分ツニ所有者ノ住所ト占有主ノ住所ノ
別ヲ問フテ其占有シタル不動産ノ在所ヲ問ハス所有者ト占有主ト
同郡ニ住居スル時ハ之ヲ同地ト謂ヒ十年ヲ以テ時効ヲ完全ス若シ
所有者ト占有主ト郡ヲ異ニスル時ハ之ヲ異地ト謂ヒ二十年ヲ以テ

十年及ヒ二十年ノ時効